

## パート 2

### 研究環境及び研究資金の状況

(裏白紙)

Q201. 研究開発にかかる基本的な活動を実施する上で、現状の基盤的経費(機関の内部研究費等)は十分だと思いますか。

回答者グループ	2017年度調査											各年の指数					指数の変化					
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	15	772	562	260	158	130	44	1,926	2.4	1.0	2.2	4.0	2.6	2.4	-	-	-0.23	-	-	-	-	-
大学等	11	675	466	206	127	110	31	1,615	2.3	1.0	2.1	3.9	2.5	2.3	-	-	-0.24	-	-	-	-	-
公的研究機関	4	97	96	54	31	20	13	311	2.8	1.3	2.7	4.6	3.0	2.8	-	-	-0.20	-	-	-	-	-
イノベーション推進グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
性別	13	693	503	231	138	115	35	1,715	2.3	1.0	2.2	4.0	2.6	2.3	-	-	-0.23	-	-	-	-	-
男性	2	79	59	29	20	12	9	211	2.7	1.1	2.4	4.5	2.9	2.7	-	-	-0.25	-	-	-	-	-
女性	1	69	61	32	18	12	0	192	2.4	1.2	2.4	4.1	2.6	2.4	-	-	-0.20	-	-	-	-	-
社長・役員・学長等クラス	1	287	208	93	46	51	13	698	2.3	1.0	2.2	3.8	2.5	2.3	-	-	-0.18	-	-	-	-	-
部長・教授クラス	1	261	176	82	57	34	22	632	2.4	1.0	2.2	4.1	2.6	2.4	-	-	-0.22	-	-	-	-	-
主任研究員・准教授クラス	10	147	113	50	34	29	9	382	2.5	1.1	2.3	4.2	2.8	2.5	-	-	-0.29	-	-	-	-	-
研究員・助教クラス	2	8	4	3	3	4	0	22	3.2	1.1	2.9	5.8	3.8	3.2	-	-	-0.60	-	-	-	-	-
その他	10	207	175	86	53	49	17	587	2.7	1.2	2.5	4.5	2.9	2.7	-	-	-0.21	-	-	-	-	-
任用あり	5	565	387	174	105	81	27	1,339	2.3	1.0	2.1	3.8	2.5	2.3	-	-	-0.22	-	-	-	-	-
任期なし	0	44	39	21	10	9	0	123	2.4	1.2	2.4	4.1	2.6	2.4	-	-	-0.20	-	-	-	-	-
業務内容別	3	53	52	25	14	13	2	159	2.6	1.3	2.5	4.3	2.9	2.6	-	-	-0.31	-	-	-	-	-
学長・機関長等	11	613	427	191	127	94	38	1,490	2.4	1.0	2.2	4.0	2.6	2.4	-	-	-0.23	-	-	-	-	-
マネジメント実務	1	62	44	23	7	14	4	154	2.4	1.0	2.2	4.0	2.6	2.4	-	-	-0.21	-	-	-	-	-
現場研究者	11	589	354	112	60	30	15	1,160	1.6	0.8	1.6	3.0	1.9	1.6	-	-	-0.22	-	-	-	-	-
大規模PIの研究責任者	0	34	23	12	13	9	1	92	2.8	1.1	2.5	5.0	3.1	2.8	-	-	-0.31	-	-	-	-	-
国立大学等	0	52	89	82	54	71	15	363	4.3	2.4	4.2	6.5	4.5	4.3	-	-	-0.28	-	-	-	-	-
公立大学	5	111	84	31	14	10	4	254	2.0	1.0	2.0	3.2	2.2	2.0	-	-	-0.29	-	-	-	-	-
私立大学	1	167	121	39	28	14	5	374	1.9	0.9	1.9	3.2	2.1	1.9	-	-	-0.20	-	-	-	-	-
第1グループ	1	193	107	51	17	25	2	395	1.9	0.9	1.7	3.3	2.2	1.9	-	-	-0.33	-	-	-	-	-
第2グループ	2	178	140	82	56	59	15	530	3.0	1.2	2.7	4.9	3.1	3.0	-	-	-0.18	-	-	-	-	-
第3グループ	1	103	55	18	12	11	3	202	1.8	0.8	1.6	3.1	2.2	1.8	-	-	-0.38	-	-	-	-	-
第4グループ	1	173	121	63	37	32	14	440	2.5	1.1	2.3	4.3	2.8	2.5	-	-	-0.23	-	-	-	-	-
理学	0	94	30	15	15	16	3	173	2.1	0.8	1.5	4.0	2.2	2.1	-	-	-0.06	-	-	-	-	-
工学	6	152	146	61	30	18	4	411	2.2	1.1	2.3	3.6	2.5	2.2	-	-	-0.29	-	-	-	-	-
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大学・公的研究機関の知財活用(企業等)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
なし(分らない)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
全回答者(属性無回答を含む)	15	772	562	260	158	130	44	1,926	2.4	1.0	2.2	4.0	2.6	2.4	-	-	-0.23	-	-	-	-	-

注1: 回答者数は、分らないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q201. (意見の変更理由)研究開発にかかる基本的な活動を実施する上で、現状の基盤的経費(機関の内部研究費等)は十分だと思いますか。

	2016	2017	差	
1	2	4	2	私立大から国立大に移ったことによる比較であるが、豊富な外部資金だけではなく、機関の内部資金に余力があるように思う。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	2	4	2	個人では無く、教室としての配分は多いと思われる。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
3	1	3	2	研究室運営のために学生の学会活動などの学外活動を行なうための経費は不十分であると感じる。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
4	4	6	2	現在デニユアトラック雇用されており、スタートアップとして十分のサポートを基盤経費として受けている。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
5	1	3	2	定められた目的に沿った運営費交付金は一定程度認められる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
6	1	3	2	交付金の配分増える(所の共通経費の吸い上げがなくなる)(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
7	2	3	1	今年度は少しましになった。(大学,第1G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
8	2	3	1	基盤経費を増やすのは難しいだろう。自分の所属する研究所では、内部努力によって無駄を省き限られた基盤経費の中でできるだけ多くの研究経費を確保する努力をしている。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
9	1	2	1	実験系の場合、基盤的経費だけで研究活動を行う事は実質的に不可能な状況にある。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
10	1	2	1	十分ではないが他大学と比較すると恵まれている。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
11	3	4	1	外部資金は十分だから(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
12	1	2	1	人員削減で少し配分額が増えた。しかし、教員あたりの学生数が増えている。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
13	1	2	1	部局単位での経費総額は十分と考えるが、部局内での配分に偏りがある。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
14	2	3	1	大学として内部経費の配算については(研究資金という面においては)年々改善していくよう取り組みがなされてきている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
15	2	3	1	若干ではあるが配分額が増加した(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
16	3	4	1	昨年より機関から研究員に配分する研究費が増加しているように思われる(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
17	4	5	1	組織統合の混乱が収束し、内部資金も多くなってきたため。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
18	1	1	0	事務職を雇うことのできる唯一の資金であるにもかかわらず、毎年減ってきている。事務仕事まで我々の仕事になってくる日も近い。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
19	1	1	0	外部資金を獲得しないと研究が立ち行かない状況。外部資金獲得が重要なのはわかるが、それに振り回されてしまうことも事実(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
20	2	2	0	毎年運営交付金が削減される一方。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
21	2	2	0	図書費等、教室共通の経費を減額すると、各教員に支払われる基盤的経費では、研究教育活動の継続は不可能と考える。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
22	1	1	0	更に年々削られている。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
23	2	2	0	経常費は徐々に減額されているので、研究費としての依存度は急減している(既に、当てにされていない)。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
24	1	1	0	変更はしていないが年々一般運営財源が減らされていくのはどうかと思う。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
25	4	4	0	他大に比べると良いのだと思う。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
26	1	1	0	競争的基金がなくとも、ある程度の研究は進められるようにするべきである。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
27	1	1	0	昨年よりも悪くなっているので本当は1より低い0があれば選びたいくらいである。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
28	1	1	0	年々減っている(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
29	2	2	0	昨年よりも、削減が進んだ。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
30	1	1	0	科研だけに頼っていると、長期的な視点に立った萌芽的な研究ができないです。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
31	2	2	0	減少し続けている。来年はかなり減る。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
32	2	2	0	研究費は各自に潤沢に交付すべき。評価を厳しくする事で研究費の無駄を無くす。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,女性)
33	1	1	0	益々減少している(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
34	1	1	0	全く不十分(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
35	1	1	0	教育に必要なパソコンやプリンターのランニングコストでおわる。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
36	1	1	0	0円です。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
37	1	1	0	内部研究費は年々減少傾向にあり、現状ではほとんどない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
38	2	1	-1	基盤的経費がますます減少している。(大学,第1G,その他,男性)

39	2	1	-1	さらに削減されており、実質国内旅費でなくなってしまう。(大学、第1G、理学、主任研究員・准教授クラス、男性)
40	3	2	-1	運営費だけでは研究はできず、外部資金の獲得は必須である。(大学、第1G、理学、研究員・助教クラス、男性)
41	3	2	-1	運営費交付金の削減の影響が出ている。(大学、第1G、工学、部長・教授等クラス、男性)
42	3	2	-1	自由な発想に基づく新しい研究を進められない。(大学、第1G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
43	2	1	-1	運営費は教員単位で支給されているはずなのにまとめて研究室に配分される形になっている。そのため助教は自由に使用しづらい。(大学、第1G、農学、研究員・助教クラス、女性)
44	2	1	-1	運営費交付金が3割減少し、事務員の人件費の支払いに事欠くようになった。競争的資金を獲得していないと、基本的な研究活動ができなくなった。さらに、装置の保守契約のような競争的資金では支出できない経費が計上できなくなった。(大学、第1G、保健、主任研究員・准教授クラス、女性)
45	3	2	-1	教育を中心とした組織の仕事が増えており、競争的資金でない基盤研究費の増額を望む。(大学、第2G、部長・教授等クラス、男性)
46	2	1	-1	大学の財政状況は年々厳しさを増しているため。(大学、第2G、理学、部長・教授等クラス、男性)
47	4	3	-1	大学自体の資金の減少による。(大学、第2G、理学、部長・教授等クラス、男性)
48	5	4	-1	基盤経費が減少した。(大学、第2G、理学、部長・教授等クラス、男性)
49	2	1	-1	年々減少しているが、ついに部局間の配分も成果主義となった。これでは研究費を得られる研究者がさらに配分を受けるようになり、特に工学部・医学部に予算が集中することになるだろう。基盤研究費は広く配分することで長期的視点の研究の芽を保護するべきと考えている。(大学、第2G、理学、研究員・助教クラス、男性)
50	3	2	-1	毎年基盤的経費の削減が続いており、今年度は大きな削減があった。(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
51	2	1	-1	基盤的経費が大幅に削減され、極めて憂慮すべき状況である。(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
52	5	4	-1	基盤経費が削減されている(大学、第2G、工学、部長・教授等クラス、男性)
53	2	1	-1	本学の教育改革後に運営費交付金が更に減額されるとともに、学生経費が特に大きく減額された。この現状は、指導する学生を増やさない方が研究室運営がし易い状況となっている。(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
54	4	3	-1	間接経費負担の増大に伴う研究室配分額の減少(大学、第2G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
55	2	1	-1	年々支給額が減少しているため。(大学、第2G、農学、主任研究員・准教授クラス、男性)
56	2	1	-1	研究大学として我々に求められている業績を、現状の基盤的経費で挙げられる訳がありません(大学、第2G、農学、研究員・助教クラス、男性)
57	3	2	-1	外部資金の獲得を研究費にあてることが大きく期待されるようになっている(内部では足りない)(大学、第2G、保健、主任研究員・准教授クラス、男性)
58	2	1	-1	機関の内部研究費は相変わらず低い。(大学、第2G、保健、研究員・助教クラス、女性)
59	3	2	-1	状況は悪化しつつある(大学、第3G、社長・学長等クラス、男性)
60	2	1	-1	設置者から措置される運営費交付金の額は殆ど増えない、あるいは漸減している一方で、人件費の増加や、電子ジャーナル・データベース等の基盤整備費が高騰しており、その分、教員の基盤研究費および大学の戦略的研究経費等に使える比率が大幅に減少している。外部資金の間接経費も、科研費を除いては内数であり、研究の基盤整備をする上では不十分である。(大学、第3G、社長・学長等クラス、男性)
61	2	1	-1	大学の研究助成金がほぼゼロとなった。(大学、第3G、理学、部長・教授等クラス、男性)
62	3	2	-1	研究費のベースが毎年減っている。外部資金がなくなると、研究自体(学生が携わっているものも含め)が中断する場合もある。(大学、第3G、工学、社長・学長等クラス、男性)
63	3	2	-1	一時期落ち着いていたが、また減りはじめた。(大学、第3G、農学、部長・教授等クラス、男性)
64	2	1	-1	機関の内部研究費はほぼ無く、外部資金を獲得しなければ、研究活動が出来ない。(大学、第3G、農学、研究員・助教クラス、男性)
65	3	2	-1	増大する事務作業に比べると、相対的にきびしくあります。(大学、第3G、保健、部長・教授等クラス、男性)
66	2	1	-1	大学の経営が傾き、研究部門に配分される経費が減っているため。(大学、第3G、保健、主任研究員・准教授クラス、男性)
67	2	1	-1	学内からの基盤的経費だけでは何もできない。(大学、第3G、保健、研究員・助教クラス、男性)
68	3	2	-1	昨年度は科研費がありあまり気にならなかったが、科研費がないとかなり研究費が足りないと感じたため。(大学、第3G、保健、研究員・助教クラス、男性)
69	5	4	-1	財政改善のため、これまで手厚く配分していた基盤的経費の配分額を見直して、職階により減額した(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
70	5	4	-1	本学は件の理解があって今のところ、国立に比べ良いと感じている。(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
71	2	1	-1	昨年度に比べてH29年度の基盤研究費は、半額になった。(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
72	2	1	-1	内部研究費だけでは研究はできない。(大学、第4G、部長・教授等クラス、男性)
73	2	1	-1	年々、減少している。研究室への研究費としての配分は、数年内に0になると聞いている。(大学、第4G、理学、主任研究員・准教授クラス、男性)
74	2	1	-1	教育研究活動で配分される研究費は3年前の半分になりました。大学全体の収益は増えています。(大学、第4G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
75	5	4	-1	年々減らされています(大学、第4G、工学、主任研究員・准教授クラス、女性)
76	5	4	-1	本学が現在学部再編で混乱しており、その影響が予算配分にも現れているように感じているため。(大学、第4G、工学、研究員・助教クラス、男性)
77	3	2	-1	今年度より基盤的経費が減額されたため。(大学、第4G、工学、研究員・助教クラス、男性)
78	2	1	-1	運営交付金は年々漸減している。(大学、第4G、農学、部長・教授等クラス、男性)
79	4	3	-1	学内公募の研究費等が削減される傾向にあるため(大学、第4G、農学、研究員・助教クラス、男性)

80	2	1	-1	金額的に人件費を賄うことができない(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
81	4	3	-1	毎年削減されている(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
82	2	1	-1	人員が少ない(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
83	2	1	-1	大学から配分される研究費が2年連続で75%カット(25%カットではない)されている現状は教職員皆が辛いと感じている。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
84	2	1	-1	法人化後の経費効率化の影響は多大であり,組織存続の限界に近いのではないかと。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
85	2	1	-1	運営費交付金の削減によって,基盤的経費が非常に少なくなっている。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
86	2	1	-1	放射光やJ-PARCなどの大型施設の運転経費(特に電気代)が,基本的な研究活動を実施する上での基盤的経費に大きな負荷を与え続けている。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
87	3	2	-1	基盤的経費が減少している。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
88	2	1	-1	運営費交付金の削減の影響を受け,減少している。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
89	2	1	-1	年々減っていくのは仕方ないが,さすがに個人への割り当て研究費が6万円というのはいか。物品は買えない。学会発表の出張すら満足にできない。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
90	5	4	-1	毎年削られている(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
91	2	1	-1	予算減に伴って年々減少しており,最早「少なすぎる」状況。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
92	2	1	-1	運営費交付金が減額され続けて,研究機関からの内部研究費は殆ど期待できない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
93	5	4	-1	運営費交付金が一様に減少している(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
94	2	1	-1	本年度の所長裁量経費が9月24日現在未だ施行されていません。また,〇〇研究開発費も8月まで採択が決定されませんでした。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
95	3	2	-1	基盤的な研究資金は減っている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
96	2	1	-1	基盤的経費の一層の削減があったため。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
97	2	1	-1	外部資金がなければ研究資金がほぼないという状況。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
98	2	1	-1	ひも付きの予算が増えてきた。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
99	3	2	-1	前年より減少した。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
100	4	2	-2	運営費削減で配分が減り個人の研究費としては使いづらい(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,女性)
101	4	2	-2	年々減少傾向にあり,外部資金がなくなると不十分と感じます(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
102	4	2	-2	部局の予算縮小に伴い,内部研究費が大幅に縮小されたため。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
103	4	2	-2	全学で減額された(40万円→25万円)(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
104	5	3	-2	減額された(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
105	5	3	-2	一部のプロジェクトに集中している傾向がみられるため(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
106	6	4	-2	年々,配分額が減少しているので,このペースで減っていくと,近い将来足りなくなると思います。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
107	4	2	-2	施設の老朽化で,突然の故障による出費などに日々悩んでいる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
108	5	3	-2	へんなどころにお金が使われていて,真に必要と思われるところに予算が回っていない気がする。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
109	5	3	-2	創造的な研究や,先を見据えた研究に充てる費用が少ないと感じる。具体的なニーズがないとお金が見つからないことが多い。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
110	6	3	-3	予算配分が流行の研究に集中しすぎている(大学,第1G,研究員・助教クラス,男性)
111	5	2	-3	できれば数回国内出張できる程度の校費(内部研究費)がほしい。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
112	4	1	-3	機関からの配分はないに等しい。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
113	4	1	-3	赤字のため,研究費大幅減額となった(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
114	4	1	-3	ボトムアップのためには基盤的経費が必須。15年位前の1/5以下になっているようでは日本の将来は暗い。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
115	4	1	-3	本年度から財政状況に対応する施策により,研究費は大きく削減された。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
116	4	1	-3	研究成果の公開だけで内部研究費が無くなったため(昨年度の成果を公開した結果)。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
117	5	2	-3	外部資金を除くと,研究活動に十分な資金ではない。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
118	5	2	-3	年々国からの交付金がぐが減少しているため(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
119	6	2	-4	自分の場合は科研費があるからいいが,研究をしていこうとなると,あきらかに不十分さがわかる。ただし,現状研究費を使う暇もなく多忙さを抱えているが。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,女性)
120	6	1	-5	研究室スタッフの人員が増えたが,それに伴う経費の増加が不十分のため(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
121	6	1	-5	大学からそれなりに支給されているが不足。授業料を考えると贅沢も言えない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)

Q202. 研究者の研究時間を確保するための取組(組織・マネジメントの工夫、研究支援者の確保等)は十分だと思いますか。

回答者グループ	2017年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	12	653	714	338	149	62	13	1,929	2.2	1.2	2.4	3.7	2.4	2.2	-	-	-0.21	-	-	-	-	-	
大学等	7	562	588	281	125	51	12	1,619	2.2	1.2	2.4	3.7	2.4	2.2	-	-	-0.20	-	-	-	-	-	
公的研究機関	5	91	126	57	24	11	1	310	2.3	1.4	2.5	3.8	2.6	2.3	-	-	-0.25	-	-	-	-	-	
インバウンジョン係属グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性別	9	563	646	305	137	56	12	1,719	2.3	1.3	2.4	3.8	2.5	2.3	-	-	-0.21	-	-	-	-	-	
男性	3	90	68	33	12	6	1	210	1.9	1.0	2.0	3.3	2.1	1.9	-	-	-0.21	-	-	-	-	-	
女性	1	18	74	62	30	8	0	192	3.3	2.3	3.4	4.7	3.3	3.3	-	-	0.02	-	-	-	-	-	
社長・役員、学長等クラス	3	240	275	114	43	22	2	696	2.1	1.2	2.3	3.4	2.2	2.1	-	-	-0.15	-	-	-	-	-	
部長、教授クラス	2	263	209	91	47	16	5	631	2.0	1.0	2.1	3.4	2.2	2.0	-	-	-0.24	-	-	-	-	-	
主任研究員、准教授クラス	5	128	143	66	28	16	6	387	2.3	1.3	2.4	3.8	2.7	2.3	-	-	-0.33	-	-	-	-	-	
研究員、助教クラス	1	4	13	5	1	0	0	23	2.3	1.9	2.6	3.4	3.0	2.3	-	-	-0.74	-	-	-	-	-	
その他	6	155	200	131	69	29	7	591	2.8	1.6	2.8	4.5	2.9	2.8	-	-	-0.16	-	-	-	-	-	
任用あり	6	498	514	207	80	33	6	1,338	2.0	1.1	2.2	3.3	2.2	2.0	-	-	-0.21	-	-	-	-	-	
任用なし	0	10	42	42	23	6	0	123	3.6	2.5	3.7	4.9	3.4	3.6	-	-	0.12	-	-	-	-	-	
業務内容別	2	18	74	43	21	3	1	160	3.0	2.2	3.1	4.4	3.2	3.0	-	-	-0.20	-	-	-	-	-	
学長・機関長等	8	570	536	232	95	48	12	1,493	2.1	1.1	2.2	3.4	2.3	2.1	-	-	-0.25	-	-	-	-	-	
マネジメント実務	2	55	62	21	10	5	0	153	2.0	1.2	2.2	3.3	2.1	2.0	-	-	-0.11	-	-	-	-	-	
現場研究者	2	420	424	191	88	35	11	1,169	2.2	1.2	2.3	3.6	2.4	2.2	-	-	-0.19	-	-	-	-	-	
大規模PIの研究責任者	1	29	38	14	7	3	0	91	2.2	1.3	2.4	3.5	2.4	2.2	-	-	-0.21	-	-	-	-	-	
国立大学等	4	113	126	76	30	13	1	359	2.4	1.3	2.5	4.0	2.6	2.4	-	-	-0.26	-	-	-	-	-	
公立大学	0	89	94	41	22	10	3	259	2.3	1.2	2.4	3.8	2.6	2.3	-	-	-0.28	-	-	-	-	-	
私立大学	1	130	135	76	20	11	2	374	2.1	1.2	2.4	3.7	2.3	2.1	-	-	-0.17	-	-	-	-	-	
第1グループ	2	146	139	74	27	8	0	394	2.0	1.1	2.3	3.6	2.3	2.0	-	-	-0.22	-	-	-	-	-	
第2グループ	4	181	199	79	47	17	5	528	2.2	1.2	2.4	3.7	2.4	2.2	-	-	-0.17	-	-	-	-	-	
第3グループ	1	77	70	30	19	5	1	202	2.1	1.1	2.2	3.6	2.5	2.1	-	-	-0.36	-	-	-	-	-	
第4グループ	2	167	154	67	32	13	6	439	2.1	1.1	2.2	3.5	2.4	2.1	-	-	-0.23	-	-	-	-	-	
理学	0	84	64	17	5	3	0	173	1.4	0.9	1.7	2.9	1.7	1.4	-	-	-0.25	-	-	-	-	-	
工学	1	147	156	74	21	15	3	416	2.1	1.2	2.3	3.5	2.3	2.1	-	-	-0.22	-	-	-	-	-	
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学・公的研究機関等 知財活用(企業等)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
全回答者(属性無回答を含む)	12	653	714	338	149	62	13	1,929	2.2	1.2	2.4	3.7	2.4	2.2	-	-	-0.21	-	-	-	-	-	

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q202. (意見の変更理由)研究者の研究時間を確保するための取組(組織マネジメントの工夫、研究支援者の確保等)は十分だと思いますか。

	2016	2017	差	
1	1	4	3	私立大から国立大に移ったことによる比較であるが、人員の確保が十分に行われており、研究者の研究時間を確保するうえで効率化が図られている。一方で、適切な研究執行のためのコンプライアンス講習の機会が増えている。重要なことではあるが、煩雑化した講習項目の一層の効率化を望む。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	1	3	2	大学による違いが大きく、現在の所属機関ではその取り組みがなされていると思うため(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
3	1	3	2	クォーター制の導入により、講義を特定の時期に固められるようになった。講義のない時期に、じっくり研究活動ができる。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
4	1	3	2	URA採用や事務の処理委託が始まった(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
5	1	3	2	補佐員を雇用できるようになったから(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
6	2	4	2	出席しなければいけない会議の数が減った(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
7	1	3	2	外部資金さえ取得していれば、研究支援者を確保することは可能。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
8	1	2	1	教育や研究のための予算獲得に優秀な研究者の貴重な時間がすり減らされている。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
9	2	3	1	研究支援者の採用が増えてきたため。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
10	3	4	1	研究時間を確保するため、大学内の各種委員会の見直しを行い、業務の効率化を図った。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
11	2	3	1	URA組織が充実してきて、外部資金獲得時に支援するメニューが充実してきた。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
12	1	2	1	最近、所属部局では、一人に雑用を集中させないような取り組みができ、雑用が減る方向に変化した。しかし、まだ取り組みは不十分。日本の大学教員は本来研究者であるのに雑用にまみれすぎている。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
13	2	3	1	URA活用の機会を得て、ずいぶんと負荷が小さいことを知った。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
14	2	3	1	会議時間の短縮化は行われているが、研究支援者を確保することは難しい。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
15	1	2	1	若干組織改編が行われ、研究者に対する教育負荷の低減が考案された。しかしまだまだ未熟な制度であり、今後さらに上手いマネジメントを考案すべきである。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
16	1	2	1	取り組みはかなりなされているとは感じるが、財政が厳しく人員維持が難しいことで、限界を感じる。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
17	4	5	1	昨年と比較して学生指導業務が減り、研究時間が拡大できた。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
18	1	2	1	授業の多さに伴ってそれに付随する雑務のため、授業開催期間中は土日祝日に研究時間を設けている。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
19	2	3	1	研究費確保に関してサポートが強化されてきている。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
20	2	3	1	基本的には予算に比例(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
21	3	4	1	〇〇【公的研究機関名】では、研究センターに推進室を設けたり、契約等の事務部門が研究者をサポートする体制をとっている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
22	2	2	0	大学の運営や事務的な仕事が多く、研究なんてほとんどできない。ちなみに、41歳で学部の入試の委員長までやっている。これは若手研究者というより若手事務長である。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
23	1	1	0	仕事の量は減らないのに職員が減っている(減らしている)のが問題(大学,第1G,研究員・助教クラス,男性)
24	1	1	0	研究支援者は、時間を確保するという目的には不十分である。(大学,第1G,その他,男性)
25	1	1	0	専門の事務員確保などが急務と思います。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
26	1	1	0	煩雑な調査、報告、雑用が多い。ぼんやりと研究アイデアを温める暇もない。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
27	1	1	0	上記と同じく昨年よりも悪くなっているのが本当は1より低い0があれば選びたいくらいである。教授はもっとプロフェッショナルな仕事に専従させるべきところを、若手不足のために動員されている状況が多く、リソースの有効な使い方がなされていないと強く感じる。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
28	3	3	0	上司にあたる教授・准教授クラスがだれになるかでかなり変わる。十分取り組まれている人もいれば、全くそうでない人もいるので一概に言えない。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
29	1	1	0	どんどん悪化しているように見えます。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
30	1	1	0	悪化している。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
31	1	1	0	年々、個人の研究活動に割ける時間は減少している。改善の傾向は見られない。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
32	1	1	0	組織として頑張っているようだが、結果につながっていない(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,男性)
33	1	1	0	人員不足は否めない。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
34	1	1	0	意義の分からない雑用が特に最近多い。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
35	1	1	0	上司・同僚に邪魔をされる。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,女性)
36	2	2	0	事務対応が大変で、研究現場に降り注ぐのは多すぎる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
37	1	1	0	コストカットが前面に出ており、その点については下降線をたどっている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)



38	1	1	0	事務作業が多すぎる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
39	1	1	0	管理業務に追われ自らの研究時間を確保することが困難です。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
40	1	1	0	マネジメントのための書類書きが増えてきた。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
41	3	3	0	研究支援者は確保できても,任期制であるため,その体制をずっと維持することができない(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
42	1	1	0	全くもって不十分と感じます。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
43	1	1	0	研究に要する時間より機器の修理,保守管理に割かれる時間のほうが多い。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
44	3	2	-1	各種大学改革のための業務時間が一時的に増えている(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
45	3	2	-1	運営,報告書等の書類仕事は増える一方です。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
46	2	1	-1	教授の先生方は,研究時間をほとんど確保できていないように見えます。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
47	5	4	-1	若手研究者の支援のところで書いたが,博士課程後期の学生に対するRA雇用は年間100万円が上限であるという規定がある。この規定が取り除かれれば,研究支援者の確保がより容易になる。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
48	5	4	-1	教授が研究活動に直接関わる機会が少なくなっているように思われる。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
49	4	3	-1	私自身も含め,幸いにして十分な研究時間を確保できている研究者はいないことはないが,周囲の話を聞くと,学内・学会業務等に忙殺されて十分な研究時間が取れないという人が多い。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
50	5	4	-1	毎年研究以外の所用が増えているから。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
51	3	2	-1	最近,研究科として必要な業務のために,自分の研究時間や学生指導の時間を確保できない日が増えた。秘書を雇うことを検討しているが,長期での雇用を保証できないので足踏みしている。大学全体で長期の雇用保障をして,部局間で融通するような仕組みがあれば助かる。(大学,第1G,農学,研究員・助教クラス,女性)
52	2	1	-1	准教授への昇任を機に,学内マネジメントに関与する機会が増えた結果として,研究時間が明らかに減少している。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
53	3	2	-1	基盤的経費の削減に伴い,授業を補助するTAの採用も減っている。加えて,教育・研究に関わるさまざまなプログラムを抱え込み,その対応のため研究に当てられる時間は確実に減ってきている。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
54	3	2	-1	ポスト削減と外部資金獲得とにより,研究時間の確保がますます困難になっている(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
55	3	2	-1	忙しくなっており,研究時間の確保が難しくなっている。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
56	3	2	-1	とにかく雑務が多いため,事務員が少ない。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
57	5	4	-1	研究者個人の外部資金に依存している。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
58	2	1	-1	事務作業・運営のための活動が増加している(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
59	2	1	-1	時々,研究以外の雑用を本務だと思っているのではないかと思える会議等が増えすぎる。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
60	2	1	-1	昨年度より,さらに学内委員会業務が増加したため(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
61	2	1	-1	組織の改編が頻繁に行われており,落ち着いて研究に取り組む時間を確保できない。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
62	3	2	-1	授業担当教などのバランスがあまり考慮されていない(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
63	4	3	-1	大学改革により教育デューティーが増えた。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
64	2	1	-1	研究以外の業務が増えている。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
65	3	2	-1	教員補充がなく,講義の引継ぎで精一杯である。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
66	2	1	-1	「これも教員の仕事?」と思うことが,正直,多いと感じる。研究は小間切れの時間ではなかなか続かず,まとまった時間の確保が必要である。たとえば,学生のための各種プログラムに従事する専任の教員がいてもいいと思うし,学部と大学院で教員を分けるとも良いとさえ思う。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
67	3	2	-1	学生教育が重要視されている。(大学,第2G,保健,社長・学長等クラス,男性)
68	2	1	-1	人員が減っていくばかりで,雑務が増えるので不自由を感じる(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
69	2	1	-1	長年の運営交付金の削減により,研究を支える事務体制が脆弱であり,その分の事務作業等で教員が多くの研究時間を割かれているのが実態である。学内の会議等の効率化には限界があり,研究支援体制の根本的な改善が必須の課題である。研究支援者(研究支援課事務担当者も含む)の労働時間も過剰となっている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
70	2	1	-1	大学の会議等雑用が多すぎる。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
71	3	2	-1	人員削減によって,研究以外の作業量が格段に増えている。(大学,第3G,工学,社長・学長等クラス,男性)
72	3	2	-1	退職した技官の無補充など,苦しい状況が続いているように思われる。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
73	4	3	-1	事務的な調査依頼が増えているように感じる(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
74	2	1	-1	国立大学では教員を含む全ての職員の人員削減が行われており,研究者の研究時間は奪われつつある(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
75	2	1	-1	年々雑務が増えている。研究費だけでなく研究時間も削られている。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
76	2	1	-1	ポイント制導入によって,悪化(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
77	2	1	-1	教員数の不足から,一人当たりの事務作業の負担が重く,十分な研究時間の確保はなされていないと感じる。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
78	3	2	-1	大学改革などの手続きに時間をとられ,研究のための時間の確保が難しくなっているのではないかと。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
79	2	1	-1	業務量が多いため,研究は時間外になります。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)

80	2	1	-1	種々の取組を行っているが、基盤的財政状況の悪化に追いつかない状況が続いているため。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
81	3	2	-1	研究以外の業務が増えているのは間違いないので。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
82	3	2	-1	各学部在一定の財務削減依頼をしており,研究支援者の削減が対象となっている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
83	3	2	-1	ますます状況が悪くなっているにも関わらず取り組みは変わらない(大学,第4G,部長・教授等クラス,女性)
84	2	1	-1	資金の獲得のために研究時間が大きく割かれている。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
85	3	2	-1	研究補助者(生物実験・PC関連)の後任の採用が凍結されているので。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
86	2	1	-1	研究する時間がほとんどとれていない。研究支援者を配置する制度が廃止される方向にある。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
87	2	1	-1	取り組みはあるが,そのレベルにある人材が派遣されるとは限らない。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
88	2	1	-1	どの国立大学法人の教員も組織マネジメントに巻き込まれすぎて疲弊している。極めて悪い状況。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
89	3	2	-1	教育改革の業務が学内で増えてきたため。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
90	4	3	-1	教員が十分に補充されていない状況が続いており,担当講義数の増加や委員会等の負荷が増えていると感じる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
91	3	2	-1	事務員の雇用時間が減ったため(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
92	3	2	-1	人員が減り,一人あたりの仕事量が増えている。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
93	2	1	-1	獣医学における参加型臨床実習が始まるため,診療活動にとられる時間が増えてさらに研究できる時間が減った(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,男性)
94	2	1	-1	組織のマネジメントが全く戦略的ではない。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
95	2	1	-1	収益重視が徹底されているため,どんどん研究時間を削らなくてはならない状況が深刻化している。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
96	2	1	-1	どうもできない,時間がなさすぎる。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
97	3	2	-1	講師となり,やるべきことが増えた。”経験”という名目で,それまでシニア教員が行っていた事項を若手教員に任せる風潮がある。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
98	3	2	-1	研究以外の時間が増えるのみである。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
99	3	2	-1	基盤経費の削減が,特に事務系における研究者支援者の確保を困難にしている(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
100	3	2	-1	様々な取組が功を奏していない。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
101	3	2	-1	人が増えず,仕事が増えている(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
102	2	1	-1	無駄な会議が多すぎ,事務部門も含めて時間がかかり浪費されている。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
103	2	1	-1	研究そのものではなく管理的な業務が増え続け,研究そのものに充てる時間は,時間外労働やサービス残業で確保するしかない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
104	3	2	-1	研究支援者の確保は予算次第のため,予算が減っていけば,当然十分には充て出来なくなっている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
105	2	1	-1	事務支援者が削減されて研究職員への事務的負担が増える傾向にある(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
106	2	1	-1	中期計画等の設定により,研究以外の業務へのエフォートが増している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
107	4	3	-1	実効性の少ない細かすぎる業務があると思われる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
108	3	2	-1	他大学に比べて科研費書類のケアが薄い。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
109	2	1	-1	ワークライフバランスが重視される一方,管理業務は横ばいか寧ろ増加傾向にあり,個人の研究時間は減少の一途。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
110	3	2	-1	以前より仕事の量が増えたため。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
111	2	1	-1	組織改編が頻繁にありすぎる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
112	3	2	-1	研究支援者の減少,事務的業務の増加(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
113	2	1	-1	業務量が増え,研究に割く時間が減っている実感があるが,改善がなかなか見込めない。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
114	5	3	-2	研究とマネジメントは両立しないとと思う。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
115	3	1	-2	研究支援者は基本,自前の資金で確保しなければならず,組織からの支援は全くない(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
116	4	2	-2	部局内での自らのポジションが変わり,新たなポジションから見たときに取り組みは不十分だと感じたため。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
117	5	3	-2	経費節減のために,非常勤講師を減らして専任教員の教育負担を増やす方向になっている。結果として研究時間の確保が難しくなる。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
118	5	3	-2	着任2年目でマネジメントが増えてきたため(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
119	3	1	-2	事務職員が不足していると感じます。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
120	4	2	-2	業務や会議が増えている。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)

121	3	1	-2	新学部開設に伴い、通常の業務時間内では明らかに対応できない仕事量がきており、研究の時間を圧迫している。(大学、第3G、理学、研究員・助教クラス、男性)
122	4	2	-2	医学部のカリキュラム変更に伴い、研究時間が減少した。(大学、第3G、保健、主任研究員・准教授クラス、男性)
123	4	2	-2	書類作成、コンプライアンス遵守のための作業などに時間がとられ過ぎである。(大学、第4G、社長・学長等クラス、男性)
124	3	1	-2	本学では各教員は独立しているが、大学のマネジメント業務が増えると研究をする時間が取れなくなり、研究室には教員一人しかいないので研究時間が確保できなくなり、研究室の体制が不十分になる。(大学、第4G、農学、部長・教授等クラス、男性)
125	3	1	-2	アウトリーチへの参画、セキュリティ教育など、多くの要求に応えるため、研究時間の確保が年々困難になってきている。(公的研究機関、部長・教授等クラス、男性)
126	4	2	-2	この点では、非常に悪化しているのを感じる。(公的研究機関、主任研究員・准教授クラス、男性)
127	3	1	-2	所属機関の規定によるものですが、物品の価格に限らず、複数の見積書が必要で購入の手続きに非常に時間がかかっています。(公的研究機関、研究員・助教クラス、男性)
128	4	1	-3	大型予算をとっても事務手続きに時間がかかりすぎて、効率的でない。(大学、第3G、工学、主任研究員・准教授クラス、男性)
129	4	1	-3	事務的な仕事が増える一方です(公的研究機関、研究員・助教クラス、女性)
130	6	1	-5	教授職は、運営に関する会議が多い。(大学、第1G、工学、部長・教授等クラス、男性)

Q203. 研究活動を円滑に実施するための業務に従事する専門人材(リサーチ・アドミニストラター等)の育成・確保は十分に行われていると思いますか。

回答者グループ	2017年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	78	599	646	323	207	69	19	1,863	2.5	2.5	4.1	2.5	2.5	-	-	-	-0.03	-	-	-	-		
大学等	59	500	535	265	185	64	18	1,567	2.5	2.5	4.2	2.5	2.5	-	-	-	-0.03	-	-	-	-		
公的研究機関	19	99	111	58	22	5	1	296	2.1	2.4	3.7	2.2	2.1	-	-	-	-0.02	-	-	-	-		
インバウンジョン係属グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
性別	67	512	583	295	187	67	17	1,661	2.5	1.4	2.6	2.5	2.5	-	-	-	-0.01	-	-	-	-		
男性	11	87	63	28	20	2	2	202	2.0	1.0	2.0	2.2	2.0	-	-	-	-0.25	-	-	-	-		
女性	3	20	66	47	43	14	3	190	3.6	2.4	3.7	3.4	3.6	-	-	-	0.20	-	-	-	-		
社長・役員、学長等クラス	13	230	240	116	71	26	3	686	2.3	1.2	2.5	4.0	2.3	-	-	-	0.02	-	-	-	-		
部長、教授クラス	40	219	199	94	54	17	10	593	2.2	1.1	2.3	3.8	2.4	-	-	-	-0.10	-	-	-	-		
主任研究員、准教授クラス	21	124	131	61	38	11	6	371	2.4	1.2	2.4	4.0	2.5	-	-	-	-0.11	-	-	-	-		
研究員、助教クラス	1	6	10	5	1	1	1	23	2.3	1.6	2.6	3.8	3.0	-	-	-	-0.65	-	-	-	-		
その他	30	137	206	114	73	30	7	567	2.9	1.7	2.9	4.5	2.8	-	-	-	0.05	-	-	-	-		
任用あり	48	462	440	209	134	39	12	1,296	2.3	1.2	2.4	3.9	2.3	-	-	-	-0.05	-	-	-	-		
任用なし	1	14	39	32	28	9	0	122	3.7	2.4	3.8	5.4	3.4	-	-	-	0.22	-	-	-	-		
業務内容別	4	24	56	44	26	7	1	158	3.2	2.1	3.3	4.8	3.1	-	-	-	0.13	-	-	-	-		
学長・機関長等	67	517	495	224	133	49	16	1,434	2.3	1.2	2.3	3.8	2.3	-	-	-	-0.09	-	-	-	-		
マネジメント実務	6	44	56	23	20	4	2	149	2.5	1.4	2.6	4.2	2.4	-	-	-	0.12	-	-	-	-		
現場研究者	39	341	372	208	146	49	16	1,132	2.7	1.4	2.7	4.4	2.6	-	-	-	0.01	-	-	-	-		
大規模PIの研究責任者	5	31	30	8	13	4	1	87	2.4	1.2	2.4	4.2	2.6	-	-	-	-0.19	-	-	-	-		
国立大学等	15	128	133	49	26	11	1	348	2.1	1.1	2.2	3.3	2.2	-	-	-	-0.12	-	-	-	-		
公立大学	5	75	73	45	46	9	6	254	2.9	1.4	2.9	4.9	3.0	-	-	-	-0.09	-	-	-	-		
私立大学	19	106	127	64	41	14	4	356	2.6	1.4	2.6	4.2	2.5	-	-	-	0.06	-	-	-	-		
第1グループ	7	140	133	57	40	16	3	389	2.3	1.2	2.3	3.9	2.4	-	-	-	-0.15	-	-	-	-		
第2グループ	27	169	184	85	48	16	3	505	2.3	1.2	2.4	3.8	2.2	-	-	-	0.06	-	-	-	-		
第3グループ	15	69	56	29	25	4	5	188	2.4	1.1	2.4	4.3	2.4	-	-	-	0.03	-	-	-	-		
第4グループ	17	145	145	65	45	17	7	424	2.4	1.2	2.4	4.1	2.5	-	-	-	-0.12	-	-	-	-		
理学	5	67	65	20	12	4	0	168	1.9	1.0	2.1	3.2	1.9	-	-	-	-0.06	-	-	-	-		
工学	14	146	139	68	33	15	2	403	2.2	1.2	2.3	3.8	2.3	-	-	-	-0.05	-	-	-	-		
農学	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大学・公的研究機関等 知財活用(企業等)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
なし(分からない)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
全回答者(属性無回答を含む)	78	599	646	323	207	69	19	1,863	2.5	1.3	2.5	4.1	2.5	2.5	-	-	-	-0.03	-	-	-		

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除いたもの。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q203. (意見の変更理由)研究活動を円滑に実施するための業務に従事する専門人材(リサーチ・アドミニストレーター等)の育成・確保は十分に行われていると思いますか。

	2016	2017	差	
1	1	4	3	URA教員による外部資金獲得に向けた講習会等が開催されるようになったため。(大学,第2G,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	2	5	3	私立大から国立大に移ったことによる比較であるが,専門人材の数は充実していると言える。一方で人材育成という点では,能力開発には必ずしもつながっているとは言えない。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
3	1	4	3	競争的資金獲得のためのリサーチアドミニストレーターが居るため,資料のチェックをお願いしている。しかしながら獲得後の予算管理や書類作成は全て個人で行なう必要があるため事務作業量は研究活動の活発化と共に増加する。助教に割り当てられた研究活動費では事務職員の確保は難しい状態にある。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
4	1	4	3	リサーチアシスタントが大学組織にいた。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
5	2	4	2	所属する研究所では,英語プレゼンテーションをチェックしてくれる専任の外国人教員がおり,発表の改善などをしてくれる取り組みは利用しており助かっている。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
6	1	3	2	本学においてURAの確保が行われるようになりました。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
7	2	4	2	本学にもURA推進室が設置され,そのメンバーはなかなか頑張っている。十分とは言えないが,以前より改善されたのは確かである。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
8	1	3	2	逆に新しい仕事が増えています。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
9	1	3	2	人員が真に十分かどうかは分からないが,これまでに支援を受けてきた経験から,少なくともそれなりに行われていると思われる。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
10	2	4	2	URAではないが,コーディネーターを配置した(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
11	1	3	2	本年度よりリサーチ・アドミニストレーション部門を新設し,URA2名を配置しました。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
12	2	4	2	URA組織が設置された(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
13	2	4	2	数は増えたが,その人材を生かし切れていない状態。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
14	3	4	1	JSTの方々にご支援いただき大変助かっています。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
15	3	4	1	大学全体では拡充してきている。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
16	3	4	1	URAや広報の設置などが進みつつある(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
17	5	6	1	所属研究所には組織助手と呼ばれるスタッフが二人と共同利用(研究会の開催,セミナーの開催)目的の秘書が複数人おり,彼らのおかげで雑用の負担が非常に軽減されている。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
18	4	5	1	URAの活動が研究を進めるのに役に立っていると思うから。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
19	3	4	1	URA組織が充実してきた。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
20	3	4	1	URAは,無期雇用化とともに,意識改革を進めた。その結果,現在はマネジメント等に関する企画提案をできるレベルにまで達している。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
21	2	3	1	人材の確保は進んでいる。しかし,業務内容が事務職と変わらない,研究現場を知らないなど育成プログラムは確立していない。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
22	2	3	1	現在大学として,その充実に取り組んではいるが,まだかなり不十分な状況。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
23	1	2	1	研究費申請書にURAがアドバイスをくれたから。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
24	1	2	1	URAが徐々に機能し始めたかも?(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
25	2	3	1	強化されつつある(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
26	3	4	1	この分野は重要視されているので,人材が多く確保されているように思う(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
27	3	4	1	研究支援体制は大学全体で整備されつつあると感じます(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
28	2	3	1	URAの処遇の改善等が進みつつあるため(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
29	4	5	1	3名の増員があった。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
30	1	2	1	専門人材の数が,増えましたが,まだ足りません。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
31	2	3	1	URAの役割が以前よりは明確化された(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
32	1	2	1	URAの支援が有効であった(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
33	1	2	1	徐々に改善されつつあるが,一定レベルには未達である。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
34	1	2	1	予算立てを行い,試行的にリサーチ・アドミニストレーターの採用を行った。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
35	2	3	1	本学で初めてURAを一人採用し,加えて現在2名を公募中。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
36	3	4	1	JSTの研究支援人材の育成のコンソーシアムの構築事業が前進している。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
37	2	3	1	充分ではないが,学内経費により1名の増強が認められ,各学域を担当するURAがアサインされた。(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,男性)
38	2	3	1	知財関係は比較的充実している。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
39	2	3	1	優秀な学科秘書が雇用されました。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)

40	4	5	1	本学にもリサーチアドミニストレーターが採用された。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
41	1	2	1	1人採用した(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
42	1	2	1	本年度リサーチアドミニストレーターが設置されたので状況は改善した。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
43	1	2	1	制度は整備されつつあるが資質のある人材が配置されていない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
44	2	3	1	URAの雇用は、進めている。しかし、現場の研究者がURAの必要性、活用の方法を理解していない。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
45	1	2	1	今年度リサーチアドミニストレーター職を設置する予定。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
46	1	2	1	ポストは出来たが機能していない(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
47	2	3	1	研究コーディネータの数が少し増えてきた(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
48	2	3	1	産学連携に関連する情報を収集する人員が増えました。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
49	1	1	0	そんな人がいるのを聞いたことはない。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
50	1	1	0	どんな人材か想像できないほど周りにいない。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
51	2	2	0	リサーチアドミニストレーターの制度はできて、具体的な研究活動に貢献できておらず、ほとんどが本部人材であり、研究者の負担軽減にはなっていない。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
52	1	1	0	研究活動を円滑に実施するための業務を行うポストを増やし、博士号取得後の就職に対する不安を解消すれば、進学率も増えると思われる。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
53	1	1	0	多くのRAが雇用されているようだが、研究現場の役に立っているようには見えない。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
54	2	2	0	本学のURAは本部に配置され、大学の改革に関わる新しい取り組みを推進しているようだ。各研究者に近い位置にいるとは思えない。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
55	1	1	0	そういう人はいるらしいのですが、何をやっているのかが見えません。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
56	2	2	0	今年度から、産学連携支援部門と研究支援部門(URAセンター)を統合した、新URAセンターを立ち上げたが、有機的・効率的な運営はまだ途上である。若手のURAの雇用・育成の必要性は痛感しているが、人件費の制限で容易ではない。研究IR活動をする為のデータベース整備等も財源不足で見通しが立っていない。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
57	1	1	0	なぜか任期付教員はRAに担当してもらえない。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
58	1	1	0	学生に対する研究活動への動機づけが弱すぎる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
59	1	1	0	そもそもリサーチアドミニストレーターが素人。科研費申請書添削システムもあるが、添削者が定年退職者であるため、変革しつつある科研費システムに対応できない。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
60	1	1	0	あるけど、外に出てこない。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
61	1	1	0	本学科では助手、助教がいない状態が10年以上続いて、准教授が助教業務を代行している。他学科では無い状況であり、学内的に不公平とかがえている。(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,男性)
62	1	1	0	URA設置後、それまでに無かった学内用務が増え、かえて研究者の負担が増している。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
63	1	1	0	人数が絶対的に足りない。人がいても経験・知識の面でも足りない。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
64	2	2	0	そのような人材が不足(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
65	2	2	0	理想は良いがあまり機能しない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
66	1	1	0	事務対応が大変で、研究現場に降り注ぐのは多すぎる。研究現場は回避する術がない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
67	1	1	0	私大でもあり、資金が足りないのだと思います。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
68	1	1	0	数年前にそういった専門員の必要性が議論されたところであるが、その後具体的な動きは見られない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
69	1	1	0	その機能はほぼ無い。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
70	1	1	0	育っていないため名前だけの役職のように感じる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
71	1	1	0	研究者自体の数すら不足している。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
72	1	1	0	専門人材の確保がなされていない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
73	1	1	0	本来であれば、機器の修理、メンテナンスを専門的に行う人材が必要であるが、人材不足のためいない。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
74	2	1	-1	業務量が増えてきているので、以前の人員では足りなくなってきた。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
75	3	2	-1	URAの取り組みは全学的にはあるが、部局には拡がっていない。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
76	4	3	-1	研究をサポートしてくれる人材は多いが、リサーチ・アドミニストレーター(RA)等の専門人材は少ない。(前回の回答ではRAの意味を誤解していた)(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
77	5	4	-1	あまり関わる機会がない。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
78	2	1	-1	大学にRAはおり、独自の活動を行なっているが、もっとも重要と思われる教員の研究活動時間を向上させるような効果が十分とは言えない。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
79	3	2	-1	リサーチ・アドミニストレータ的な人材はいるが、彼がいないほうが業務が円滑に回るような気がしないでもない。URAは博士持ちの人材を救済するためのポストという側面がつよく、URAたちは総じてプライドが高くやる気が低いような。(大学,第1G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
80	3	2	-1	大学がそのような取り組みをしているのか、どこに行けばそういった人がいるのかよくわからない。(大学,第1G,農学,研究員・助教クラス,女性)

81	3	2	-1	若手研究者の負担軽減が必要(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
82	4	3	-1	URAは形だけであり,不足する教員ポストへの流用も見受けられる。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
83	4	3	-1	人材は確保されているが,活動が見えない。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
84	2	1	-1	URAは全く機能していない.むしろ廃止して,事務方や広報を増やすべきだと思う(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
85	4	3	-1	URA自身に分野の偏りがあるのは当然であるが,どうしても特定の分野に偏りがちになっているように思う。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
86	2	1	-1	研究事務課に研究をしたことのある人材が不在であることが判明したため(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
87	3	2	-1	ポストはあるが,あまり機能していないように感じます。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
88	2	1	-1	大型予算申請時にサポートしていただける人材が足りていません。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
89	4	3	-1	研究大学強化促進事業等や大学の自己資金でURA等の専門人材の育成が図られてきたが,国立大学法人の運営費交付金削減等により,大学間で大きな格差が生じてきている。(大学,第2G,保健,社長・学長等クラス,男性)
90	4	3	-1	URAの数が減った(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
91	4	3	-1	URAについては,その業務,業務の目的をより明確に設定し,育成体制を整備する必要があると感じる。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
92	2	1	-1	URAなど雇ってはいるが,ほとんど効果のなさそうなことばかりやっているとします.他大学と比較して。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
93	3	2	-1	人材が十分に活用されていない。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
94	2	1	-1	昔でいう技官を復活させていただきたいです。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
95	2	1	-1	前任の〇〇大学の時と比較して,〇〇大学では不十分と感じる。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
96	2	1	-1	そのような人材を紹介してくれる制度などがあればいいが,学内にはない。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,女性)
97	3	2	-1	URAは,現在2人で,財務削減のため今後の確保計画は出来ない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
98	5	4	-1	URAに求められる機能が高度化しており,更なる育成・確保が必要。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
99	3	2	-1	雇用財源の関係で,URAの人数が減少した。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
100	2	1	-1	そのような人物が組織にいますが,全く役立っていない.役立たずな人物なら不要である。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
101	2	1	-1	人材はいるようだが,活動しているのかどうか分からない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
102	2	1	-1	アシスタント職員の転職による流出が多い。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
103	3	2	-1	RA制度が十分に機能していない。(大学,第4G,農学,社長・学長等クラス,男性)
104	3	2	-1	組織的整備が不十分(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
105	2	1	-1	不十分.またそのような人を雇う金銭的余裕もない。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
106	2	1	-1	広い視野を持つURAが求められるが,現行の,1つの組織に局在するURAでは,そのようなURAの育成が困難。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
107	3	2	-1	RAの確保はされていると思うが,それが十分に機能していない(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
108	3	2	-1	適材はそう多くはない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
109	2	1	-1	人数というよりは,能力(或いは経験)を持った専門人材が少ないように感じる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
110	2	1	-1	業務量が増え,人手不足感を強く感じる。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
111	2	1	-1	研究活動をサポートするポストは増えたが,とくだん適性のない再雇用職員を配置しており,機能していない.育成する意欲も感じられないし,そもそも誰が育成するのかも不明瞭。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
112	3	1	-2	講義・教育に関するセミナーが増え,研究に関するセミナーが減った。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
113	5	3	-2	事務的な研究支援部門はあるが,内容的な支援は期待できない(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
114	4	2	-2	専門人材の育成は十分でない。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
115	6	4	-2	過度のコンプライアンス遵守に関わる手続き等のマネジメントなどをサポートできる人材が不足している.海外と比べ,ラボマネージャーやテクニシャンなどの研究をサポート体制が不十分である。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
116	5	2	-3	まだまだ不十分.学位取得後,研究の道に入らずともRAで活躍できる場がもっと提供されるべきである。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
117	6	2	-4	個人によって能力差が大きい。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)

Q204. 研究施設・設備の程度は、創造的・先端的な研究開発や優れた人材の育成を行うのに十分だと思いますか。

回答者グループ	2017年度調査														各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年		
		1	2	3	4	5	6																	
大学・公的研究機関グループ	14	236	416	407	412	349	107	1,927	4.6	2.7	4.6	6.6	4.8	4.6	-	-	-0.26	-	-	-	-	-		
大学等	11	207	351	346	336	287	88	1,615	4.5	2.6	4.5	6.5	4.7	4.5	-	-	-0.24	-	-	-	-	-		
公的研究機関	3	29	65	61	76	62	19	312	4.9	2.9	5.0	6.7	5.2	4.9	-	-	-0.36	-	-	-	-	-		
イノベーション推進グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
性別	12	210	367	362	366	314	97	1,716	4.6	2.7	4.6	6.6	4.8	4.6	-	-	-0.24	-	-	-	-	-		
男性	2	26	49	45	46	35	10	211	4.4	2.6	4.5	6.4	4.8	4.4	-	-	-0.35	-	-	-	-	-		
女性	1	12	52	45	46	35	2	192	4.5	2.8	4.5	6.3	4.7	4.5	-	-	-0.23	-	-	-	-	-		
社長・役員・学長等クラス	0	93	135	173	148	119	31	699	4.5	2.7	4.5	6.4	4.6	4.5	-	-	-0.11	-	-	-	-	-		
部長・教授クラス	5	85	150	121	128	109	35	628	4.4	2.5	4.4	6.5	4.8	4.4	-	-	-0.35	-	-	-	-	-		
主任研究員・准教授クラス	6	46	74	64	84	81	37	386	5.0	2.8	5.2	7.1	5.3	5.0	-	-	-0.26	-	-	-	-	-		
研究員・助教クラス	2	0	5	4	6	5	2	22	5.5	3.5	5.6	7.2	6.0	5.5	-	-	-0.45	-	-	-	-	-		
その他	8	50	105	123	133	139	39	589	5.1	3.2	5.2	7.0	5.3	5.1	-	-	-0.18	-	-	-	-	-		
任用あり	6	186	311	284	279	210	68	1,338	4.3	2.5	4.3	6.3	4.6	4.3	-	-	-0.26	-	-	-	-	-		
任用なし	0	11	29	27	33	22	1	123	4.5	2.8	4.7	6.3	4.6	4.5	-	-	-0.16	-	-	-	-	-		
学長・機関長等	3	7	42	48	35	24	3	159	4.5	3.0	4.4	6.1	4.7	4.5	-	-	-0.25	-	-	-	-	-		
マネジメント実務	10	202	319	298	313	264	95	1,491	4.5	2.6	4.6	6.6	4.8	4.5	-	-	-0.26	-	-	-	-	-		
現場研究者	1	16	26	34	31	39	8	154	5.0	3.1	5.1	7.0	5.2	5.0	-	-	-0.26	-	-	-	-	-		
大規模PIの研究責任者	8	152	235	240	240	225	71	1,163	4.6	2.7	4.7	6.7	4.9	4.6	-	-	-0.25	-	-	-	-	-		
国立大学等	0	13	30	16	14	15	4	92	4.0	2.2	3.6	6.2	4.3	4.0	-	-	-0.27	-	-	-	-	-		
公立大学	3	42	86	90	82	47	13	360	4.3	2.6	4.3	6.1	4.5	4.3	-	-	-0.20	-	-	-	-	-		
私立大学	0	17	33	34	70	73	32	259	5.9	4.1	6.1	7.6	6.2	5.9	-	-	-0.31	-	-	-	-	-		
第1グループ	4	39	82	86	73	74	17	371	4.6	2.8	4.6	6.6	4.8	4.6	-	-	-0.20	-	-	-	-	-		
第2グループ	1	61	103	92	81	48	10	395	3.9	2.3	3.9	5.8	4.2	3.9	-	-	-0.24	-	-	-	-	-		
第3グループ	5	87	127	120	97	75	21	527	4.0	2.3	4.0	6.1	4.3	4.0	-	-	-0.22	-	-	-	-	-		
第4グループ	4	28	38	33	45	38	17	199	4.8	2.6	5.0	6.9	5.0	4.8	-	-	-0.24	-	-	-	-	-		
理学	3	56	90	103	85	74	30	438	4.6	2.7	4.5	6.6	4.8	4.6	-	-	-0.26	-	-	-	-	-		
工学	0	42	49	33	22	23	4	173	3.4	1.7	3.2	5.4	3.7	3.4	-	-	-0.36	-	-	-	-	-		
農学	1	51	90	85	92	76	22	416	4.6	2.6	4.6	6.6	4.8	4.6	-	-	-0.21	-	-	-	-	-		
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
産学官連携活動あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大学・公的研究機関等あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
大学・公的研究機関等あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
知財活用(企業等)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
なし(分からない)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-		
全回答者(属性無回答を含む)	14	236	416	407	412	349	107	1,927	4.6	2.7	4.6	6.6	4.8	4.6	-	-	-0.26	-	-	-	-	-		

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。



Q204. (意見の変更理由)研究施設・設備の程度は、創造的・先端的な研究開発や優れた人材の育成を行うのに十分だと思いますか。

	2016	2017	差	
1	3	5	2	私立大から国立大に移ったことによる比較であるが機関内部の研究開発のスペースや設備、人員の収容能力が高く、評価できる。しかしながら大学が併地にあるため、アクセスが極端に悪く、人材交流の妨げになっている。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	2	4	2	卓越研究員等の活用があり,優秀な若手が応募している。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
3	1	3	2	研究分野により異なる。県と連携したり,効率的な設備配置は検討すべきと思われる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
4	1	3	2	iCOVERの設置(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
5	4	5	1	〇〇〇新キャンパスなど,キャンパス整備が進んだため。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
6	4	5	1	キャンパスが移転し十分整備された(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
7	2	3	1	機器共用化などの取組を進めており,すこしよくなる期待はある。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
8	1	2	1	設備の改修が若干入ったことで,学生の研究活動には良い影響を及ぼしていると思われるがまだまだその効果は不明である。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
9	5	6	1	共同研究施設の機器が充実してきた。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
10	2	3	1	施設はやや古いが設備はそれなりにある。先端的な装置を扱うには,共同設備をうまく活用する必要がある。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
11	1	2	1	施設,設備の整備は進んだが,人材育成に携わるスタッフ,研究資金,研究交流等は未だ不十分。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,女性)
12	1	2	1	改組により充実した(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
13	2	3	1	当学の希少糖関連研究等を中心に改善された。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
14	2	3	1	URAの方が雇用された。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
15	3	4	1	分野的にみると比較的よい環境だと思えるため。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
16	4	5	1	細胞生物学から,生物物理系の機器に至る様々な機器が共通機器として設置されている。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
17	4	5	1	海外の大学で在外研究を行う機会があったので,それと比較すると当研究所は相当機器・設備には恵まれていると感じた。一部は過剰なものがある。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
18	4	4	0	天井からは雨漏り,水道水は赤錆で濁っており,建物の老朽化が進んでいるが,改築予算がつかない。全学の共通施設は立派。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
19	3	3	0	設備は整備されているが,維持管理する人材が削減されており,成果の増進には繋がっていない。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
20	3	3	0	論文雑誌が買えなくなってきたり拠点大学としての責務を果たせなくなってきた。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
21	2	2	0	機器の老朽化が進んでいる。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
22	5	5	0	しかし昔の設備が残っているだけなので,徐々に悪化していくと思います。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
23	1	1	0	何もない。実験研究ができない(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
24	1	1	0	キャンパスによって差が大きく,所属するキャンパスではほとんど最新型の機器がない。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
25	1	1	0	整備が必要。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
26	3	3	0	老朽化が目立つ。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
27	1	1	0	基盤的な設備の更新すらできていない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
28	3	2	-1	装置や設備はほとんど更新できず,中国の研究成果との差は広がる一方である。工夫は大事だが,装置の性能はそれを可能にするためにもっと大事。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
29	4	3	-1	獲得資金で設備を確保できている。一方,研究機関は何も提供してくれないので,評価を1個下げた。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
30	5	4	-1	創造的な研究は,自由な発想が必要と考えるが,研究科として概算要求をとるために無理に自分の関心のないテーマを与えられる。若手研究者,院生にとって良い環境だとは思えない。(大学,第1G,農学,研究員・助教クラス,女性)
31	3	2	-1	設備はあっても,更新ができない為に老朽化し,国際的な競争力に耐えることができない。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
32	4	3	-1	大学の努力というよりも研究者の努力に負うところが大きい(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
33	3	2	-1	部局の予算縮小に伴い,内部研究費が大幅に縮小され,研究設備の維持管理に支障をきたすようになったため。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
34	4	3	-1	年々劣化あるいは老化していく設備に対する更新が十分ではない。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
35	6	5	-1	最も十分ではないため一つ下げた。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
36	3	2	-1	財源不足のために,本来行うべき修理すら見送らなければならない状況が散見されるようになってきた。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
37	5	4	-1	比較的高額な機器の更新に支障が生じつつある(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)

38	5	4	-1	プロジェクト研究に経費や設備が集中しすぎているかもしれない。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
39	3	2	-1	最近2年間の概算要求での研究設備整備枠の財務省によるゼロ査定は,深刻な影響を生じている。(大学,第2G,保健,社長・学長等クラス,男性)
40	3	2	-1	予算減により研究施設・設備を長期間維持することが難しくなっていると感じます。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
41	2	1	-1	一部特定分野においての研究は何とか出来ているが,研究支援に回す資金不足により,機器の陳腐化と老朽化が著しい。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
42	3	2	-1	予算上の関係で,老朽化した研究施設・設備を更新することが困難であり,最新の研究設備の導入が遅れている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
43	3	2	-1	共通機器室等がなく,ほとんどの装置が研究室で購入しなければならない。経費削減で大型機器の維持経費も縮小されている。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
44	4	3	-1	装置の管理についてサポートが十分とは感じられない。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
45	5	4	-1	海外と比較して相対的に低下している。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
46	2	1	-1	留学生の受け入れ数に対してスペースが不足している(不足する年がある)。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
47	3	2	-1	機器の更新が難しくなっているため(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
48	4	3	-1	共同実験室などの設備の充実がほしいところである。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
49	3	2	-1	施設・設備・機器の維持管理や修理の費用の捻出について,困難が増している。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
50	3	2	-1	研究施設,研究機器の老朽化が進んでいる(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
51	3	2	-1	施設・設備の老朽化が著しく,財政を圧迫しつつあるため。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
52	3	2	-1	研究施設・設備のメンテナンスにかかる経費が十分確保できない。(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,男性)
53	3	2	-1	スペースの制約が研究・教育においても問題と思っています。(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,男性)
54	2	1	-1	施設・設備の維持管理の費用が非常に少ないのも問題となる(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
55	2	1	-1	予算がへっており,十分に人材を確保していない。機器や施設のメンテナンスもだんだん手薄になってきている。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
56	2	1	-1	震災復興に関する支援が大きく,研究のための設備投資が更に落ちたように思えるため。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
57	2	1	-1	SciFinderなどのデータベースに対して,自分たちで経費を支払っている。このせいで,運営費の半分が消えている。大学はデータベースを支払うべきである。データベースの自由な利用がかなわなければ世界と戦うに足る論文が書けない。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
58	3	2	-1	基本インフラの劣化(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
59	2	1	-1	データベースの契約がいくつか切られた。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
60	3	2	-1	既設置の維持が困難になりつつある(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
61	5	4	-1	機器の老朽化や陳腐化(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
62	5	4	-1	機器の老朽化(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
63	2	1	-1	メンテナンスの経費が極端に不足。折角の装置が生かされていない場合がある。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
64	5	4	-1	運営費交付金の削減によって,研究施設・設備の老朽化への対応ができていない。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
65	3	2	-1	老朽化に手を打てていない。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
66	4	3	-1	研究開発に必須の人材(統計専門家,倫理専門家等)が流出している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
67	4	3	-1	予算が減っているので,設備の老朽化が問題となりつつある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
68	4	3	-1	施設の老朽化に対応する費用が不足している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
69	3	2	-1	予算が削減され,老朽化している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
70	5	4	-1	設備の老朽化や陳腐化に対して予算獲得が困難。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
71	6	5	-1	実験スペースが不足してきている(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
72	2	1	-1	本年度,故障中の共通機器が修理されず,研究に支障が出ています。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
73	5	4	-1	高度実験設備の導入に対する投資が縮減傾向にあるだけでなく,既存設備への維持費確保も難しくなっており,将来に不安を感じる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
74	2	1	-1	独法の交付金減(業務経費1%減,一般管理費3%減)が10年以上続いており,財務省は国の研究機関をつぶしたいのか? 科学技術立国という言葉がむなしく聞こえる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
75	5	4	-1	予算が減るため,設備の程度も年々下がっている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
76	2	1	-1	大学に大きく遅れを取っている。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
77	5	3	-2	一部施設・設備が老朽化してきている。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
78	5	3	-2	学生に対して,将来への不安や,人間関係等,精神的な支援がもっと必要(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
79	6	4	-2	老朽化して設備の更新が行き届いていない(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)

80	4	2	-2	管理業務に忙殺.(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
81	5	3	-2	古くなった設備の修理・改修ができない状況なので.(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
82	5	3	-2	環境や理念はすばらしいと思うが,入所のタイミングの早い遅いで既成事実的に便利な実験スペースの占有が見られる.後から来た研究者(=若手)に不利な環境であるのが現状.(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
83	3	1	-2	研究に回せる予算がなくなり,修繕などもできずに閉鎖の方向に進んでいるため.(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
84	5	3	-2	2月から歯学部別の分野に教授として異動したが,新たなラボを立ち上げるために,教室を整える以外には学部からは援助がなかった.その年度の6段階評価で歯学部で2人しかいないトップの業績評価を受けたのであるが,研究の継続性を鑑みて援助をしていただければ有難かった.どうしてもアクティビティーは落ちることになった.これでは,他大学に移った場合と同じように感じた.(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
85	5	3	-2	挑戦的な取り組みをしたいからと, + $\alpha$ の要求をすると「不平等」で却下される.こんなことで抜きでた研究や教育が出てくるわけがない(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
86	3	1	-2	実験室が学生の演習室として取られた.実験が自由にできなくなった.(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,女性)
87	4	2	-2	施設の老朽化が激しい.(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
88	3	1	-2	設置してから約40年経過して老朽化している研究施設・設備が多く,早急に更新が必要である.(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
89	5	3	-2	基盤的設備の老朽化が進んだ(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
90	6	4	-2	予算削減のため十分な設備投資ができていないと言いは難しい.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
91	3	1	-2	私大なので不十分ですが,職員の異動があったときに設備・装置が継承されない点を改めるべき.無駄が多い.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
92	4	2	-2	維持管理が困難な大型研究設備が増加(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
93	6	3	-3	使用したい機器(高額)が学内にない場合がある(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,女性)
94	5	2	-3	異動に伴い,人材育成に関する環境は明らかに不十分になっている.(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
95	5	2	-3	施設,機器の老朽化が進んでいるにもかかわらず購入の目処が立っていない.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
96	5	1	-4	学生が自由に使用できる機器が少なすぎる.(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)

Q205. 組織内で研究施設・設備・機器を共用するための仕組みが十分に整備されていると思いますか。

回答者グループ	2017年度調査											各年の指数					指数の変化					
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	32	170	331	441	457	395	115	1,909	5.0	3.2	5.0	6.8	5.1	5.0	-	-	-0.15	-	-	-	-	
大学等	25	143	280	357	384	336	101	1,601	5.0	3.2	5.1	6.8	5.1	5.0	-	-	-0.15	-	-	-	-	
公的研究機関	7	27	51	84	73	59	14	308	4.8	3.3	4.8	6.6	5.0	4.8	-	-	-0.16	-	-	-	-	
イノベーション推進グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業・大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
中小企業	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大学発ベンチャー	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
橋渡し等	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
性別	26	149	283	394	416	356	104	1,702	5.0	3.3	5.1	6.8	5.1	5.0	-	-	-0.13	-	-	-	-	
男性	6	21	48	47	41	39	11	207	4.6	2.7	4.6	6.6	5.0	4.6	-	-	-0.37	-	-	-	-	
女性	1	6	30	51	51	46	8	192	5.3	3.7	5.3	6.9	5.2	5.3	-	-	0.10	-	-	-	-	
社長・役員・学長等クラス	9	56	132	163	183	119	37	690	4.8	3.1	4.9	6.5	4.9	4.8	-	-	-0.05	-	-	-	-	
部長・教授クラス	14	76	98	147	130	133	35	619	4.8	3.0	4.9	6.8	5.2	4.8	-	-	-0.36	-	-	-	-	
主任研究員・准教授クラス	7	30	67	75	88	92	33	385	5.3	3.3	5.4	7.2	5.3	5.3	-	-	-0.08	-	-	-	-	
研究員・助教クラス	1	2	4	5	5	2	23	23	5.1	3.2	5.2	7.1	5.3	5.1	-	-	-0.13	-	-	-	-	
その他	9	34	88	130	137	155	44	588	5.4	3.7	5.5	7.2	5.6	5.4	-	-	-0.20	-	-	-	-	
任用あり	23	136	243	311	320	240	71	1,321	4.8	3.0	4.8	6.6	4.9	4.8	-	-	-0.10	-	-	-	-	
任用なし	0	5	15	34	32	30	7	123	5.4	3.9	5.4	7.0	5.3	5.4	-	-	0.14	-	-	-	-	
学長・機関長等	4	5	28	45	44	29	7	158	5.1	3.6	5.0	6.5	5.1	5.1	-	-	-0.03	-	-	-	-	
マネジメント実務	26	144	266	329	331	310	95	1,475	4.9	3.1	5.0	6.9	5.1	4.9	-	-	-0.20	-	-	-	-	
現場研究者	2	16	22	33	50	26	6	153	4.9	3.3	5.2	6.5	5.0	4.9	-	-	-0.10	-	-	-	-	
大規模PIの研究責任者	18	100	189	245	281	260	78	1,153	5.1	3.3	5.3	7.0	5.3	5.1	-	-	-0.14	-	-	-	-	
国立大学等	0	6	18	22	24	19	3	92	4.9	3.2	5.0	6.6	4.8	4.9	-	-	0.14	-	-	-	-	
公立大学	7	37	73	90	79	57	20	356	4.6	2.9	4.6	6.4	4.8	4.6	-	-	-0.25	-	-	-	-	
私立大学	2	14	34	45	71	70	23	257	5.7	3.9	5.8	7.4	5.8	5.7	-	-	-0.08	-	-	-	-	
第1グループ	8	25	55	77	98	88	24	367	5.3	3.6	5.5	7.1	5.4	5.3	-	-	-0.10	-	-	-	-	
第2グループ	5	42	76	97	92	64	20	391	4.6	2.9	4.7	6.4	4.8	4.6	-	-	-0.16	-	-	-	-	
第3グループ	9	59	109	129	104	96	26	523	4.6	2.8	4.5	6.5	4.7	4.6	-	-	-0.19	-	-	-	-	
第4グループ	9	19	27	34	47	50	17	194	5.4	3.5	5.6	7.3	5.6	5.4	-	-	-0.21	-	-	-	-	
理学	6	43	80	98	109	84	21	435	4.8	3.0	4.9	6.6	4.9	4.8	-	-	-0.08	-	-	-	-	
工学	2	25	35	48	25	32	6	171	4.3	2.5	4.2	6.4	4.5	4.3	-	-	-0.27	-	-	-	-	
農学	3	33	76	85	87	96	37	414	5.2	3.2	5.2	7.2	5.5	5.2	-	-	-0.25	-	-	-	-	
保健	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
あり(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし(過去3年間)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
なし(分からない)	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
全回答者(属性無回答を含む)	32	170	331	441	457	395	115	1,909	5.0	3.2	5.0	6.8	5.1	5.0	-	-	-0.15	-	-	-	-	

注1: 回答者数は、分からないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q205. (意見の変更理由)組織内で研究施設・設備・機器を共用するための仕組みが十分に整備されていると思いますか。

2016	2017	差	
1	2	5	3 私立大から国立大に移ったことによる比較であるが、共用のための環境、利用方法の周知が徹底しており、高く評価できる。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	1	4	3 研究機器を共有するための仕組みと施設を整備した(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
3	2	4	2 昨年度まで検討していた共同機器利用の体制が整ったため(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
4	2	4	2 学内での共同利用に供される機器の管理や情報提供の仕組みが進んだ。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
5	1	3	2 資産登録された研究機器についてはリスト化されている。共用にあたっての使用料は、多くの場合、外部資金を利用できないため利用しづらい。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
6	1	3	2 iCOVERの設置(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
7	3	5	2 JSTの予算により整備中のため(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,女性)
8	3	5	2 新棟建築に伴い、臨床医学系の実験室を集約し、研究機器などの共用を促進しました。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
9	2	4	2 文科省の補助金も獲得し、全学的な機器の共用の機運が高まってきた。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
10	4	5	1 研究推進・支援機構テクニカルサポートセンター、並びに先端研究基盤共用促進事業により学内外への設備共用の取組が促進・深化されたため。(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
11	4	5	1 機器供与の取り組みは進んでいる。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
12	5	6	1 共同利用研究所のため、研究会の開催やスパコンの利用は組織外の研究者でも利用できるように整備されている。組織内の研究者がより利用しやすいというのはいくらでもない。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
13	1	2	1 取り組み自体は始まった。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
14	4	5	1 共用化は進んでいるが、機器が新しくならない為に、あまり大きなメリットは無い。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
15	4	5	1 組織内で研究施設・設備・機器の共用化が進んだため。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
16	4	5	1 学内で機器類のリユースの取り組みがあるのは評価できる(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
17	2	3	1 設備も共有化を進めている。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
18	4	5	1 改善されつつあります。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
19	5	6	1 昨年度、文科省の施策としての先端研究基盤共用促進事業に採択され、多くの機器が共用設備として登録され、利用されている。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
20	5	6	1 文科省の共用化予算により、重点的に推進した。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
21	2	3	1 仕組みは改善されているが、機器や設備は更新されないのでは本質的な問題解決には至っていない。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
22	4	5	1 使用頻度の高い一般機器を運用するためには、そのための仕組みの整備が必須であるとの全学的認識から、整備が一層進んだ。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
23	3	4	1 機器分析センターの機能強化により、研究機器を強要するための仕組みの整備が進みつつある。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
24	3	4	1 研究機器の共用化等が進みつつあるため(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
25	4	5	1 大型機器の共通利用の仕組みなどがかなり整備されてきた。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
26	2	3	1 バーチャルな研究機器センター構築に向けた動きがあるので予算的措置も含めて期待している(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
27	2	3	1 異分野融合の取り組みが多くなってきたため(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
28	2	3	1 整備されつつある。(大学,第3G,農学,社長・学長等クラス,男性)
29	1	2	1 機器の利用法が特殊な場合は必ずしも共有は難しい。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,女性)
30	2	3	1 十分とは言えませんが、徐々に整備が進んできています(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
31	5	6	1 新しい機器が導入され、設備が整いつつある。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
32	2	3	1 学内の研究系センターを統廃合し、研究設備の使用について整備を行った。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
33	4	5	1 研究費を大規模に投入して改善・整備をしたため(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
34	1	2	1 装置リストの回覧は実施されている。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
35	2	3	1 当学の希少糖関連研究等を中心に改善された。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
36	1	2	1 部局を超えた機器の共用を推進する取り組みが始まり、改善の兆しが見えるが、学部内での共用意識はまだ不十分である。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
37	2	3	1 少しずつだが改善されている。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
38	4	5	1 様々な部署における研究機器の共用を進める全所的な検討を実施中(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
39	1	2	1 設備の再配置により、少し改善。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
40	2	3	1 共有せざるを得ない状況が増している。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)

41	1	2	1	高度解析センターという組織ができ、高額機械の共有がやりやすくなった。(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 女性)
42	2	2	0	共有しても、壊される可能性が増えるだけ。共有するなら、その共有設備を管理するスタッフをつけるべき。それがないのに、仕組みを議論しても無駄である。(大学, 第1G, 部長・教授等クラス, 男性)
43	5	5	0	機器の共用化は順調に進められている。(大学, 第2G, 部長・教授等クラス, 男性)
44	2	2	0	機器の管理者が不足しているため質量分析などはすぐに使えないことが多い(大学, 第2G, 工学, 主任研究員・准教授クラス, 女性)
45	1	1	0	キャンパスが離れているので、他学部との共用は難しい(大学, 第2G, 保健, 部長・教授等クラス, 女性)
46	4	4	0	今年度、文科省の研究設備共用化事業に採択され、設備等の学内共用化に向けての制度面の整備に着手した。(大学, 第3G, 社長・学長等クラス, 男性)
47	6	6	0	共用化基盤センターが設立され、様々な取り組みが開始された。(大学, 第3G, 農学, 部長・教授等クラス, 男性)
48	6	6	0	効率的な共有システムが構築され、常時改善を図っている。(大学, 第3G, 保健, 部長・教授等クラス, 男性)
49	3	3	0	仕組みとしては設備・機器利用のための技術職員の活用を進めてほしい。しかし、勝手に仕組みを作られる場合がある。(大学, 第4G, 部長・教授等クラス, 男性)
50	2	2	0	共用化を始めようとしている。(大学, 第4G, 理学, 部長・教授等クラス, 男性)
51	1	1	0	共同設備がキャンパス内にない。(大学, 第4G, 工学, 研究員・助教クラス, 男性)
52	3	2	-1	研究者間での情報共有が不足している(大学, 第1G, 理学, 主任研究員・准教授クラス, 女性)
53	2	1	-1	共通機器のメンテナンスやトラブル対応をする人がいないため、教員がボランティアでやっている。詳しい教員がいなくなると、使い方がわからなくなってしまうことがある。(大学, 第1G, 保健, 研究員・助教クラス, 男性)
54	5	4	-1	人手が足りない。共用の対応が研究者の貴重な時間を奪っている。(大学, 第2G, 部長・教授等クラス, 男性)
55	2	1	-1	共用している機器・設備の修理の財源確保が厳しい状況になってきている。(大学, 第2G, 農学, 部長・教授等クラス, 男性)
56	5	4	-1	プロジェクト研究専有に経費や設備が集中しすぎているかもしれない。(大学, 第2G, 農学, 部長・教授等クラス, 男性)
57	4	3	-1	共有の仕組みはあるが、機器が古すぎて更新できていない。共通経費が少なすぎる。(大学, 第2G, 農学, 研究員・助教クラス, 女性)
58	6	5	-1	機器や施設を管理、準備するスタッフが充実するとより良い。(大学, 第2G, 保健, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
59	5	4	-1	いくつかの機器を管理している人が、その中のある機器を使わない場合、利用率は高くても、その機器が不要とみなされ、修理をしてもらうことができない。(大学, 第2G, 保健, 主任研究員・准教授クラス, 女性)
60	2	1	-1	同じような機器が各医局単位であったり、その機器を使える人が居なくなりその後、使用方法が分からなくなっている現状がある。(大学, 第2G, 保健, 研究員・助教クラス, 男性)
61	2	1	-1	共用機器とされているが、実際は特定の教員に占有されているような状況がほとんどである。(大学, 第3G, 理学, 部長・教授等クラス, 男性)
62	4	3	-1	一部の機器について、他研究者に利用させないような仕組みを実施している研究室があったため。(大学, 第3G, 工学, 部長・教授等クラス, 男性)
63	2	1	-1	施設等の使用については全く以て最適化されておらず、未だに紙媒体で管理するなど愚の骨頂の手段を採っている。(大学, 第3G, 工学, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
64	2	1	-1	共用システム、管理システムがあいまい。(大学, 第3G, 農学, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
65	3	2	-1	共用研究施設はあるが、その管理や機器使用をサポートしてくれる人材数、またはその人材の能力が十分でない。(大学, 第3G, 農学, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
66	3	2	-1	学内の共同実験施設を作ろうとしているが、実現にはまだしばらくかかりそうである。(大学, 第3G, 保健, 部長・教授等クラス, 男性)
67	3	2	-1	共同機器の予算が減っています。(大学, 第3G, 保健, 部長・教授等クラス, 男性)
68	3	2	-1	施設の共用化を進めても、施設の管理を行う人材が枯渇して有効性が限られる(大学, 第3G, 保健, 部長・教授等クラス, 男性)
69	2	1	-1	掛け声はあったが、実際は非効率になっただけ。オペレーターもあわせて配しなければ倉庫を作るだけです。(大学, 第3G, 保健, 部長・教授等クラス, 男性)
70	3	2	-1	施設・設備・機器の維持管理や修理の費用の捻出について、困難が増している。新しい機器を1台入れる費用で古い機器を10台修理できればよほど助かるのだが。(大学, 第3G, 保健, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
71	5	4	-1	共用設備の保守が滞っている。人員・経費を含めたシステムの改良が必要。(大学, 第4G, 部長・教授等クラス, 男性)
72	2	1	-1	年々、環境が悪くなっている。(大学, 第4G, 理学, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
73	3	2	-1	改組や人材の移動などから、個人のネットワークに依存したシステムではなく、より組織として共有を可能にする仕組みが必要になったと感じている。(大学, 第4G, 農学, 社長・学長等クラス, 女性)
74	4	3	-1	改善が必要と考えられる(大学, 第4G, 保健, 部長・教授等クラス, 男性)
75	2	1	-1	事務系のサポートが不十分。(大学, 大学共同利用機関, 社長・学長等クラス, 男性)
76	3	2	-1	運営交付金の減少により、動物実験施設のメンテナンス費用に困窮している。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
77	4	3	-1	予算削減により、共用の機器等の管理が不十分になりつつある。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
78	2	1	-1	本年度、故障中の共通機器が修理されず、研究に支障が出ています。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 女性)
79	5	4	-1	予算が少しずつ減少しているため(公的研究機関, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
80	4	3	-1	一部の装置は共用化の体制が取れておらず、使用しにくい(公的研究機関, 主任研究員・准教授クラス, 女性)
81	2	1	-1	同じ研究所内にどういった機器設備があるのか、近いグループ等を除いて分からないのが現状です。(公的研究機関, 研究員・助教クラス, 男性)

82	4	2	-2	設備・機器を共用して、活用する仕組みはあるので、前回は4をつけていた。しかしより有効に活用するための人材が必要と思われるので、今回は2を選らんだ。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
83	5	3	-2	あまり横のつながりが強いとは言えない,ただ横のつながりを強化しようという取り組みはなされ始めている。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
84	4	2	-2	管理業務に忙殺。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
85	5	3	-2	古くなった設備の修理・改修ができない状況なので。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
86	6	4	-2	共通装置はかなり充実している。一方で,なし崩し的に共通スペースを既成事実的に占有されているため,後から来た研究者(=若手)に不利な環境であるのが現状。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
87	5	3	-2	研究装置の名前を見れば非常に立派であるが,管理運用の面,特に費用面について大学組織として考えられているとは思えない。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
88	5	3	-2	特に学外からの利用希望者に十分対応しきれていない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
89	5	3	-2	今年から転籍した新学科ではまだ仕組みが確立されていません。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
90	5	3	-2	共通機器に対する費用の不足。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
91	4	2	-2	折角の大型装置(スパコンなど)があっても,かつてのレガシーな枠組みに縛られた使用ルールが引かれており,奇抜な研究や,すそ野を広げる研究において満足に利用できなくなっている。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
92	3	1	-2	全くもって不十分です。設備はあっても,それらを維持運用する仕事が研究員自身に課せられており,設備利用の外部ニーズに対応するだけで精一杯になっています。設備を持たない部署の研究員と同じ基準(論文数等)と評価されるため,非常に不公平感を感じます。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
93	5	2	-3	機器を整備したり,使用を補助できる技官を常駐させる資金がなくなり,立派な機器がただあるだけで使えない状態になりつつあります。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
94	6	3	-3	共通機器は使用できるが,他の研究室が保持している機器は使用しにくい(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,女性)
95	5	2	-3	運営費交付金減少に関連して,機器整備に係る予算が減額されており,年々厳しい状況です。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
96	5	2	-3	研究支援センターがその機能を十分に発揮していないことが判明したため。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
97	5	2	-3	共通機器の購入は現在凍結されている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
98	5	1	-4	新しい施設がつくられたのでみんなで積極的に活用するのかもしれないが,「荒れるから使わせない」呆れる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
99	6	2	-4	一部の管理職による偏りのあるルール作りが水面下でなされたことは非常に残念。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)

Q206. 我が国における知的基盤や研究情報基盤の状況は十分だと思いませんか。

回答者グループ	2017年度調査											各年の指数					指数の変化					
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	98	207	527	501	396	189	23	1,843	3.9	2.5	4.0	5.6	4.1	3.9	-	-	-0.22	-	-	-	-	
大学等	82	180	436	425	323	160	20	1,544	3.9	2.5	3.9	5.6	4.1	3.9	-	-	-0.22	-	-	-	-	
公的研究機関	16	27	91	76	73	29	3	299	4.0	2.5	4.0	5.7	4.2	4.0	-	-	-0.22	-	-	-	-	
イノベーション・ベンチャーグループ	48	26	146	176	140	66	4	558	4.3	3.0	4.3	5.8	4.6	4.3	-	-	-0.25	-	-	-	-	
大企業	16	1	49	69	38	23	0	180	4.4	3.2	4.3	5.7	4.6	4.4	-	-	-0.25	-	-	-	-	
中小企業・大学発ベンチャー	19	9	30	37	42	10	1	129	4.3	3.0	4.5	5.8	4.3	-	-	-0.21	-	-	-	-		
中小企業	10	4	12	21	20	5	0	62	4.3	3.3	4.5	5.8	4.4	4.3	-	-	-0.13	-	-	-	-	
大学発ベンチャー	9	5	18	16	22	5	1	67	4.2	2.8	4.4	5.9	4.5	4.2	-	-	-0.29	-	-	-	-	
橋渡し等	13	16	67	70	60	33	3	249	4.3	2.8	4.3	5.9	4.6	4.3	-	-	-0.28	-	-	-	-	
男性	126	208	608	612	484	234	23	2,169	4.0	2.6	4.1	5.7	4.2	4.0	-	-	-0.22	-	-	-	-	
女性	20	25	65	65	52	21	4	232	3.9	2.5	4.0	5.6	4.2	3.9	-	-	-0.26	-	-	-	-	
社員・役員、学長等クラス	23	21	137	137	89	25	1	410	3.8	2.7	3.9	5.2	4.0	3.8	-	-	-0.21	-	-	-	-	
部長、教授クラス	52	92	268	254	208	91	8	921	3.9	2.5	4.0	5.6	4.1	3.9	-	-	-0.16	-	-	-	-	
主任研究員、准教授クラス	41	70	174	168	136	81	10	639	4.0	2.5	4.1	5.8	4.3	4.0	-	-	-0.29	-	-	-	-	
研究員、助教クラス	24	48	82	96	90	54	8	378	4.2	2.6	4.4	6.1	4.5	4.2	-	-	-0.25	-	-	-	-	
その他	6	2	12	22	13	4	0	53	4.2	3.2	4.3	5.5	4.4	4.2	-	-	-0.25	-	-	-	-	
任期あり	45	61	218	235	164	84	9	771	4.0	2.7	4.1	5.7	4.2	4.0	-	-	-0.19	-	-	-	-	
任期なし	101	172	455	442	372	171	18	1,630	4.0	2.5	4.0	5.7	4.2	4.0	-	-	-0.25	-	-	-	-	
学長・機関長等	2	5	46	47	19	3	1	121	3.5	2.6	3.7	4.7	3.6	3.5	-	-	-0.05	-	-	-	-	
マネジメント実務	12	11	56	52	30	1	0	150	3.4	2.5	3.6	4.8	3.6	3.4	-	-	-0.20	-	-	-	-	
現場研究者	80	169	384	366	311	171	20	1,421	4.0	2.5	4.1	5.8	4.2	4.0	-	-	-0.24	-	-	-	-	
大規模PIの研究責任者	4	22	41	36	36	14	2	151	3.8	2.3	3.9	5.7	4.0	3.8	-	-	-0.19	-	-	-	-	
国立大学等	55	146	308	289	236	120	17	1,116	3.9	2.4	3.9	5.7	4.1	3.9	-	-	-0.23	-	-	-	-	
公立大学	4	8	36	28	10	6	0	88	3.3	2.3	3.3	4.6	3.5	3.3	-	-	-0.14	-	-	-	-	
私立大学	23	26	92	108	77	34	3	340	4.1	2.7	4.1	5.6	4.3	4.1	-	-	-0.22	-	-	-	-	
第1グループ	11	31	64	56	52	36	9	248	4.2	2.5	4.2	6.1	4.5	4.2	-	-	-0.33	-	-	-	-	
第2グループ	16	34	87	94	90	52	2	359	4.3	2.7	4.4	6.0	4.4	4.3	-	-	-0.12	-	-	-	-	
第3グループ	14	53	127	101	72	27	2	382	3.5	2.2	3.5	5.1	3.8	3.5	-	-	-0.31	-	-	-	-	
第4グループ	35	56	147	152	96	41	5	497	3.7	2.4	3.8	5.3	3.9	3.7	-	-	-0.14	-	-	-	-	
理学	12	30	48	46	42	19	6	191	3.9	2.3	4.0	5.8	4.2	3.9	-	-	-0.35	-	-	-	-	
工学	21	56	109	115	77	56	7	420	3.9	2.4	4.0	5.8	4.2	3.9	-	-	-0.26	-	-	-	-	
農学	11	19	51	32	39	20	1	162	3.9	2.4	3.9	5.8	4.2	3.9	-	-	-0.26	-	-	-	-	
保健	20	38	107	115	87	47	3	397	4.0	2.6	4.1	5.7	4.2	4.0	-	-	-0.16	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	32	24	118	143	122	56	4	467	4.3	3.0	4.4	5.9	4.6	4.3	-	-	-0.26	-	-	-	-	
なし	16	2	28	33	18	10	0	91	4.1	2.9	4.1	5.5	4.4	4.1	-	-	-0.22	-	-	-	-	
大学・公的研究機関等 知財活用(企業等)	21	10	60	73	68	29	1	241	4.4	3.1	4.5	5.9	4.6	4.4	-	-	-0.18	-	-	-	-	
なし(分らない)	22	1	47	54	32	14	0	148	4.1	2.9	4.1	5.5	4.6	4.1	-	-	-0.42	-	-	-	-	
全回答者(属性無回答を含む)	146	233	673	677	536	255	27	2,401	4.0	2.6	4.1	5.7	4.2	4.0	-	-	-0.23	-	-	-	-	

注1: 回答者数は、分らないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。



Q206. (意見の変更理由)我が国における知的基盤や研究情報基盤の状況は十分だと思いますか。

	2016	2017	差	
1	2	4	2	人工知能研究のためのデータベース等は増えている。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
2	2	3	1	少しずつ整備が進んでいると感じるため。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
3	3	4	1	公的に使えるものが増えてきている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
4	1	2	1	特に小規模学部・大学では,電子ジャーナルが利用できず,情報格差が大きい。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
5	2	3	1	様々な分野でのプラットフォームの構築が進んできている。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
6	1	2	1	国研究機関などによるデータベース拡充がつづいているが,電子ジャーナルなどの取得が予算的に困難(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
7	3	4	1	researchmapとの連携が整備されつつある(大学,部長・教授等クラス,男性)
8	2	3	1	大学では問題であるが,企業ではある程度対応できているのではないかと(大学,部長・教授等クラス,男性)
9	3	4	1	論文引用数を評価基準とし,その重要性が高まっていることから,データベースの充実度が上がっていると感じる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
10	5	6	1	各種資料のクラウド化が進んだ。(大学,部長・教授等クラス,男性)
11	1	2	1	まだまだ十分ではないが,少しずつ良くなっていると感じるため。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
12	2	3	1	とても便利というわけではないが,あまり不自由と感じないので。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
13	5	6	1	論文の検索や図書館ネットワークはとても便利であり,活用しています。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
14	2	3	1	購読雑誌が減り,論文等の研究情報へのアクセスがしづらくなっている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
15	4	5	1	昨今,ICT技術の向上や研究機関での教育研修の充実などにより,知的基盤や研究情報基盤の状況は向上してきたと考えます。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
16	2	3	1	AMED-PJ等で臨床データベース等の知的基盤の構築は進みつつある(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
17	2	3	1	技術インフレ(ネットワーク等)の整備と意識変化(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
18	3	4	1	特許庁のデータベースの充実やWeb情報の拡充が見られる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
19	2	3	1	インフラの整備が進んできた(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
20	1	1	0	相変わらず,読みたい論文誌のダウンロードさえ制限が始まるようとしている。大学に予算がつかないため仕方がないと諦めている。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
21	2	2	0	業績報告時にいちいち論文情報を入力させないでほしい。共通化できるし,自動化さえ可能なはず。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
22	1	1	0	○大は特に問題なく文献がダウンロードできるが,他大学ではとても苦労していると聞いている。(大学,第1G,研究員・助教クラス,男性)
23	1	1	0	最近国際水準から遅れていると感じる(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
24	3	3	0	研究情報基盤についての情報が周知されていない。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
25	4	4	0	これは少しずつ良くなっているように思います。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
26	2	2	0	徐々に国として対応をしている様子は見えるが,その効果が見られてはいないと感じる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
27	2	2	0	震災で影響を受けた○○大学の細胞バンクや○○大学のマウスのバンク等の復旧は十分ではない。支援が必要と思われる。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,女性)
28	4	4	0	今年度より大学の予算不足からいくつかの電子ジャーナルの購読が取りやめられた。それらの中には重要なジャーナルも多く含まれており,大変困っている。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
29	1	1	0	大学予算の減少が論文アクセスにも影響し始めた(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
30	2	2	0	国研の情報公開が遅い,低い。(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,男性)
31	2	2	0	ネットワーク等の整備は進んできたが,学術雑誌を購入する資金の枯渇が問題。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
32	1	1	0	資金難を理由に,論文データベースへのアクセスがかなり制限・削減されている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
33	4	4	0	研究情報ネットワークは各学会の研究会に所属する必要があるため,個人の支出が必要となると感じている。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
34	1	1	0	データベース内の情報整理が進んでいないものが多く見受けられる。個々のデータベース内の情報を見直しかつ更新し,データベースのクオリティを高める努力が必要。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
35	2	2	0	学内の情報機器の更新が予算不足のために遅れている。(大学,社長・学長等クラス,男性)
36	1	1	0	Googleに勝る基盤が必要(大学,部長・教授等クラス,男性)
37	2	2	0	遅れている(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
38	2	2	0	情報システム全般に関する関心と資源配分のプライオリティが低い(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
39	2	2	0	入手できる論文が少なすぎる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
40	3	3	0	めまぐるしく変化しており,最新のシステムが整っていても使いこなせていないと感じる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)

41	2	2	0	データを把握している訳ではないが、日本の進展度が外国より相対的に遅い為、比べると優位性が低下しているのではと考える。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
42	1	1	0	○○○○○○研究部【公的研究機関名】、○○○○○○センター○○○○○○研究部門では、我が国の計量標準を維持・管理・供給する意思を感じられない。部門長の方針との噂だが校正を依頼しても実施してもらえないのは、職務放棄だと思う。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
43	1	1	0	全く不十分である。これでは日本の大学の地盤低下と人材の能力低下を起し、わが国の全体レベルが低下する。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
44	2	2	0	IEEEの研究情報基盤にくらべて見劣りが顕著。研究者の有期制度とともに引用論文数減少の原因と考えています。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
45	3	3	0	AIの研究が各省ごとにばらばらというのはいかがなものか。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
46	2	1	-1	状況はさらに悪化している。(大学,第1G,その他,男性)
47	4	3	-1	ジャーナル購読費用の高騰で、必要とする論文へのアクセスが困難な大学も出て来ているのでは。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
48	3	2	-1	アメリカと比較することが適切かはわからないが、論文並びに網羅的解析から得られた結果のdata base化する試みは遅れていると思う。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
49	3	2	-1	文献へのアクセスは、電子ジャーナルの高騰の影響が出ている。一方、我が国が独自に様々なデータベースを保有していることが将来のイノベーション創出の礎になる可能性が高くなっており、国を挙げた施策が必要である。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
50	5	4	-1	前任校と比べて劣っていた。(前任校が突出していた。)(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
51	4	3	-1	最近の研究評価が論文数に大きく依存している点が懸念されます。基礎研究の中には、成果が出にくい研究もあり、その評価をどのように行かかが課題と思います。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
52	3	2	-1	国際的なジャーナル(論文誌)購読費の値上げと大学の財政状況悪化により、大学から閲覧できる論文誌のタイトル数が継続的に減少している。最近はいよいよ、国際的にかなり著名な論文誌も削減の対象となってきた。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
53	2	1	-1	論文購入経費がかさんでおり、購読雑誌が減っている。必要な論文が読めなくなりつつある。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
54	3	2	-1	図書館が蔵書を維持できなくなっており、重要な資料が廃棄されつつあります。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
55	2	1	-1	工学系でIEEEが契約されていないというのは流石にいかがなものかと思われる。悪化したというわけではなく、研究に支障が出るが増えたという意味で。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
56	3	2	-1	文科省が論文のオープンアクセスを進めているが、オープンアクセスジャーナルへの投稿費用が高騰しており、その財源確保自体がむずかしくなりつつある。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
57	3	2	-1	図書館経由で購読できる科学雑誌が年々減少している(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
58	3	2	-1	国として世界中の文献を内容まですべて見られるような基盤を作るべき(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
59	3	2	-1	相対的な国際比較は悪化しつつある(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
60	2	1	-1	電子ジャーナルやデータベース整備費用の高騰により、主要大学でさえ講読契約の縮小を迫られているのが現状。研究情報へのアクセスなど知的基盤整備の環境は悪化している。大学単体では根本的な解決は不可能であり、オープンアクセス化とその費用負担等も含め、国や国際連携での根本的な対策が不可欠である。(これも日本の研究力低下の大きな要因の一つであると思われる。)(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
61	4	3	-1	欧米に比べるとまだまだ貧弱。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
62	2	1	-1	cinii 論文検索サイトの縮小、研究情報の公開が少ないなど、課題は多いと思います。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
63	4	3	-1	海外と比較して相対的に低下している。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
64	3	2	-1	予算の削減と論文誌購読料の高騰のダブルパンチで、アクセス可能な研究情報が減らされつつある。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
65	5	4	-1	論文へのアクセスの制限が次第に大きくなっている。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
66	3	2	-1	一部の研究組織に研究費・研究資源を集中投入する結果、それ以外の組織においてはあらゆる基盤が崩れつつある。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
67	4	3	-1	DB・大学図書館などを維持する費用が足りていない(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
68	2	1	-1	年度を追うごとに図書館経由でアクセス可能な電子ジャーナルの数が減少しているため。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
69	2	1	-1	大学等の交付金が減少して、知的基盤などの回せる資金が圧倒的に足りない状況になっている。特に、外部資金はこうした基盤には回すことができないために、整備どころか劣化していったるようになる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
70	5	4	-1	努力は認められるが、利活用が十分とは言えない。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
71	2	1	-1	大学予算逼迫のため、電子ジャーナルの利用が制限されている(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
72	2	1	-1	電子ジャーナル購入の費用が削減され、情報収集に多大な困難を生じている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
73	3	2	-1	電子ジャーナル購読費の高騰などもあり、徐々に悪化していると感じます。また規模が小さい大学だとWeb of Science等の検索サービスを導入することも困難です。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
74	4	3	-1	使いやすかったCiNiiがなくなったのは残念である。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
75	3	2	-1	ここ最近他大・企業との連携を図ろうと思っているいろいろやっているがセキュリティの関係からと言うことでどんどん制限がかかって使いにくくなってきている。J-stageは使いにくいですね。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)

76	4	3	-1	だんだん悪くなっている。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
77	3	2	-1	予算削減によって,大学図書館の購読雑誌数の減少が起り始めている(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
78	3	2	-1	国際的な水準に追いつくためには一層の拡充が必要(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
79	4	3	-1	運営費交付金の削減によって,研究情報基盤のための資金が不足している。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
80	4	3	-1	世界と比較して遅れていると感じるようになった。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
81	3	2	-1	電子ジャーナルの高騰により,論文誌へのアクセスが限定される。(大学,社長・学長等クラス,男性)
82	3	2	-1	電子ジャーナルの活用について大学独自の予算による確保が難しくなっている。(大学,社長・学長等クラス,男性)
83	4	3	-1	大学の特に研究IR機能に関して,外国企業の情報システムに頼らざるを得ない。(大学,社長・学長等クラス,男性)
84	2	1	-1	理工系では「紙」の資料(建屋としての図書館)へのこだわりはないが,国際的な論文誌(電子出版を含む)へのアクセスにかかる費用負担が致命的である。公的なセクターあるいは国として,情報を握る出版社と交渉する必要があるのではないか?(大学,社長・学長等クラス,男性)
85	5	4	-1	上位の研究施設では十分だが,幅広いうとそうではない(大学,部長・教授等クラス,男性)
86	4	3	-1	セキュリティの懸念が高まっている(大学,部長・教授等クラス,男性)
87	3	2	-1	大学図書館における電子ジャーナル購読費の高騰が,この先の情報基盤に大きな影響を与えるから。(大学,部長・教授等クラス,男性)
88	3	2	-1	十分だと判断する資料が不十分である。(大学,部長・教授等クラス,男性)
89	4	3	-1	年々予算が削られる中,先進国の中での相対的レベルの低下が目立ってきました。(大学,部長・教授等クラス,男性)
90	2	1	-1	電子学術情報誌の高騰により,研究情報へのアクセスが著しく困難になっている機関が多数ある(大学,部長・教授等クラス,女性)
91	2	1	-1	個人情報保護法案の改正により,遺伝子情報(個人識別情報)の伝達,データベース作りの困難さが増している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
92	3	2	-1	論文などのアクセス料金が上がっているせいもあって,アクセスできる雑誌が大幅に減った。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
93	3	2	-1	予算的な制約から電子ジャーナルの購読数が減ってきているため。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
94	3	2	-1	日本の大学の各種ランキングが下がってきており,研究者の疲弊が現れてきている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
95	3	2	-1	データの公開性をもっと議論が必要であり,セクター間での考え方の隔たりが大きい。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
96	2	1	-1	予算の関係で購読可能なジャーナル数が激減している。また世間では,オープンアクセスへという流れがあるが,論文投稿は高額である。成果普及に関する支援制度が乏しい。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
97	3	2	-1	論文へのアクセスが先細りになっている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
98	2	1	-1	関連分野の有名な学術論文が多数アクセスできません。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
99	4	3	-1	理系研究者データベースの不備を訴えるベンチャーが創業された。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
100	3	2	-1	特にAI・IoTなどの領域において先行国との差は拡大しているように感じる(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
101	4	3	-1	国際競争を勝ち抜くには,若干不十分と感じる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
102	3	2	-1	サイバー,等にセキュリティはさらなる強化,投資が必要だと考える(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
103	4	3	-1	セキュリティやデータベースは必ずしも欧米と比べて十分とは言えない(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
104	5	4	-1	情報量は十分だが,利用しやすい基盤整備が不十分(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
105	4	3	-1	研究費の配布のベースがより,実用化の戦略からバックキャストできておらず,研究者の視線の延長でしかないところに問題を感じる(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
106	5	4	-1	欧州に比べて日本(米国も)は基礎研究への投資が低い水準です。情報基盤の整備は欧州優位ですので,見直しが必要です。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
107	5	3	-2	材料関連のデータベース利用については海外に後れを取っている(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
108	4	2	-2	論文の検索ビジネスが,○○○○等の企業に独占され,大学に大きな支出を強いられている。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
109	4	2	-2	生物遺伝資源を取得,利用するための手続きとして,購入したものであるにも関わらず,あるいは自由由来の資源を利用しているにも関わらず,生命科学倫理の書類などが増加しています。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
110	4	2	-2	特定の科学誌出版社(○○○○○○○○など)の利用料が高騰した影響で,多くの研究機関で一部の論文利用ができない事態が発生している。またNIST(米国)等と比べ,データベースが十分ではない。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
111	5	3	-2	大手出版社による寡占化が進み,論文等の研究情報へのアクセスが急速に悪化している。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
112	4	2	-2	電子ジャーナルの値上がりにより,財政が窮乏している。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
113	5	3	-2	図書館経費が削減されており,研究情報アクセス等に制限がかかる恐れがある。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
114	4	2	-2	年々,journalの購読費が向上し,読むことのできる雑誌が減っている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
115	4	2	-2	一部海外出版社の値上げ・パッケージ販売(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,男性)
116	5	3	-2	CiniiからJ-stageへの移行による混乱,または読めなくなった文献が多く,国内誌へのアクセシビリティが後退したため(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

117	4	2	-2	多くの大学でコストカットを理由に多くの論文の購読契約が打ち切られている。図書館の蔵書も廃棄されている。大学においても研究機関においても学者ではない人間が経営を執るようになってきているが、彼らは文献の価値を理解できていないようだ。困っている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
118	5	3	-2	各大学によってオンラインジャーナルの購読件数に大きな差があるので、大学から国会図書館のリソースにアクセスできる等の手段がほしい。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
119	5	3	-2	どの大学でも同じだと思いますが、予算の関係上契約論文数が減ってきており、アクセスできない論文が増えました。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
120	5	3	-2	専門外である生物遺伝資源にかかわる我が国の状況が楽観できるものではないことを知ったため。(大学,社長・学長等クラス,男性)
121	5	3	-2	大学の予算が細り、有料論文検索サイトの利用が非常に厳しくなっている。(大学,その他,女性)
122	3	1	-2	予算の都合上、論文等の研究情報へのアクセスに制限が生じております。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
123	3	1	-2	ほとんどのシステムが有料、使いづらい。図書の複写依頼・貸出だけでも安くしてほしい。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
124	3	1	-2	欧米などが大きな予算を投じて巨大なデータベースを構築してデファクトスタンダード化を狙っている。データベースの維持管理に大きな予算が必要となるものの、日本ではデータベースそのものには予算がつきにくいいため、折角のデータが死滅しているように感じられる。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
125	5	3	-2	マテリアルズインフォマティクスを考えると、体系化された知的基盤の構築をさらに進める必要があると思います。企業も大学の持つデータベースを利用できる仕組みがあればと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
126	4	1	-3	大学一括契約のジャーナル閲覧料の削減のため、購読雑誌の選定が行われている。論文アクセスは研究実施上のもっとも根幹的な基盤であり、この削減は研究者にとって死活問題である。たとえ後から費用を研究費で請求できたとしても、学内で自由に閲覧可能である利便性は、論文に触れる機会を向上させる上で非常に大きな効果があると思う。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
127	4	1	-3	大学での研究雑誌購読費が高騰している。国として対策を練るべきである。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
128	5	2	-3	すでにのべたが出口志向の強い研究が推奨され基礎研究が軽視されがちと思う。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
129	4	1	-3	データの蓄積はされているが、十分有効活用されていない感がある。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
130	5	2	-3	知財行政と司法の戦略的な連携が希薄であり、行政は特許権の取得までが重点課題となりがちで、本来目指すべき特許権の行使という視点での戦略が国として(他国に比べ)希薄。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
131	5	2	-3	基本的に、どこでどのような研究を行っているかは、民間企業からは非常に判りにくい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
132	5	1	-4	所属する大学が契約している論文しかアクセスできない。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)

Q207. 公的研究機関が保有する最先端の大型共用研究施設・設備の利用のしやすさの程度(利用に際しての手続、サポート体制、利用料金等)はどうか。

回答者グループ	2017年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第4四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	353	150	382	474	383	168	31	1,588	4.2	2.7	4.3	5.8	4.3	4.2	-	-	-0.14	-	-	-	-	-	
大学等	297	131	330	393	306	146	23	1,329	4.1	2.7	4.2	5.8	4.1	4.1	-	-	-0.13	-	-	-	-	-	
公的研究機関	56	19	52	81	77	22	8	259	4.4	3.1	4.5	5.9	4.6	4.4	-	-	-0.16	-	-	-	-	-	
イノベーション・備前グループ	106	31	135	154	120	53	7	500	4.2	2.8	4.2	5.8	4.2	4.2	-	-	-0.02	-	-	-	-	-	
大企業	33	5	36	57	40	22	3	163	4.6	3.3	4.5	6.0	4.5	4.6	-	-	0.09	-	-	-	-	-	
中小企業・大学発ベンチャー	26	12	32	45	21	9	3	122	3.9	2.6	4.0	5.2	4.1	3.9	-	-	-0.21	-	-	-	-	-	
中小企業	13	3	17	21	11	5	2	59	4.1	2.8	4.1	5.5	4.4	4.1	-	-	-0.25	-	-	-	-	-	
大学発ベンチャー	13	9	15	24	10	4	1	63	3.6	2.4	3.9	4.9	3.8	3.6	-	-	-0.18	-	-	-	-	-	
橋渡し等	47	14	67	52	59	22	1	215	4.1	2.7	4.2	5.8	4.1	4.1	-	-	-0.01	-	-	-	-	-	
男性	390	161	473	573	465	200	33	1,905	4.2	2.8	4.3	5.8	4.3	4.2	-	-	-0.11	-	-	-	-	-	
女性	69	20	44	55	38	21	5	183	4.1	2.6	4.2	5.8	4.2	4.1	-	-	-0.06	-	-	-	-	-	
社長・役員、学長等クラス	57	26	82	135	96	35	2	376	4.2	3.0	4.3	5.7	4.3	4.2	-	-	-0.07	-	-	-	-	-	
部長、教授クラス	153	61	214	248	202	83	12	820	4.2	2.8	4.2	5.8	4.2	4.2	-	-	-0.02	-	-	-	-	-	
主任研究員、准教授クラス	152	57	129	145	131	55	11	528	4.1	2.6	4.2	5.8	4.4	4.1	-	-	-0.28	-	-	-	-	-	
研究員、助教クラス	88	36	74	89	57	46	12	314	4.2	2.6	4.2	6.1	4.3	4.2	-	-	-0.04	-	-	-	-	-	
その他	9	1	18	11	17	2	1	50	4.2	2.7	4.2	5.7	4.7	4.2	-	-	-0.56	-	-	-	-	-	
任期あり	133	65	166	206	157	77	12	683	4.1	2.7	4.2	5.8	4.2	4.1	-	-	-0.09	-	-	-	-	-	
任期なし	326	116	351	422	346	144	26	1,405	4.2	2.8	4.3	5.8	4.3	4.2	-	-	-0.12	-	-	-	-	-	
学長・機関長等	3	7	27	45	32	8	1	120	4.2	3.1	4.3	5.6	4.3	4.2	-	-	-0.11	-	-	-	-	-	
マネジメント実務	28	6	28	60	31	8	1	134	4.1	3.3	4.3	5.3	4.2	4.1	-	-	-0.08	-	-	-	-	-	
現場研究者	305	124	304	328	277	137	26	1,196	4.1	2.6	4.2	5.8	4.3	4.1	-	-	-0.16	-	-	-	-	-	
大規模PIの研究責任者	17	13	23	41	43	15	3	138	4.5	3.2	4.7	6.0	4.5	4.5	-	-	0.01	-	-	-	-	-	
国立大学等	189	91	219	291	240	120	21	982	4.3	2.8	4.4	5.9	4.4	4.3	-	-	-0.14	-	-	-	-	-	
私立大学	21	4	20	25	14	8	0	71	4.1	2.8	4.1	5.5	4.1	4.1	-	-	-0.04	-	-	-	-	-	
第1グループ	87	36	91	77	52	18	2	276	3.5	2.3	3.6	5.1	3.6	3.5	-	-	-0.12	-	-	-	-	-	
第2グループ	36	19	39	61	62	33	9	223	4.7	3.2	4.8	6.3	4.8	4.7	-	-	-0.07	-	-	-	-	-	
第3グループ	66	22	73	86	80	42	6	309	4.4	2.9	4.5	6.1	4.5	4.4	-	-	-0.06	-	-	-	-	-	
第4グループ	67	50	86	114	57	22	0	329	3.5	2.3	3.8	5.0	3.8	3.5	-	-	-0.31	-	-	-	-	-	
理学	122	39	125	119	86	36	5	410	3.9	2.5	3.9	5.5	3.9	3.9	-	-	-0.06	-	-	-	-	-	
工学	40	16	29	43	42	25	8	163	4.7	3.1	4.7	6.4	4.9	4.7	-	-	-0.19	-	-	-	-	-	
農学	79	36	93	93	84	49	7	362	4.2	2.6	4.3	6.0	4.3	4.2	-	-	-0.04	-	-	-	-	-	
保健	43	19	35	31	30	13	2	130	3.8	2.3	3.9	5.7	4.2	3.8	-	-	-0.36	-	-	-	-	-	
あり(過去3年間)	91	38	103	100	57	26	2	326	3.6	2.4	3.7	5.1	3.8	3.6	-	-	-0.17	-	-	-	-	-	
なし	83	27	112	127	101	43	6	416	4.2	2.8	4.2	5.8	4.2	4.2	-	-	-0.02	-	-	-	-	-	
大学・公的研究機関の知財活用(企業等)	23	4	23	27	19	10	1	84	4.3	2.9	4.3	5.8	4.3	4.3	-	-	-0.08	-	-	-	-	-	
なし(分らない)	43	12	61	68	50	25	3	219	4.2	2.8	4.2	5.8	4.4	4.2	-	-	-0.14	-	-	-	-	-	
全回答者(属性無回答を含む)	36	10	37	44	28	13	2	134	4.0	2.7	4.1	5.6	4.0	4.0	-	-	0.07	-	-	-	-	-	
	459	181	517	628	503	221	38	2,088	4.2	2.8	4.3	5.8	4.3	4.2	-	-	-0.11	-	-	-	-	-	

注1: 回答者数は、分らないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(利用しにくい)～6(利用しやすい))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(利用しにくい)～10.0ポイント(利用しやすい)となる。

Q207. (意見の変更理由)公的研究機関が保有する最先端の大型共用研究施設・設備の利用のしやすさの程度(利用に際しての手续、サポート体制、利用料金等)はどうですか。

	2016	2017	差	
1	2	4	2	組織内で研究施設・設備・機器の共用化を所管する専門部署が設置されたため。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
2	3	5	2	現機関では既に研究活動に取り入れられており,公的研究機関の保有設備利用実績がある。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
3	2	4	2	まだ,一部に共同研究に対するハードルを高めるような発言がある事務局員が見られるが,研究者レベルでは,企業化をより進める風潮が増えている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
4	1	3	2	企業から積極的に情報を探し協力を求める場合によっては改善しつつあると思われる(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
5	4	5	1	今年度から始めたJ-PARCでの実験に対してユーザーのサポート体制に満足したから(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
6	2	3	1	少しずつ整備が進んでいると感じるため。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
7	3	4	1	情報が得やすくなった。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
8	3	4	1	文科省が癌・ゲノム・脳のサポートの代わりに,イメージ支援,遺伝子改変動物の支援などにお金を投入してくださるようになったことが有難いです。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
9	4	5	1	ナノハブやSR施設は頑張っている(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
10	2	3	1	近隣の県立研究機関の保有機器が充実してきました。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
11	3	4	1	設備の増設などで利用しやすくなっていると思う。(大学,部長・教授等クラス,男性)
12	3	4	1	積極的な取り組みがおこなわれているとは思(大学,部長・教授等クラス,男性)
13	3	4	1	見直しが進んでいる,もう少し工夫が求められよう。(大学,部長・教授等クラス,男性)
14	2	3	1	少しずつ改善の方向にあるが,まだ不十分である.特に研究意欲はあっても,十分な研究時間を確保し難い(教育業務が過多の為)私学の研究者へのサポートが望まれる。(大学,部長・教授等クラス,女性)
15	4	5	1	向上している(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
16	3	4	1	放射光施設,スパコン,アカデミア保有高機能分析計測機器などの使用状況聴取により評価(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
17	3	4	1	利用しやすいような制度等の整備がされてきている(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
18	3	4	1	徐々に認知度が上がってきているように思う(公的研究機関,その他,男性)
19	2	3	1	組織的に改善準備から実行レベルになりつつあり,ガイドンスもわかりやすくなってきている。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
20	2	3	1	感覚的所感であるが,手続き等は改善傾向にあると思われる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
21	2	3	1	現在大学の保有する設備の利用をさせてもらっている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
22	4	5	1	文科省事業が広がっているため(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
23	3	3	0	良心的な金額で利用したことがあるが,探索的な内容で利用しにくい状況.先方もすぐに成果が出る内容じゃないと意味がないと思うし,利用する側から考えると,なかなか利用しにくい。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
24	2	2	0	もっと宣伝すべき. JSTやJSPS, AMED等の配分機関のホームページに宣伝バナーでも貼っておけばよい。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
25	4	4	0	整備されているが,サポート体制は貧弱な状態である。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
26	2	2	0	自機関のものは利用しやすいが他機関は若干煩雑である。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
27	1	1	0	特定の研究者のみの利用にとどまっている。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
28	3	3	0	順番待ちがかなりあり,思う時には使いづらい。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
29	5	5	0	すべては予算次第。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
30	2	2	0	あまり知られていない(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,女性)
31	1	1	0	利用料金の値上げもあり,活用しづらくなりました。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
32	2	2	0	若干高額である.設備管理は大変と思うが,より細かなサポート体制を敷いてもらいたい。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
33	1	1	0	大学共同利用機関の身勝手さを見直すべき。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
34	4	4	0	共通利用システムは適切である.ただし,分散キャンパスであり,しかも,公共交通が整備されていないため,学生が定期的に利用するのは困難である。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
35	3	3	0	課金制度が普及するとよい(大学,大学共同利用機関,その他,男性)
36	4	4	0	使用してみると便利で,移動を考慮に入れても費用対効果が良いものが増えてきたという印象を持っている。(大学,社長・学長等クラス,男性)
37	4	4	0	概ね良い.米国ほど高くはないが,サポート体制が不十分。(大学,部長・教授等クラス,男性)
38	1	1	0	最先端機器は,首都圏や関西にしかなく,それを利用するための旅費が必要ですが,潤沢な研究費を持っているわけではないので,制限が付きまします。(大学,部長・教授等クラス,男性)

39	5	5	0	〇〇【公的研究機関名】は共用促進法に基づく共用施設を有しており、積極的に利用しやすい環境構築に貢献している(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
40	3	3	0	ナノプラ利用申請の簡易化等を考えても良いのではと考える。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
41	1	1	0	少しもよくなっていない。最悪の事態が続いている。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
42	3	3	0	有効活用されていない感がある。利用費用を下げるべき。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
43	2	2	0	知らないだけかもしれないが、あっても認知度が低く、活用法を知らなければ意味がない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
44	3	3	0	大学等の大型共用研究施設は投資が続き整備されてきていると思います。ただ、主要な分野で数か所に集約し乱立は避けるべき。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
45	2	2	0	共用研究設備の内容把握が十分に出来ておらず、どのように活用するかが理解できていない。もう少し情報公開を期待したい。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
46	2	2	0	研究機関優先であり、民間は利用しにくい。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
47	3	2	-1	施設/機関に知合いが居ないと使いつらい。(大学, 第1G, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
48	3	2	-1	外国人(英語)に対するサポートが不十分(大学, 第2G, 工学, 部長・教授等クラス, 男性)
49	6	5	-1	情報公開が不十分か?(大学, 第2G, 保健, 部長・教授等クラス, 男性)
50	6	5	-1	ヘリウムの価格高騰により、利用料金にも影響があるのは仕方ないことではあるが、やはり高くなると困る。(大学, 第2G, 保健, 主任研究員・准教授クラス, 女性)
51	2	1	-1	そもそも利用の方法がよくわからない。本当に誰でも利用できるような仕組みになっているのか不明。(大学, 第3G, 理学, 部長・教授等クラス, 男性)
52	5	4	-1	利用するのに手続きが煩雑(大学, 第3G, 理学, 研究員・助教クラス, 男性)
53	4	3	-1	大型共用施設に出張する旅費の確保も危うくなっていると思う(大学, 第3G, 保健, 部長・教授等クラス, 男性)
54	3	2	-1	基盤的経費が減っており、共用設備のメンテナンスも非効率になってきている。(大学, 第3G, 保健, 部長・教授等クラス, 男性)
55	2	1	-1	従事者に職員が含まれていることが要件になっていることがある。設備の維持管理が不十分。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
56	3	2	-1	たとえばJAMSTECの公募航海の日数が激減しつつあり、海の基礎研究が難しくなっている。(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 男性)
57	6	5	-1	大型施設内装置のアップグレード欠如や、人的手当の不足が発生している(公的研究機関, 部長・教授等クラス, 女性)
58	3	2	-1	とくに国研の設備においては、特定企業とのNDAなどにより利便性は確保されていないことが少なくない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
59	5	4	-1	機関や設備によって利用しやすさがまちまちである。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
60	4	3	-1	共用といっても先行利用者の既得権があり、容易には利用できないことがある。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
61	3	2	-1	特に中小企業に向けたサポートが必要である(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
62	5	4	-1	一部の設備では利用希望者に対して設備と対応体制が不足していて利用待ちになっていることを知ったので。(民間企業等, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
63	6	4	-2	もっと簡単な手続きにしてほしい。(大学, 第1G, 研究員・助教クラス, 男性)
64	5	3	-2	機器使用は、全てが受益者負担となり、研究基盤経費が半減されていることから、利用しにくくなる。(大学, 第4G, 社長・学長等クラス, 男性)
65	4	2	-2	利用料金が不明(大学, 第4G, 部長・教授等クラス, 男性)
66	4	2	-2	新規での購入はない。(大学, 第4G, 保健, 部長・教授等クラス, 男性)
67	5	3	-2	研究補佐の昔の技官の方たちがゼロの現状では金より人手がほしいのが現状と思う。(公的研究機関, 社長・学長等クラス, 男性)
68	3	1	-2	国際共同研究を背景とした利用に関して、施設側の事務手続きが追いついていない。事務方の人材不足としか言いようがない。(公的研究機関, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
69	6	4	-2	文科省が各大学に配分していた専門職経費を止めたので、設備があっても熟練オペレーターがいなくなった(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
70	5	2	-3	施設関係者(研究者が兼務)に対する負担が大きすぎる(大学, 第1G, 理学, 研究員・助教クラス, 男性)
71	4	1	-3	数年単位の細切れのプログラムが多いのが問題。継続性を重視。たとえば「創薬プラットフォーム」での大型放射光の利用が2017年前期に仕組みが滞っていた。国全体の研究が遅れる結果に繋がる。(大学, 第4G, 理学, 主任研究員・准教授クラス, 男性)
72	5	2	-3	認知度が低い(民間企業等, 社長・学長等クラス, 女性)

Q208. 公的研究資金を用いた研究成果や研究データを公開・共有するための取組は十分だと思いますか。

回答者グループ	2017年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	129	126	410	588	451	202	35	4.3	3.0	4.4	5.9	4.4	4.3	-	-	-	-0.06	-	-	-	-		
大学等	112	106	342	493	376	166	31	4.3	3.0	4.4	5.9	4.4	4.3	-	-	-	-0.04	-	-	-	-		
公的研究機関	17	20	68	95	75	36	4	2.98	3.0	4.4	5.9	4.5	4.3	-	-	-	-0.14	-	-	-	-		
イノベーション俯瞰グループ	44	36	154	170	151	47	4	5.62	4.1	2.8	4.2	4.1	4.1	-	-	-	-0.03	-	-	-	-		
大企業	15	5	60	54	47	15	0	1.81	4.1	2.8	4.1	5.6	4.1	-	-	-	0.01	-	-	-	-		
中小企業・大学発ベンチャー	16	17	40	39	29	7	0	1.32	3.5	2.3	3.7	3.7	3.5	-	-	-	-0.22	-	-	-	-		
中小企業	10	6	19	17	15	5	0	6.2	3.8	2.5	3.9	5.5	4.0	3.8	-	-	-0.16	-	-	-	-		
大学発ベンチャー	6	11	21	22	14	2	0	7.0	3.3	2.2	3.6	4.9	3.5	3.3	-	-	-0.25	-	-	-	-		
橋渡し等	13	14	54	77	75	25	4	2.49	4.4	3.2	4.6	5.9	4.4	4.4	-	-	0.04	-	-	-	-		
男性	148	151	508	679	553	223	33	2.147	4.3	2.9	4.4	5.8	4.3	4.3	-	-	-0.05	-	-	-	-		
女性	25	11	56	79	49	26	6	2.27	4.4	3.0	4.3	5.8	4.5	4.4	-	-	-0.12	-	-	-	-		
社長・役員、学長等クラス	27	26	116	129	103	30	2	4.06	4.0	2.8	4.1	5.5	3.9	4.0	-	-	0.06	-	-	-	-		
部長、教授クラス	61	56	237	290	228	96	5	9.12	4.2	2.9	4.3	5.7	4.2	4.2	-	-	-0.01	-	-	-	-		
主任研究員、准教授クラス	51	47	129	196	162	73	22	6.29	4.5	3.1	4.5	6.0	4.6	4.5	-	-	-0.15	-	-	-	-		
研究員、助教クラス	28	31	73	119	97	44	10	3.74	4.4	3.1	4.5	6.0	4.5	4.4	-	-	-0.09	-	-	-	-		
その他	6	2	9	24	12	6	0	5.3	4.4	3.5	4.4	5.7	4.4	4.4	-	-	0.02	-	-	-	-		
任用あり	47	52	176	256	199	72	14	7.69	4.3	3.0	4.4	5.8	4.2	4.3	-	-	0.06	-	-	-	-		
任期なし	126	110	388	502	403	177	25	1.605	4.3	2.9	4.3	5.8	4.4	4.3	-	-	-0.11	-	-	-	-		
業務内容別	2	5	32	46	32	6	0	1.21	4.0	3.0	4.2	5.4	3.8	4.0	-	-	0.23	-	-	-	-		
学長・機関長等	15	11	33	62	28	13	0	1.47	4.0	3.0	4.1	5.3	4.0	4.0	-	-	0.00	-	-	-	-		
マネジメント実務	103	104	311	431	352	167	33	1.398	4.4	3.0	4.4	6.0	4.5	4.4	-	-	-0.10	-	-	-	-		
現場研究者	9	6	34	49	39	16	2	1.46	4.4	3.2	4.5	5.9	4.4	4.4	-	-	0.01	-	-	-	-		
大規模PIの研究責任者	68	84	246	354	270	123	26	1.103	4.3	3.0	4.4	5.9	4.4	4.3	-	-	-0.08	-	-	-	-		
国立大学等	9	6	23	27	23	3	1	8.3	3.9	2.7	4.1	5.5	4.0	3.9	-	-	-0.07	-	-	-	-		
私立大学	35	16	73	112	83	40	4	3.28	4.4	3.2	4.4	5.9	4.3	4.4	-	-	0.09	-	-	-	-		
大学グループ	12	17	47	67	71	34	11	2.47	4.7	3.3	4.8	6.3	4.8	4.7	-	-	-0.03	-	-	-	-		
第1グループ	23	13	73	121	91	46	8	3.52	4.6	3.4	4.6	6.0	4.6	4.6	-	-	0.00	-	-	-	-		
第2グループ	28	44	86	132	73	31	2	3.68	3.8	2.6	4.0	5.3	4.1	3.8	-	-	-0.23	-	-	-	-		
第3グループ	43	29	127	157	121	45	10	4.89	4.2	2.9	4.3	5.7	4.2	4.2	-	-	0.05	-	-	-	-		
第4グループ	17	16	34	53	55	23	5	1.86	4.5	3.2	4.7	6.1	4.6	4.5	-	-	-0.10	-	-	-	-		
理学	25	36	102	118	103	46	11	4.16	4.3	2.8	4.3	5.9	4.4	4.3	-	-	-0.16	-	-	-	-		
工学	15	15	27	48	43	23	2	1.58	4.5	3.2	4.6	6.1	4.6	4.5	-	-	-0.12	-	-	-	-		
農学	29	19	96	136	84	42	11	3.88	4.3	3.0	4.3	5.8	4.4	4.3	-	-	-0.01	-	-	-	-		
保健	29	28	123	144	128	43	4	4.70	4.2	2.9	4.3	5.7	4.2	4.2	-	-	0.00	-	-	-	-		
産学官連携活動あり(過去3年間)	15	8	31	26	23	4	0	9.2	3.7	2.5	3.8	5.3	3.8	3.7	-	-	-0.16	-	-	-	-		
なし	14	18	75	65	68	21	1	2.48	4.0	2.6	4.1	5.7	4.0	4.0	-	-	0.02	-	-	-	-		
大学・公的研究機関の 知財活用(企業等)	24	10	43	55	31	7	0	1.46	3.8	2.7	3.9	5.1	4.0	3.8	-	-	-0.22	-	-	-	-		
なし(分らない)	173	162	564	758	602	249	39	2.374	4.3	2.9	4.3	5.8	4.3	4.3	-	-	-0.05	-	-	-	-		
全回答者(属性無回答を含む)																							

注1: 回答者数は、分らないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。



Q208. (意見の変更理由)公的研究資金を用いた研究成果や研究データを公開・共有するための取組は十分だと思いますか。

	2016	2017	差	
1	2	5	3	電子ジャーナルなどが便利になった。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
2	1	3	2	整いつつあると思うが、それをやることも研究者の仕事になってきており、取られる時間が多すぎる。研究成果がある方が大変になるという相反する仕事に巻き込まれる予感。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
3	1	3	2	いろんなところで論文等のデータベース入力を求められる。国で統合できないか。(大学,第1G,研究員・助教クラス,男性)
4	1	3	2	前年度の回答では、物理学分野(特に理論系)でarXivというプレプリントサーバを通じたオープンアクセス化の慣習を考慮していなかった。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
5	2	4	2	研究データを公開・共有するための取組を充実すればするほど研究者への負担が増大する。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
6	2	4	2	AMED成果報告会が充実してきている(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
7	1	2	1	少しずつよくなっている。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
8	4	5	1	研究科図書館でグリーンオープンアクセスの取り組みを推進していると聞いたため。(大学,第1G,農学,研究員・助教クラス,女性)
9	3	4	1	オープンアクセス方針を策定し、研究成果のリポジトリへの登録を推奨する大学が徐々に増えている。また2017年4月に、○○○○研究所【大学等研究拠点・研究所等名】に「○○○○○○○○○○○○○○○○センター」が新設されるなど、論文だけでなく研究データ等を流通させるための取り組みが進みつつある。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
10	2	3	1	年々、改善されていると思う(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
11	2	3	1	オープンアクセス化が徐々に進んでいる(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
12	3	4	1	むしろ、大型共同研究施設等の利用成果報告の規制が厳しい。論文にならないような実験の失敗を許されない環境が強い。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
13	2	3	1	改善されていると感じます(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
14	4	5	1	オープンアクセスが学内説明会を通して積極的に進められている。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
15	2	3	1	少しずつ整備が進んでいると感じるため。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
16	2	3	1	ここ数年において状況は良くなってきている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
17	1	2	1	論文のOAは増えてきている(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
18	2	3	1	まだ十分とは言えませんが、論文のオープンソース化が少しずつ進んでおり、改善傾向にあると考えます。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
19	2	3	1	オープンアクセスデータが増えていると感じる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
20	1	2	1	論文のオープン化が進んでいる。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
21	2	3	1	Open accessに対する取り組みによって一部については公開が進んで来ている。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
22	1	2	1	オープンデータへの取り組みは始まったが成果が出るにはまだ時間がかかる。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
23	2	3	1	取組みはいろいろ行われているように見える。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
24	2	3	1	オープンアクセス可能なジャーナルなどが増えてきている。一方で、業績審査のエビデンス(論文&研究の質保証)には利用しがたい。(大学,社長・学長等クラス,男性)
25	2	3	1	KAKEN、researchmapの連携活用が整備された(大学,部長・教授等クラス,男性)
26	3	4	1	一部では進んできた(大学,部長・教授等クラス,男性)
27	2	3	1	研究成果の公開などまだ十分ではないが進んでいると感じる。(大学,部長・教授等クラス,女性)
28	3	4	1	国内アカデミアの広報活動から評価(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
29	5	6	1	最近は成果のアウトプットを求められることが多いため、たいしたことのない成果まで強調される場合があり、疑問を感じる。研究成果のパンフレット等は過剰に感じる。本当に良い成果で普及が見込まれるものを、強調すべきと思う。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
30	1	2	1	技術インフラ(ネットワーク等)の整備と意識変化(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
31	2	3	1	Jstage等、情報の集約が徐々に進んでいる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
32	2	3	1	データベースの構築は以前より整備されてきていると思われます。研究者インセンティブについては不明。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
33	3	3	0	研究者へのインセンティブの付与不足ではないかと思う。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
34	1	1	0	研究成果についての情報の公開、共有の仕組みの対象を公的研究資金に限定している時点で、不十分である。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
35	2	2	0	お金が減っているのにさらにオープンアクセスにするためのお金をその枠から払えというのはあんまりだと思います。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
36	2	2	0	充足率が低いのにオープンアクセス費用を支出すると、直接経費がなくなる。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
37	2	2	0	関連する書類が煩雑すぎる公的資金が多い。研究論文を投稿するだけでそれと同じかそれ以上ページ数の申請書類が必要になる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

38	1	1	0	オープンアクセス化などの必要は理解できるものの、圧倒的にこうした基盤的な経費が不足している。外部資金のほとんどはこうした基盤的な施設・設備には使えない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
39	4	4	0	共有する研究者へのインセンティブ制度は知らなかった。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
40	2	2	0	電子ジャーナルの価格高騰の問題が深刻化してきている。(大学,社長・学長等クラス,男性)
41	2	2	0	論文のオープンアクセス化が十分でない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
42	2	2	0	論文刊行について米国や中国は国が相当額の予算を出している(全米アカデミーなど)。我が国も補助ではなく出版を主体的に行うべきである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
43	1	1	0	各研究室でのテクニカルサポートが少ない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
44	4	4	0	民間の学会や展示会などもっと積極的に活用すべきだが,公的機関の人員不足が原因か消極的なのか不明だが,すべて民間に丸投げしている。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
45	4	4	0	今後医療データの活用を積極的に行っていくことが求められているが,国と研究機関と協力した取り組みが重要(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
46	2	2	0	論文のオープンアクセス化も不十分と考える。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
47	1	1	0	インセンティブを上げるものになっていない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
48	2	2	0	科研費の報告書提出が義務化されたが, ページ数が少なすぎる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
49	3	3	0	どちらかというと,海外の取り組みに押されて,変化ないが比較感覚で見ると劣勢に見える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
50	1	1	0	耳にしたことがない,学会や会誌でPRしてるのか?(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
51	3	3	0	研究そのものだけでなく,社会的意義等をわかりやすく説明すべき。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
52	3	3	0	公費を用いた研究は論文のオープンアクセス化はすべきと考えます。ただし,研究データやノウハウの部分(論文に書かないこと)までの公開は,不要。そうでないと企業は,研究に参加できません。(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
53	2	1	-1	海外ではモデルもデータも公開して共同で改善していく取り組みが広まっている一方,国内ではまだまだ取り組みが不十分。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
54	2	1	-1	インフラ整備のための資金が圧倒的に足りていない。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
55	3	2	-1	オープンアクセス化を推進するのは理解できるが,その費用を出してくれないのは理解できない。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
56	3	2	-1	公的研究資金による研究成果は,うまく行かなかった実験データも含めデータベース化を進めるとともに,それらがすべて国民のものであるという意識を徹底する必要がある。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
57	2	1	-1	研究データの公開・共有は行われているようにみえて, されていないのでは。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
58	3	2	-1	あまり改善が進んでいないように思われる。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
59	4	3	-1	引退した,引退する研究者の研究データを適切に保存する仕組みと予算が必要です(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
60	2	1	-1	オープンアクセスに係る出版費用の助成はないようにみえる。研究費で全て賄うとすると,出版費用の負担が増え,消耗品に回せる予算が減ることになる。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
61	3	2	-1	あまり見えてこない(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
62	5	4	-1	進んでいない(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
63	3	2	-1	欧米のように,グラント(KAKENHI)をもらったら,オープンアクセス化をする,などの手を早めに打たないと,論文引用が下がり,日本の研究の相対的なインパクトが下がっていくと考える。研究費を配っている機関がジャーナルと交渉するのがよいのでしょうか?(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
64	5	4	-1	論文投稿の際のオープンアクセス代(大体1本30万円)が高いので,論文をデポジットできる公的なサイトが欲しい。論文を発表するほど,実験に使える経費が減少してしまうのは,ナンセンスだ。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
65	4	3	-1	資金難のため年々閲覧できる雑誌が減らされている。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
66	3	2	-1	インセンティブがない(大学,第4G,部長・教授等クラス,女性)
67	4	3	-1	オープンアクセス化のために出版社へ支払う費用を研究費とは別途(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
68	2	1	-1	表向きのフォームがないので自分たちで構築しようとしている(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
69	4	3	-1	オープンアクセス化するために研究費を追加で支出しないといけないのでは,何のインセンティブにもならない。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
70	3	2	-1	オープンアクセス化については,さらなる対応が必要(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
71	6	5	-1	企業との共同研究が増え,徐々にではあるが,大学もデータをマスクするようになってきている(大学,部長・教授等クラス,男性)
72	4	3	-1	JST支援などが厳しさを増している。(大学,その他,女性)
73	3	2	-1	とくに企業における研究(治験)データのシェアリングに関するシステムが成熟していない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
74	3	2	-1	担当する人が不足。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
75	3	2	-1	自分の分野に限った話であるが,オープンアクセス化は進みつつある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
76	4	3	-1	サイバーセキュリティの確保に必要な措置が資金等により十分にとれず,一部の研究データベースを公開停止等(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
77	5	4	-1	プラットフォーム化が十分でないように思われる(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)

78	4	3	-1	報告書などの公開はされているが、それを他の研究に応用できるほど、共有はされていないと思う(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
79	3	2	-1	研究者個人がアウトリーチとして行うには負荷が大きすぎるため、サポート体制の構築が必要。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
80	5	4	-1	世界に比べ、さらなる取組をスピードUPすべきという観点で、昨年より後退した訳ではないが、推進すべき。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
81	2	1	-1	うまく活用できるための、ポータルのような仕組みが必要では？個別には公表されているのだと思うが、素人がそれにとり着くのが難しいような気がする。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
82	5	4	-1	公的機関が実施した調査のデータが一般には利用できない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
83	4	3	-1	公的研究資金用いた研究であっても、公開・共有と知的財産化の両面から見た議論する必要があると思います。単に公開・共有するだけでなく、知的財産化が絡む場合は、すぐには公開できない場合の研究者へのインセンティブをどう考えるかの議論が重要である。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
84	3	2	-1	公開の機会はあるが、産業界で利用しやすいように提案されることが望ましい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
85	5	4	-1	オープンアクセスがそれほど普及していないように思われる(知らないだけかもしれません)(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
86	3	1	-2	オープンアクセス化を推奨するくせに研究費は増額されない。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
87	6	4	-2	研究成果を公開・共有することによるメリットをあまり実感できない。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
88	4	2	-2	不十分。世界のトップ大学では、いわゆるトップジャーナルで発表する論文に対して、積極的に論文のオープンアクセス化や研究データの公開等を支援する制度が多くあるが、日本の国立大では、あまり聞かない。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
89	4	2	-2	これらの活動も競争的資金が必要。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
90	4	2	-2	有期雇用者が多いため、研究準備期間、研究成果の公開時期、特許関連などが影響し、円滑な情報共有が非常にしづらい環境となっている。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
91	5	3	-2	運営費交付金削減のため、インセンティブ等付与が困難となっている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
92	3	1	-2	オープンアクセス化により、その資金も海外にながれることになっている。国内で強い国際科学雑誌が必要である。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
93	4	2	-2	公開するための資料作りに時間をとられ、すぐ矛盾を感じる。なんのため公開か。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
94	5	3	-2	公開・共有は行われていると思うが、インセンティブ付与までは至っていないと思われる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
95	5	3	-2	オープンアクセス誌への費用負担は研究費で行わなければならない、メリットがない(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
96	3	1	-2	私大にまではお金が回っていないのでは？(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
97	3	1	-2	インターフェース、アクセスがフレンドリーではないため、有効活用できない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
98	3	1	-2	論文数が莫大な量になっている昨今、研究成果の共有化は重要で玉石混交の論文よりきちんとしたDB情報が重要と感じる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
99	3	1	-2	情報公開の拡大を期待したい。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
100	5	3	-2	大学の知財に関する資金、フォロー体制が不十分だと感じます。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
101	4	1	-3	これまで問題点を理解していなかったため比較的高い評価をしていたが、欧米の取り組みに比べ、近年周回遅れであることを知った。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
102	6	1	-5	論文のオープンアクセス化には多額のお金がかかる。全く支援が無いのにオープンアクセス化を求めるのはおかしい。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)

Q209. 科学技術に関する政府予算は、日本が現在おかれている科学技術の全ての状況に鑑みて十分だと思いますか。

回答者グループ	2017年度調査													各年の指数					指数の変化				
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第4四分点	中央値	第4四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年	
		1	2	3	4	5	6																
大学・公的研究機関グループ	56	827	625	254	115	47	17	1,885	1.9	0.9	2.0	3.2	2.1	1.9	-	-	-0.25	-	-	-	-	-	
大学等	46	711	522	205	93	37	12	1,580	1.8	0.9	1.9	3.2	2.0	1.8	-	-	-0.25	-	-	-	-	-	
公的研究機関	10	116	103	49	22	10	5	305	2.2	1.1	2.3	3.7	2.4	2.2	-	-	-0.25	-	-	-	-	-	
イノベーション推進グループ	26	189	211	102	46	26	6	580	2.4	1.3	2.5	3.9	2.7	2.4	-	-	-0.31	-	-	-	-	-	
大企業	6	47	77	40	15	10	1	190	2.6	1.7	2.7	4.1	2.7	2.6	-	-	-0.12	-	-	-	-	-	
中小企業・大学発ベンチャー	10	37	57	25	12	5	2	138	2.5	1.6	2.6	4.0	2.8	2.5	-	-	-0.33	-	-	-	-	-	
中小企業	6	12	30	17	5	1	1	66	2.7	1.9	2.8	4.1	3.1	2.7	-	-	-0.39	-	-	-	-	-	
大学発ベンチャー	4	25	27	8	7	4	1	72	2.4	1.2	2.3	3.8	2.6	2.4	-	-	-0.27	-	-	-	-	-	
橋渡し等	10	105	77	37	19	11	3	252	2.1	1.0	2.1	3.6	2.6	2.1	-	-	-0.45	-	-	-	-	-	
男性	67	907	772	320	142	68	19	2,228	2.0	1.0	2.1	3.3	2.2	2.0	-	-	-0.27	-	-	-	-	-	
女性	15	109	64	36	19	5	4	237	2.0	0.9	1.9	3.6	2.2	2.0	-	-	-0.22	-	-	-	-	-	
社長・役員、学長等クラス	14	166	153	60	26	11	3	419	2.0	1.1	2.1	3.3	2.2	2.0	-	-	-0.29	-	-	-	-	-	
部長、教授クラス	15	407	337	134	51	23	6	958	1.8	1.0	2.0	3.2	2.1	1.8	-	-	-0.28	-	-	-	-	-	
主任研究員、准教授クラス	27	281	198	92	47	25	10	653	2.1	1.0	2.0	3.5	2.3	2.1	-	-	-0.20	-	-	-	-	-	
研究員、助教クラス	20	147	128	58	31	14	4	382	2.2	1.1	2.2	3.7	2.4	2.2	-	-	-0.23	-	-	-	-	-	
その他	6	15	20	12	6	0	0	53	2.3	1.5	2.6	4.0	3.0	2.3	-	-	-0.62	-	-	-	-	-	
任期あり	27	299	279	121	57	26	7	789	2.1	1.1	2.2	3.5	2.3	2.1	-	-	-0.17	-	-	-	-	-	
任期なし	55	717	557	235	104	47	16	1,676	1.9	1.0	2.0	3.3	2.2	1.9	-	-	-0.31	-	-	-	-	-	
学長・機関長等	0	52	50	16	5	0	0	123	1.6	1.0	2.0	3.0	1.7	1.6	-	-	-0.16	-	-	-	-	-	
マネジメント実務	2	64	60	26	7	3	0	160	1.8	1.0	2.1	3.2	2.0	1.8	-	-	-0.19	-	-	-	-	-	
現場研究者	52	643	468	191	92	40	15	1,449	1.9	0.9	2.0	3.2	2.1	1.9	-	-	-0.27	-	-	-	-	-	
大規模PIの研究責任者	2	68	47	21	11	4	2	153	1.9	0.9	2.0	3.3	2.1	1.9	-	-	-0.18	-	-	-	-	-	
国立大学等	28	547	354	142	63	27	10	1,143	1.7	0.9	1.8	3.1	2.0	1.7	-	-	-0.26	-	-	-	-	-	
公立大学	3	33	32	15	5	4	0	89	2.1	1.1	2.3	3.5	2.2	2.1	-	-	-0.11	-	-	-	-	-	
私立大学	15	131	136	48	25	6	2	348	2.0	1.1	2.2	3.3	2.2	2.0	-	-	-0.24	-	-	-	-	-	
第1グループ	6	122	70	31	20	7	3	253	1.9	0.9	1.8	3.3	2.2	1.9	-	-	-0.35	-	-	-	-	-	
第2グループ	13	169	116	49	17	8	3	362	1.7	0.9	1.8	3.1	1.9	1.7	-	-	-0.18	-	-	-	-	-	
第3グループ	9	187	108	57	25	8	2	387	1.8	0.9	1.8	3.3	2.0	1.8	-	-	-0.25	-	-	-	-	-	
第4グループ	17	207	205	60	27	12	4	515	1.8	1.0	2.1	3.1	2.0	1.8	-	-	-0.20	-	-	-	-	-	
理学	4	101	53	24	10	10	1	199	1.8	0.8	1.6	3.2	2.0	1.8	-	-	-0.24	-	-	-	-	-	
工学	18	190	135	56	27	10	5	423	1.9	0.9	1.9	3.2	2.1	1.9	-	-	-0.28	-	-	-	-	-	
農学	4	91	46	17	10	3	2	169	1.6	0.8	1.5	3.0	1.8	1.6	-	-	-0.27	-	-	-	-	-	
保健	15	162	147	56	25	9	3	402	1.9	1.0	2.1	3.2	2.1	1.9	-	-	-0.20	-	-	-	-	-	
産学官連携活動あり(過去3年間)	17	157	180	81	36	24	4	482	2.3	1.3	2.4	3.8	2.7	2.3	-	-	-0.35	-	-	-	-	-	
なし	9	32	31	21	10	2	2	98	2.5	1.3	2.6	4.2	2.6	2.5	-	-	-0.10	-	-	-	-	-	
大学・公的研究機関の知財活用(企業等)	10	60	107	51	18	14	2	252	2.6	1.7	2.7	4.1	2.7	2.6	-	-	-0.08	-	-	-	-	-	
なし(分らない)	14	52	56	23	16	6	3	156	2.4	1.3	2.4	4.0	2.9	2.4	-	-	-0.48	-	-	-	-	-	
全回答者(属性無回答を含む)	82	1,016	836	356	161	73	23	2,465	2.0	1.0	2.1	3.3	2.2	2.0	-	-	-0.26	-	-	-	-	-	

注1: 回答者数は、分らないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)～6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)～10.0ポイント(十分)となる。

Q209. (意見の変更理由)科学技術に関する政府予算は、日本が現在おかれている科学技術の全ての状況に鑑みて十分だと思いますか。

	2016	2017	差	
1	1	3	2	研究機関、または配分が分散しすぎている。総額は十分だと思う。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
2	1	2	1	少なくはないが,応用研究に偏った配り方はシリアスな問題。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
3	5	6	1	全体の金額増でなく個別の研究者の状況に合わせた配分が必要です。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
4	2	3	1	全体予算規模も重要だが,何に使うかが課題(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
5	1	2	1	十分とは言えないが,社会情勢等もあり,簡単に増やせない事情もわかる。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
6	1	2	1	総額よりは使途の精査が必要と感じる(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
7	1	1	0	後追い研究や独創的でない類似研究は,予算が桁違いの中国に勝てるはずがない。独創的な研究(その研究者から始まったオリジナルの発想や圧倒的な技術)に潤沢な予算をつけるべきで,その研究を「辞めさせない」ことが重要である。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
8	1	1	0	先進国と言えない規模。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
9	1	1	0	選択と集中という政策は,結果として失敗していることは明らかであるが,引き続きおこなわれ,更には強化されつつあるから。(大学,第1G,その他,男性)
10	1	1	0	研究費の少なさは新聞等で報道されているとおり。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
11	1	1	0	必要などところに配置されていない印象がある(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
12	1	1	0	諸外国における科学技術関連の予算の伸び率と比較して,日本における伸び率は非常に小さいか,ほとんど変わっていない。相対的には減少していることを意味する。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
13	2	2	0	研究費は教育と同様,将来への投資である。社会福祉とのバランスの議論は必要であるが,長い目で考える必要がある。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
14	4	4	0	総額の問題ではなく,配分とその利用の問題の方が大きい。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
15	2	2	0	成果(論文数)主義,動向主義になっていることが気になります。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
16	1	1	0	科学技術に関わる人材育成への投資が極めて貧弱である。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
17	3	3	0	基盤的経費の減少により,安定した職の減少と外部研究費獲得などのための業務に忙殺される現状がそこかしこで見られる。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
18	1	1	0	他の先進国が科学技術研究費を増やしているのに対し,日本は横ばいである。輸出できる資源が少なく技術面で補う必要のある日本にとって,大変憂慮すべき状況である。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
19	5	5	0	合計金額は十分だが,一部に偏りすぎている。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
20	1	1	0	特に基礎研究および若手研究者が安定して研究に従事できる環境が極めて劣悪。これが根本的に改善されない限り日本の研究力や研究水準の低下傾向はより加速する。早急に,長期的視点に立ち,将来に向けた思い切った投資(特に基礎研究への投資)に取り組むべきである。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
21	2	2	0	基本となる研究費が減っている。研究費の取り易い,成果主義の研究にシフトするので,学問分野の偏りが大きくなる。(大学,第3G,工学,社長・学長等クラス,男性)
22	2	2	0	科学技術立国である日本の将来を考えると予算の5%程度まで引き上げても良いのではないかと。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,女性)
23	2	2	0	予算確保・削減の努力を各大学が行っているが,それでも不足しているように感じる。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
24	1	1	0	配り方が悪いのがありますが・・・(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
25	1	1	0	額が減少しているうえに選択と集中のおかげでマイナー分野の研究費が確保できなくなった(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
26	1	1	0	アジア圏においても日本の科学技術の地盤沈下が続いており,これを打開するためには予算の充実が不可欠。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
27	1	1	0	政府,関連省庁に危機感がないのではないかと。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
28	1	1	0	中国は巨額の資金で海外研究者を集めている。海外から見ると,日本の研究環境は魅力が低い。(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,男性)
29	1	1	0	予算が一部に集中しすぎている。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
30	1	1	0	社会福祉費の額にくらべると,非常に少ないが,科学に予算を投入すべきだ。次世代を育てることが極めて重要である。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
31	1	1	0	すぐ実用できる研究に対する割合が多いような印象がある。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
32	4	4	0	研究費自体は十分であるが項目によっては使用制限による制約があるように感じる。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
33	1	1	0	評価基準は,予算総額の問題では無いと感じている。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
34	1	1	0	政府予算は割とある方だが,地方大学への配分にバイアスがかかっている。○大に流れ過ぎていると思う。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
35	1	1	0	海外の大学と比較して,不十分であり,優秀な研究者は海外に出て行っている。(大学,社長・学長等クラス,男性)
36	1	1	0	単年度主義,不安定予算では,科学技術は発展しない(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
37	2	2	0	世界の伸びに全く追いついていない(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)

38	6	6	0	十分です.その配分の仕方が問題です.一つのラボに,集中的に予算を投入するのは,必ずしも良くない,実際には,年度末には,使い切れずに,無駄なものを購入しているケースも多々あると思う.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
39	1	1	0	防衛研究に使う前に,科研費を増額すべき.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
40	3	3	0	総額よりも,テーマ選択,配分や運用の仕方をもっと多様的にし,かつ手続きは簡略化する必要がある.(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
41	1	1	0	省庁の委託費を研究資金にカウントすべきでない.ひもつき予算は,出口が決まっており,真に新しい技術を生み出す,トライアンドエラーが許される研究費が少なくなってきた.(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
42	3	3	0	十分とは思いませんが,現状のようにも致し方ないと考えています.科学技術の研究開発とは,必ずしも役に立つとは言えない活動であり,それらへ投資としますので.(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
43	1	1	0	科研費予算をもっと増やすべきと思う.(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
44	1	1	0	まだまだ不足である.(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
45	1	1	0	左の数値は人件費を含むので,研究者が使用できる研究費を表示すべき(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
46	1	1	0	規模の問題ではない.分配の問題.(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
47	3	3	0	適切な配分と評価がなされていない.(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
48	1	1	0	少ないと思う.4~5%は欲しい.(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
49	1	1	0	論文発表数や特許出願数からみても,世界の中での日本国の地位低下がみられる(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
50	2	2	0	諸外国に比べて,相当貧弱と感じる.(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
51	2	1	-1	世界での競争力がどんどん落ちていっている.(大学,第1G,社長・学長等クラス,男性)
52	3	2	-1	基礎研究に対する配分が十分だとは思えないから.(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
53	4	3	-1	決して十分ではないが,国の財政状況を考えると妥当(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)
54	2	1	-1	年々状況が悪くなっているように感じるので,不十分だと思う(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
55	2	1	-1	先進国間では低い予算額(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
56	3	2	-1	現状,ノーベル賞とかが増えていることに自己満足し将来的な見通しに欠けている.(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
57	2	1	-1	基盤的経費が全く不足している.競争的資金に重きを置き過ぎである.(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
58	2	1	-1	特定の分野に偏りすぎであり,全体的なレベルアップにつながっていない(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
59	2	1	-1	基礎的な部分がこの20年で(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
60	2	1	-1	日本の軍事費の対GDP比率(2016)がほぼ1%(0.99%)となっているのに対し,科学技術関係経費がそれ以下の0.7%.これで科学技術立国を標榜できるのか.(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
61	2	1	-1	不十分だと思うが,応用研究のように,見返りを求めるような経費としてどんどん増額していくのであれば,あまり研究の発展に意味がない.(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
62	2	1	-1	諸外国と比較すると低いが,国力が衰退中の我が国ではしかたのない事かもしれない.(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
63	4	3	-1	景気が上向いたのならもう少し増やしてよいのではないのでしょうか.(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
64	2	1	-1	全く不十分だから論文数や引用数,ランキングが低下しています.(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
65	3	2	-1	中国が躍進している中,本邦GDP比率は,欧米諸国に比すると明らかに少なすぎる(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
66	2	1	-1	海外先進国と比較すると,十分とはとても言えない.(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
67	2	1	-1	基盤的経費が少なすぎる.(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
68	3	2	-1	中国が躍進している中,本邦GDP比率は,欧米諸国に比すると明らかに少なすぎる(大学,第3G,その他,男性)
69	4	3	-1	我が国の研究論文報告数が低下しており,これは憂慮すべき事象である.今日,実験材料費ばかりでなく論文の投稿料までも一般に高額になり,科学技術費の予算増額が望まれる.(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
70	2	1	-1	運営費交付金の縮減が人材の減少に直接的につながっており,運営業務にかかる作業時間が増加(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
71	3	2	-1	中国などの頭額を見ていると,日本はもっと出してもよいのではないのでしょうか.(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
72	2	1	-1	予算総額も不十分,効果的な分配がかなりの分野できていない(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
73	4	3	-1	もう少し充実させて欲しいと思う(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
74	3	2	-1	雑誌購読費用の高騰をカバーできる予算が確保できなくなってきたので,相対的に悪化している.(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
75	3	2	-1	金額は小さくないように思うが,大教授に多くの資金が余分に流れているように思い,未来を担う若手研究者への配分が結果的に多くないように思う.(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
76	2	1	-1	さらなる増額が必要と思う.(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
77	3	2	-1	大学への交付金減額は進めるべきではないと感じます.(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
78	3	2	-1	研究を進めていくにつれ,必要な人的資源の確保が困難であると感じる.(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
79	2	1	-1	良く指摘されるように日本の高等教育・基礎研究に支出される研究費は,他国に比べて圧倒的に少ない.(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
80	2	1	-1	基礎,応用の割合でみると基礎研究の低下,応用の増加となっている.(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)

81	2	1	-1	状況の悪化に対応し切れていないと感じる。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
82	2	1	-1	研究費を毎年削るようでは先が無い(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
83	2	1	-1	他国(競争相手国)と比べて,非常に少ない。国全体としての総額ではなく,国民一人当たり,あるいは,研究者一人当たり,企業の従業員一人当たりの額(平均値)とともに,その分布や分散値も明らかにすべき。(正規分布を想定した議論は実情に合わない)(大学,社長・学長等クラス,男性)
84	3	2	-1	減少傾向を感じる(大学,部長・教授等クラス,男性)
85	2	1	-1	物質科学,物理学,応用物理などの分野で,論文数の低下に歯止めがかかかっていないと感じます。ほとんどの製造業で研究所モデルが成立していない現状では,政府予算はより重要だと思います。(大学,部長・教授等クラス,男性)
86	2	1	-1	全く不十分である。文部科学技術行政にアカデミアから一定期間人材を招いて政策決定に関わらせるべきである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
87	3	2	-1	公的研究予算が縮小している。(大学,部長・教授等クラス,男性)
88	2	1	-1	年々,自由な研究が難しくなり,目先や利益に結びつく研究を優先せざるを得なくなっております。(大学,部長・教授等クラス,男性)
89	2	1	-1	資源もない日本は,世界一の科学技術でしか生き残れないのに,そのベースがなくなっている。7年後にはシーズがなくなるといふ声も聞こえる。国の予算の10%を科学技術に回し,その半分は大学などの基礎研究に回すべきである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
90	2	1	-1	年々厳しくなって,ゆとりというものが感じられなくなっている。これでは将来の科学技術を支える基礎研究が消滅する。(大学,部長・教授等クラス,男性)
91	2	1	-1	一般に,より厳しい状況になってきている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
92	4	3	-1	限られた原資を用いた重複投資が多すぎる。(大学,その他,男性)
93	5	4	-1	近年の実情は正確にはわからないがまずまず満たされている(やる気のある研究者にとっては)とおもわれる。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
94	2	1	-1	基礎研究の研究費が不足。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
95	2	1	-1	中国,ロシア等の伸びに追従が不十分(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
96	2	1	-1	基礎研究に関する予算が減少(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
97	2	1	-1	中国などの伸びを鑑みると,研究人材の確保が急務であり予算の拡充が必要。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
98	2	1	-1	“教育族”という族議員がいませんね,お金にならないからでしょうか。そして,戦前・戦中を引きずっているかのように,“苦学生”が美学であるかのように称揚されている面があるように思います。最先端の研究にはお金がかかるので,最高の環境で実施すべきです。研究現場では,装置や設備に対してケチをせざるを得なく,安物買いの銭失いに陥るケースが散見されます。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
99	2	1	-1	若手研究者の正規雇用率があまりに低い。この一因として交付金の不足が挙げられると思う。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
100	2	1	-1	現状のままだと他国に対して遅れをとりつつあり,早急な強化が必要(公的研究機関,その他,男性)
101	2	1	-1	日本にとって科学研究がいかに重要か,しかもスピード感がなく,もっと加速すべきという意味も含めた評点で,昨年からの後退を意味しない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
102	2	1	-1	内訳が分からないので何とも言えないが,優先分野ごとにみれば少ないのでは? その分野で韓国や中国と比べれば明らかではないかと。また,官民合わせて比べないといけないし,国として推進したいのであれば,対外的に相応の額が必要になるのは明らか。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
103	3	2	-1	アカデミアで研究費の窮状を耳にする(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
104	4	3	-1	運営交付金の減少など年々厳しい状況になっているが,増加施策があまり見られない(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
105	2	1	-1	全世界を俯瞰して考えると,抜本的な対策が必要な状況が昨年以上に進展していると感じています(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
106	3	2	-1	日本の資源として科学技術を育てていくためには日本全体としての(地方の大学も含めた)ロードマップの共有が必要だと思います。(民間企業等,社長・学長等クラス,女性)
107	2	1	-1	科学技術にかかる予算のGDP比率という面では,日本は科学技術立国であり,継続的に発展させていくという意味で,防衛費よりも多くてもいいように思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
108	5	4	-1	事業化するとその後続けて,継続的に研究を行うことができない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
109	2	1	-1	基礎研究に対する予算は十分とは言えない(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
110	2	1	-1	諸外国の科学技術関連政府予算の伸びに対して,日本は大きく遅れていて,年々差が広がっている。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
111	5	4	-1	技術立国であることからもっと増額してもいいと思う(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
112	5	4	-1	諸外国の近年の予算増が大きいため相対的に(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,女性)
113	3	2	-1	中国からの論文,特許が大幅に増えている。日本も予算を増やして活性化すべき。(民間企業等,その他,男性)
114	4	3	-1	欧州に比べて低い水準です。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
115	2	1	-1	GDP比率を1%近くまで上げるべき。(民間企業等,その他,男性)
116	5	3	-2	大型プロジェクトには資金が付いていると思うが,基盤経費や比較的小さな資金は減ったと感じる。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
117	5	3	-2	より集約化・大型化の方向にあり,出口志向が続いている。このような傾向は科学の発展という観点から,量的にみても質的に見ても,好ましくない。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
118	5	3	-2	研究を支える人材確保の仕組みが必要だと思います。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
119	3	1	-2	大学教員の労働時間の増加に反して,予算は削減されているように感じる。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)

120	4	2	-2	基礎研究への配分が少ないように感じます.特に,応用が全く期待できない基礎研究への投資が不十分だと感じています.(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
121	4	2	-2	論文発表数が他国に比較して,停滞している.(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
122	3	1	-2	海外の有名な雑誌に日本を憂う記事が良く出ています.その通りだと思います.米国並みの研究費を確保して世界競争力をつけるべきです.(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
123	5	3	-2	国立大学偏重の傾向が各所で言われているので,改善が望まれる.(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
124	4	2	-2	人材確保等,困難になってきている.(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
125	4	2	-2	基礎的研究を担う大学の基礎的な経費である運営費交付金の減額が,研究者の削減に向いており,いよいよ看過できない状況になってきている.(大学,部長・教授等クラス,男性)
126	3	1	-2	研究予算額の問題ではなく,自由度と学際性の問題が顕著.日本の予算は役人が管理しやすいこつぽ型.米国も同様だが,境界領域や学際的研究をHHMI,Zuckerburg Foundation,Gates Foundation,Sloan Foundationなどの巨大財団が支援しているため,ノーベル賞級の発見が多く生まれる.日本にはそれがないため,大型予算はすべて政府系のたこつぽ型になるため,画期的な成果は生まれにくい.(大学,部長・教授等クラス,男性)
127	6	4	-2	気候変動により農業の被害等が増加しており,その対策等のための予算拡充が必要に感じるようになりました.(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
128	5	3	-2	技術進歩に対する社会変化が諸外国に比べて遅いと感じるから(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
129	4	2	-2	まったく足りない.日本の競争力向上を目的として,集中すべきところを決めるべき.(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
130	3	1	-2	シードの開発投資について,イスラエル並みにより事業性の目利きのある部隊から投資していく形が望ましいと思う.(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
131	5	2	-3	ここにきて一気に悪くなった.(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
132	5	2	-3	基礎研究に関して不十分と思う.(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)



Q210. 政府の公募型研究費(競争的研究資金等)にかかわる間接経費は、十分に確保されていると思いませんか。

回答者グループ	2017年度調査											各年の指数					指数の変化					
	分らない	6点尺度回答者数(人)						回答者合計(人)	指数	第1四分点	中央値	第3四分点	2016	2017	2018	2019	2020	16→17	17→18	18→19	19→20	16→最新年
		1	2	3	4	5	6															
大学・公的研究機関グループ	187	318	464	428	281	179	84	1,754	3.8	2.1	3.7	5.6	4.0	3.8	-	-	-0.23	-	-	-	-	-
大学等	159	279	394	346	228	153	67	1,467	3.7	2.0	3.6	5.6	3.9	3.7	-	-	-0.20	-	-	-	-	-
公的研究機関	28	39	70	82	53	26	17	287	4.1	2.4	4.0	5.8	4.4	4.1	-	-	-0.36	-	-	-	-	-
イノベーション・ベンチャーグループ	100	76	172	120	74	43	21	506	3.6	2.2	3.4	5.3	3.8	3.6	-	-	-0.15	-	-	-	-	-
大企業	50	16	60	42	12	13	3	146	3.4	2.2	3.3	4.7	3.5	3.4	-	-	-0.11	-	-	-	-	-
中小企業・大学発ベンチャー	29	21	42	23	22	6	5	119	3.4	2.0	3.2	5.2	3.3	3.4	-	-	0.11	-	-	-	-	-
中小企業	24	7	16	13	8	3	1	48	3.5	2.2	3.5	5.0	3.2	3.5	-	-	0.24	-	-	-	-	-
大学発ベンチャー	5	14	26	10	14	3	4	71	3.4	1.9	3.0	5.4	3.4	3.4	-	-	0.02	-	-	-	-	-
橋渡し等	21	39	70	55	40	24	13	241	3.8	2.2	3.7	5.7	4.1	3.8	-	-	-0.30	-	-	-	-	-
性別	243	357	584	492	324	207	88	2,052	3.7	2.1	3.6	5.5	3.9	3.7	-	-	-0.20	-	-	-	-	-
男性	44	37	52	56	31	15	17	208	3.9	2.1	3.8	5.6	4.2	3.9	-	-	-0.36	-	-	-	-	-
女性	50	65	142	105	44	20	7	383	3.1	2.0	3.2	4.6	3.2	3.1	-	-	-0.11	-	-	-	-	-
職位	71	147	286	217	136	80	36	902	3.6	2.1	3.5	5.3	3.9	3.6	-	-	-0.26	-	-	-	-	-
部長・役員、学長等クラス	86	109	114	139	116	79	37	594	4.2	2.2	4.2	6.2	4.3	4.2	-	-	-0.13	-	-	-	-	-
部長、教授クラス	72	65	79	73	51	40	22	330	3.9	2.0	3.8	6.0	4.3	3.9	-	-	-0.33	-	-	-	-	-
主任研究員、准教授クラス	8	8	15	14	8	3	3	51	3.7	2.2	3.6	5.3	3.6	3.7	-	-	0.13	-	-	-	-	-
研究員、助教クラス	101	113	202	190	107	67	36	715	3.8	2.2	3.7	5.5	3.9	3.8	-	-	-0.13	-	-	-	-	-
その他	186	281	434	368	248	155	69	1,545	3.7	2.1	3.6	5.6	3.9	3.7	-	-	-0.25	-	-	-	-	-
雇用形態	1	20	45	44	7	6	0	122	2.9	2.1	3.2	4.3	3.1	2.9	-	-	-0.16	-	-	-	-	-
任期あり	4	25	64	39	20	8	2	158	3.1	2.0	3.1	4.6	3.2	3.1	-	-	-0.08	-	-	-	-	-
任期なし	176	244	310	306	232	157	76	1,325	4.0	2.1	3.9	6.0	4.2	4.0	-	-	-0.23	-	-	-	-	-
業務内容別	6	29	45	39	22	8	6	149	3.4	2.0	3.4	4.9	3.8	3.4	-	-	-0.41	-	-	-	-	-
学長・機関長等	102	217	286	236	170	114	46	1,069	3.7	2.0	3.6	5.6	3.9	3.7	-	-	-0.21	-	-	-	-	-
マネジメント実務	10	10	19	25	12	12	4	82	4.2	2.6	4.1	6.0	4.4	4.2	-	-	-0.20	-	-	-	-	-
現場研究者	47	52	89	85	46	27	17	316	3.7	2.2	3.7	5.4	3.9	3.7	-	-	-0.18	-	-	-	-	-
大規模PIの研究責任者	20	56	55	40	44	29	15	239	3.8	1.8	3.7	6.1	4.1	3.8	-	-	-0.31	-	-	-	-	-
国立大学等	37	66	102	72	52	34	12	338	3.5	2.0	3.4	5.4	3.7	3.5	-	-	-0.15	-	-	-	-	-
公立大学	43	72	78	96	56	35	16	353	3.7	2.0	3.8	5.6	3.9	3.7	-	-	-0.19	-	-	-	-	-
私立大学	52	79	148	120	64	47	22	480	3.7	2.1	3.5	5.3	3.8	3.7	-	-	-0.19	-	-	-	-	-
第1グループ	29	40	39	36	27	23	9	174	3.8	1.8	3.7	6.0	3.9	3.8	-	-	-0.16	-	-	-	-	-
第2グループ	49	79	92	90	71	42	18	392	3.8	2.0	3.8	5.8	4.1	3.8	-	-	-0.30	-	-	-	-	-
第3グループ	21	30	35	35	24	17	11	152	3.9	2.0	3.9	6.0	4.2	3.9	-	-	-0.21	-	-	-	-	-
第4グループ	46	64	92	83	62	47	23	371	4.0	2.2	3.9	6.1	4.1	4.0	-	-	-0.09	-	-	-	-	-
理学	73	62	141	100	67	40	16	426	3.7	2.2	3.5	5.4	3.8	3.7	-	-	-0.15	-	-	-	-	-
工学	27	14	31	20	7	3	5	80	3.2	2.0	3.1	4.6	3.3	3.2	-	-	-0.12	-	-	-	-	-
農学	49	30	74	55	24	23	7	213	3.6	2.2	3.4	5.1	3.6	3.6	-	-	-0.05	-	-	-	-	-
保健	45	18	55	24	21	3	4	125	3.2	2.1	3.0	4.8	3.3	3.2	-	-	-0.15	-	-	-	-	-
あり(過去3年間)	287	394	636	548	355	222	105	2,260	3.7	2.1	3.6	5.5	3.9	3.7	-	-	-0.21	-	-	-	-	-
なし																						
産学官連携活動																						
あり(過去3年間)																						
なし																						
大学・公的研究機関の 知財活用(企業等)																						
あり(過去3年間)																						
なし(分らない)																						
全回答者(属性無回答を含む)																						

注1: 回答者数は、分らないを除いた数を示している。

注2: 指数とは、6段階評価(1(不十分)~6(十分))からの回答を、1→0ポイント、2→2ポイント、3→4ポイント、4→6ポイント、5→8ポイント、6→10ポイントに変換し、その合計値を有効回答者数で除したものである。指数の範囲は0.0ポイント(不十分)~10.0ポイント(十分)となる。

Q210. (意見の変更理由)政府の公募型研究費(競争的研究資金等)にかかわる間接経費は、十分に確保されていると思いますか。

	2016	2017	差	
1	2	6	4	海外の間接経費と異なり,大学事務の行なっている作業は質が低すぎる。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
2	1	3	2	間接経費を増やしてよい,その代り,研究機関においてテクニカルな支援が必要。(大学,部長・教授等クラス,男性)
3	1	3	2	研究成果の特許化を進めるのであれば全く足りない。しかし,研究の実行だけを考えるのであれば,一定比率(事務や諸経費)に決めて,管理に要する負担は,できる限り少なくできるように仕組みがいい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
4	2	3	1	最近,再び間接経費が無い,または率が低いプロジェクトが増えている。(大学,第1G,その他,男性)
5	3	4	1	間接経費の割合は(30%に向けて)増加傾向にある。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
6	1	2	1	間接経費の上乗せ分が直接研究者に配分される制度は非常に良い。基本間接経費はオーバーヘッドを取られてしまい研究者にはほとんど来ないので。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
7	1	2	1	政府からの間接経費はそれなりにあるが,内部での間接経費の使い方は所属組織によって大きく異なる。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
8	2	3	1	確保されていますが,その使い方に課題があると思われます。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
9	2	3	1	30%程度以下で十分と考えられる。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,女性)
10	1	2	1	ある程度の規模の予算を獲得すれば,それにとまう間接経費が研究者に配分される仕組みが整備され始めている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
11	2	3	1	情報が提供されるようになった。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
12	1	2	1	文部科学省のガイドラインの提示により教員充当経費を直接費として計上できるようにもなったので状況は変わった。(大学,部長・教授等クラス,男性)
13	2	3	1	間接経費化は少しづつであるが改善している。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
14	3	4	1	公募する時点で研究に「制約」がある研究費は,これ以上増えても,使いにくいと思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
15	3	4	1	確保されているが「研究資金を獲得した研究者のために」使うという趣旨に沿っているかはわかりません。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
16	1	2	1	総額よりは使途の精査が必要と感じる(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
17	2	3	1	間接経費が必ずしもその公募型研究に必要な業務に使われていないと知ったので(当機構のことではなく,他の研究機関や大学のこと)(民間企業等,主任研究員・准教授クラス,男性)
18	2	2	0	成果(論文数)主義,動向主義になっていることが気になります。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
19	2	2	0	間接経費の確保以前に,競争的資金獲得のために費やす労力と時間が研究の制約となっている。(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
20	2	2	0	競争的資金内ではなく,確保した競争的資金に応じて別予算から間接経費を捻出するべきである。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
21	5	5	0	研究項目の内容によって間接経費の必要度が全く異なるため,現状のように一律の割合で間接経費を配分するのは妥当ではない。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
22	3	3	0	額は適当だが使途は不適切。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
23	2	2	0	競争的資金を獲得した研究者に対する間接経費のメリットがあまり感じられない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
24	2	2	0	補助金事業の場合,間接経費が認められない(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,男性)
25	1	1	0	年間3000万円程度の研究費を稼ぐためには,かなりの時間を研究管理につかひ,学内業務にさく時間が限定される。間接経費は10%で学内業務を代行する研究者人件費を賄えない。(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,男性)
26	5	5	0	30%はありがたい。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
27	3	3	0	所属機関に大半が持って行かれるため,使途が不明な点が問題だと感じることがある。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
28	2	2	0	まだ不十分である。(大学,社長・学長等クラス,男性)
29	2	2	0	最大の問題は研究補助員が有期雇用型雇用になってしまったために高度な研究レベルの継続が困難になったことである。間接経費を高級研究補助員の長期雇用にも用いることができるように制度を改めていただきたい。(大学,部長・教授等クラス,男性)
30	2	2	0	間接経費が十分/不十分ということではなく,運営費が減少している中,間接費が運営費の代わりにしている。この状況の方が問題。(大学,部長・教授等クラス,男性)
31	3	3	0	大学として間接経費は十分に確保されているが,大学内での間接経費の取り扱いについては,研究に直結した使用がされていない傾向が強い。(大学,部長・教授等クラス,女性)
32	4	4	0	中小型の企業や研究機関,大学は助かっている。逆にトップクラスの大学はもっと削ってよい。研究者の不正も絶えない。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
33	1	1	0	箱ものを作ってもそれを運用できない例がある。私に近い〇大の隔離温室は,電気代が払えないので使われていない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
34	1	1	0	上記同様に,分配をどうするか?どのような研究に配分するか?結果を求めすぎではないか?(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
35	1	1	0	制約多く,使い勝手が悪いため国際競争力を育てる環境としては残念ながら不足している(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

36	5	5	0	30%の間接経費は高すぎると思うぐらいです。(民間企業等,部長・教授等クラス,女性)
37	3	2	-1	基盤的経費が削減された結果,公的資金の間接経費が大学等の運営資金ともなっている。運営費交付金などの基盤的経費がさらに削減されるのであれば,間接経費の割合はさらに増やす必要性もある。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
38	3	2	-1	間接経費の使用 방법이,妥当でない場合がある。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
39	3	2	-1	間接経費の使われ方が不透明であり,十分かどうか不明。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
40	2	1	-1	事務職員が不足しているための事務仕事の研究・教育を大きく妨げており,事務職員を雇用するための経費が必要です。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
41	4	3	-1	運営費交付金が大幅に減額されている現状から考えると,間接経費の比率を上げるか,比率を変えずに直接経費を上げるか,何らかの措置が必要である。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
42	3	2	-1	機関の内部研究費が削減されているため,間接経費の枠を広げてもらうとありがたい。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
43	3	2	-1	研究を実施するための大学の機能を維持する資金として,間接経費の重要性は増大しており,拡充が必要と感じている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
44	2	1	-1	科研費以外では間接経費は内数であり比率も低く,研究支援体制の整備には不十分。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
45	4	3	-1	運営費交付金が減らされている分を考えれば間接経費は不十分なので,回答を変更します。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
46	4	3	-1	文科省はまずまずだが,他の省庁の研究費についてはまだまだ不十分(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
47	2	1	-1	科研費などは問題ないものの,各省庁での競争的研究費などは,行き過ぎた会計監査の視点からか,間接経費を基盤的な経費として使用することが困難な状況のものも多くみられる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
48	4	3	-1	大学の収入は,間接経費に依存しているため,競争的資金が確保できなければ,極めて苦しい。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
49	2	1	-1	間接経費が,他ごとに使われることが多いように見える。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
50	2	1	-1	事務処理を軽減するための実効的措置を執って欲しい(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
51	3	2	-1	大学によるが,研究者に亘る分は十分とは言えないようである。(大学,その他,男性)
52	4	3	-1	30%であれば良いが,10%といった場合も多い(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
53	2	1	-1	大学の運営を考えると,もう少し増やすべき。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
54	2	1	-1	使途が明確ではない(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
55	2	1	-1	若手研究者の正規雇用率があまりに低い。この一因として交付金の不足が挙げられると思う。(公的研究機関,研究員・助教クラス,女性)
56	3	2	-1	国内的には強化の方向であるが,適切な取り組み(小さいものや制約が多すぎる)になっているようには思えない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
57	2	1	-1	公募の枠をもう少し拡大すべきです。現状では,十分確保できているとは思わない。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
58	3	2	-1	予算が減額してきているように思える。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
59	2	1	-1	管理,定義が厳しすぎる(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
60	2	1	-1	間接費が取れないため,民間は受託しにくい(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
61	4	2	-2	運営費交付金の減少により,間接経費が大半大学側に吸い上げられことになる。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
62	5	3	-2	間接経費では大学の運営を改善できません。一時金では5年~10年単位での人事の計算ができないからです。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
63	4	2	-2	国からの補助金減少に伴い競争的研究資金の間接経費が大学の予算に占める重要性が増しているため(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
64	6	4	-2	間接経費の使い道が不明確だから。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
65	5	3	-2	間接経費30%以外のものも多くあり,不十分であると感じている。(大学,社長・学長等クラス,男性)
66	4	2	-2	運営費交付金の減少分を勘案すると,決して十分とは言えない。絶対値では数年前より減少している印象。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
67	3	1	-2	原子力については,今年度,かなり削減された。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
68	4	2	-2	言葉は悪いですが,研究部門では無く,事務部門に相当程度巻き上げられているようです。研究部門の内部にある事務方に経費が使われるなら納得もいけますが,そうではありません。一度,実態を調査されるべきかと思います。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
69	6	3	-3	間接経費は大学が殆どもっていくので直接研究者への恩恵は少ない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
70	4	1	-3	競争的資金だけではなく,事業費(その他の外部資金)についても,いくらかの間接経費を認めていただきたい。交付金は決定的に不足。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
71	5	2	-3	間接経費がきちんと研究のための環境整備に使われていない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
72	4	1	-3	間接経費として確保されていても,所属先の組織がその残りを研究者に返還しなければ研究者としてはメリットはない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
73	6	2	-4	間接経費は配分されるが,大学本部や部局にて取り上げられるのが大部分で,自らの研究にて直接経費で購入し難いものを購入するための費用を十分に確保できない。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
74	6	2	-4	近年,間接費込みで研究資金の上限が決定され,さらに継続年度途中にて当初計画より減額を求められることがある。残念である。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
75	6	1	-5	大学へ移り,間接経費の必要性をあらためて理解した。(大学,その他,男性)

Q211. 研究環境及び研究資金等の状況について、ご意見をご自由にお書きください。

- (201)・基盤経費はほとんどない・コース等で購入してきた定期刊行物の価格高騰などで、内部研究費は実質ない状態にある研究者も多いものと思われる・ランニングコストの面でも足りない状況です・プロジェクト型の資金ではなく、人件費や図書費等の経常的な経費が不足している・経常的に配分される研究費が毎年少しずつ少なくなっている傾向があります・最小限組織を維持する経費のみである(202)・医学部附属病院の場合の臨床との両立が極めて困難・研究者の研究時間を確保することを優先するという文化が浸透していない部局もある・事務職員、技術職員の削減が進んでおり、さらには各種法的対応が必要な内容が多くなっており、より深刻になっています・研究支援者が絶対的に不足している・取り組むために研究時間が使われるということがあるので、そのあたりはうまくバランスをとって行う必要があると思います・研究支援者が少なく、研究者が何でもやらなければいけない状況は、改善が必要です・研究機関全体としての取り組みは不十分(203)・URA等が極めて不足・ただしRAのみ円滑化が進むとは限らない・今後の課題である・人員削減が進んでおり、URAを雇用する余裕がないのが現状です・およそ不十分である・リサーチ・アドミニストレーターの雇用は非常に良いと思います・教員の作業量が減ることもありますし、いろいろ有用な指摘も受けてたいへんよいです・これから徐々に整備されると思うので、今後に期待します・何人かのURAはいるが不十分(204)・無線LANをキャンパス内のどこでも使えるようにする・データベースを非常勤の方々も使えるようにするなどの改善が必要である・国内で考えれば格段に充実していると思う一方で、諸外国の最先端研究機関と比較した場合、劣っているのは明白です・研究推進のために研究開発および優れた人材の雇用は行われていないと思います(205)・コンピューターソフトの共同購入などに関する情報が浸透していない・学内の努力により、共用の仕組みはかなり整備されていると思います・問題はそれらの運用を支える共通技術職【続く】

- の存在だと思えます・ある程度の情報は受けませんが、情報の交換が十分とは言えないと思います・大型機器など、活用できる共有資源の活用促進とともに、管理するスタッフも手当てするシステムが充実するいいと思います(206)・臨床データベースは海外に比べて乏しい・活用度の高いデータベースを他機関の研究者も利用できるようにするといった工夫が必要である・研究情報基盤の整備はかなり進んでいると思います・一方で、知的基盤となる各種データベースは多くのものが個人的な努力で維持されているものの方が多く、不安定な運用のものが多いと思います・国家として世界の情報を全て集約するようなデータベースがもっとたくさん日本にあっていいと思います・セキュリティ機能の強化の一環として、そのための雇用がなされることできるといいと思います・また、情報を利用する側の意識を高める教育が重要だと思います・次第に改善されてきている(207)・患者さんに対する脳画像研究は、自施設でないと実施困難・多くの共同利用・共同研究拠点が予算削減にもかかわらず、その運用・維持に努力していると思います・設置されている場所のアクセスが必ずしも良くない・多くの研究者が利用する施設はなかなかタイムリーに使えない場合もあり、もう少し数を増やしてもいいと思います(208)・プラットフォームが不十分・学会等の運営する雑誌について無償(あるいは廉価で)電子ジャーナル化するというサービスがあってもよい・論文のオープンアクセスはまだ始まったばかりの状況です・一方、研究データを公開・共有するためのプラットフォーム構築については、多くの場合、研究者それぞれが責任を持つ形になっています・この点は無理があり、むしろ公開・共有を実現するための技術的スタッフがいないことが多い点に問題があります・私の研究(近隣)分野ではオープンになっていると思います・論文のオープンアクセス化、研究データを公開・共有するためのプラットフォーム構築はある程度なされている(209)・臨床医学研究の予算は極めて不十分・総額と分野の状況とは必ずしも一致しない【続く】

- い・不十分だとは思いますが予算のみでは解決できない雇用の問題が大きい・資源のない日本が生きる道は高い科学技術力しかあり得ません・その意味では10%でも足りないと思います・日本の技術力は、ある意味で基礎科学をもとにしていると思われ、これまでは何十年かの蓄積がそれを保っていたと思いますが、そのうちにその貯えがなくなると、他の国々ががんばってくると追い越されてくる可能性があります・そういうことがないように、ぜひ科学技術に予算をもう少し回わしてもらいたいと思います・限られた分野の限られた研究者にしか配分できていない(210)・研究者個人への還元がほとんどない・文系・理系、実験系・理論系で間接経費の活用度が大きく異なる・大学の設備・環境を十分に改善するにはいたっていない(211)・目的に特化しない基盤的経費も一定額の確保は裾野を広げるために必須・有用なデータベースは他機関の研究者にも公開する必要がある・文系については、たとえば著作権について厳しくは問題にしない特区を設けることで研究を活性化できる可能性がある・常勤・無期の雇用に直結しない研究資金を増やすよりは、常勤・無期のポストを増やすことが研究の促進に対する効果が大きいものと思われる・研究期間がより長い研究資金を用意すべきだと思います・基盤的な資金(運営費交付金)の削減が長らく続き、人員削減も長らく続いたため、多くの場合競争的資金が運営費に回されたり、人件費に使用されています・このため、3年などの期間では、研究室の運営や雇用継続の問題が増えています・不安定さを増えています・基盤的な資金の強化を図るか、競争的資金の期間をもっと長くするかどちらかの改善が必要だと思います・競争的資金の役割は確かに大きいですが、日本では、状況が偏ってしまい、基盤的経費が完全に足りなくなりました・矛盾に聞こえるかもしれませんが、それで一番リスクを伴う研究がほとんどできなくなってしまいました・研究費は選択集中から分散型に変えるべきである・研究費がないと研究者ではなくなってしまいます・安定した研究費の確保が再現性の高い質の高い成果を生み【続く】

- 、若手の参入したくなるような研究者社会を作ります・「選択と集中」の論理も良いが、それだけでは、真に新たな科学が生まれてくる可能性がある「裾野」部分をすべて削ぎ落とす事になり、ファッションブルな仕事ばかりになる・大隅さんのノーベル賞の例を見ても分かるように、長期的な視野に立つと、マイナーな研究を最低限サポートできる研究費の拡充が緊急の重要な課題・現状ではあまりにファッションブルな仕事をしているヒト(世界的・長期的に見ると大して面白くもない仕事をしているヒト)にあまりに研究費が偏りすぎている・研究資金の分野配分で基礎的な研究に安定的な枠を維持してもらいたい・長期的な視野での研究計画が立てにくい状況になっている・研究所の場合ですと居室、計算機、実験室などある程度研究環境は整っている・ただし、プロジェクトが大きくなってくると科研費だけでは研究がスムーズに行えない場合も出てきます・研究によっては、挑戦的なものもあり、実質的に期間が5年以上になる場合もあります・裾野の広い基礎研究が持続的にできる環境を希望します・筆者の関連する分野に関していえば、科研費等を用いて収集・蓄積された研究データを学界全体で共有するシステムが、諸外国に比して進んでいないように思う・それを個々の研究者の創意に委ねるのは、研究時間の劣化を伴うことにもなるので、それを束ねる専門の機関ないしは集団への投資が求められるように思う・大型の戦略的プロジェクトが増えず、個々の研究者が自由な発想で新しいものを生み出すような研究費が不足している・短期間で実用化を目指すような研究ならば大型の戦略プログラムでも良いが、長期的視点で新しい学術を創出していき、人材育成を図りながら、日本全体の学術レベルの向上を目指すならば、運営費交付金のように、もう少し自由に使える予算を増やすことが重要と考える(大学、第1G、社長・学長等クラス、男性)

- 基礎研究には、資金の量ではなく、資金の期間の長さ方が重要です・最近のAMEDなどの資金は、期間が短すぎます・間接経費のない資金は、本当に困ります・世界的な常識では考えられないです(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)

- 本人自身の研究費を用いて10年をかけて研究環境を整備した・大学に来た当初はあまりにも情けない環境で絶望的であった・このような研究環境を教授自身ですべて整えていかねばならない現状は憂うべく事である・研究資金の大型化はある面ではありがたいが、広く薄く研究費をばらまいて、全く予想できなかった様な成果を出る様にしないと将来のノーベル賞は危うい(大学、第1G、部長・教授等クラス、男性)

- 4 基盤経費を増額する必要はない(教育分は減額してはならない)が、その分競争的資金の運用が柔軟に行える仕組みが必要と感じる。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 5 研究資金の採否こそ審査委員の「村度」が働きすぎていて、競争的資金制度の問題は根深いと感じている。独創的な研究成果が資金獲得に繋がっているなら問題ないと思うが、何年も研究成果がないのに急に大きな資金が来ることがあったりする分野や、ほとんど他人の研究成果を自分の成果のように語っても大きな資金が獲得できる分野がある。これには非常に違和感がある。また、Natureなどの論文に掲載されている成果が全て正しいというなら問題ないが、真偽がわからない・疑義がある論文も多数掲載されているため、論文のIFのみで成果を判断するべきではないが、現在はほとんどの資金がそういう成果に集中していると感じる。(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 6 国家財政が悪化する一方という観点で、将来的に減る一方だという間違っただけから議論が始まっており、どうしようもない。GDPを増やして、研究費も増やしていく、という議論がまったくないのはなぜ?(大学,第1G,部長・教授等クラス,男性)
- 7 重点化した研究分野や課題に集中的に資金を配分し(例えばSIP, ImPACT等)、その分他の研究分野への資金(例えば科研費等)を削るという方針は、行き過ぎるべきではないと考えます。例えば投入資金を10倍にしても論文数が10倍になるわけではないと思われる。特定の研究者にあまりに巨額の資金を集中させるべきではないと思います。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 8 大型研究資金は、出口の近いものに偏り気味。大型研究費の採択に関して、審査する側も評価を受けるようなシステムに出来ないものか?(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 9 若手研究者が、競争的資金で100%雇用された場合、個人の自由な発想に基づく研究に利用出来るエフォートが0%になってしまう。今の研究を踏み台にして、新しい研究にチャレンジして欲しいが、その機会が失われている。100%専従であっても、個人の努力で外部資金を獲得し研究を行える様に、100%以上に20%程度、個人努力と裁量で働いていいなどの工夫が必要。またはエフォートという考えを廃止した方がいい。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 10 大学全体でみると外部研究資金等の獲得を下品だと捉える風潮が未だにあり、獲得した外部研究資金にたかる教員がおり、モチベーションが下がる。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 11 挑戦的研究を行う資金的背景が不足していると常々感じます。特に科研費の当たり外れはその年度の研究計画に大きな影響を及ぼすので、保守的な計画を立てがちになると危惧します。大型予算が公平に配分されているとも全く思えませんので、特別推進研究や新学術領域等では廃止し、大学への運営費交付金および科研費基盤研究の総額を増やすべきだと思います。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 12 3.6%のGDPは大きな割合だと思います。資金は潤沢ではなくても研究はできます。しかし、知的、人的な資源はないと、研究がとまってしまう。日本のアカデミアにかけているのは、情報交換の頻度とイノベーションの風土です。決して大きなお金を与えたら良い結果が生まれるとは限りませんので、有効活用の仕組みや学生たちにアカデミアの魅力を感じさせるような大学や研究所の環境づくりは重要だと思います。(大学,第1G,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 13 研究資金について、選択と集中政策がスムーズにきかないため、過度の集中や、研究資金の不安定さが発生している。(大学,第1G,その他,男性)
- 14 基盤運営費(運営費交付金)の増加を実施すべき。選択と集中は間違っただけと言うことは、欧米の最近の動向を見ると明らかである。米国よりも、ドイツに見倣うべき。(大学,第1G,理学,社長・学長等クラス,男性)
- 15 学術研究、研究者の育成に対する予算が不十分である。将来を考えると、これらを増やすことが必須である。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 16 競争的資金に偏りすぎである。競争的資金は結構だが、その審査は、近視眼的、短期的な判断に偏らざるを得ない。もっと戦略的に研究資金の配分を行わなければ多様な研究が育たない。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 17 基礎科学を支える基盤的経費の増加をお願いします。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 18 研究室を展開するスペース、基礎的な配分予算とも、非常に少ない。他の大学や研究所の状況と比べても不十分であり、同僚との会話でも常に不満が聞かえる。論文などの研究に必要な情報の単価が高く(商業ベースの出版となっていることが問題か)、十分な情報を得られないことがある。論文情報のオープンアクセス化が望まれるが、論文投稿側か購読側かかなりの負担をしなければならないのが現状。限られた予算では、全く不十分。図書館もスペースが限られているために、古い資料や他の図書館にある資料を泣く泣く廃棄している。各大学の枠を超えて、研究資料を保存するスペースと予算の確保が望まれる。科学技術立国などの言葉は聞かえるが、研究予算は不十分。目立つ研究分野だけではなく、様々な分野の底上げが必要。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 19 科研費を含む、若手や独創的なボトムアップ提案を支援する、ベースとなる競争的資金に関して採択率が近年低下しており、もう少し充実することが急務だと感じる。(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 20 この分野ではデータベースなどの研究環境はもっぱらアメリカのデータを活用しているがもちろん有料である。一般の研究データなどの基盤整備は徐々に始められつつあるが(科研費など)依然として事務的であって活用しやすいものではない。研究資金についてはまったく心許ない。自分の研究分野もそれ以外も欧米にはもちろん中国にも及ばない。国家予算が貧弱している折にやむを得ない部分も多いが、(大学,第1G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 21 イベントものとも見られる、萌芽や新学術の計画班のメンバーを見ると不公平感が著しいと感じることが多い。これらの代わりに基盤研究費を充実させるべき。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 22 数年後のGDPへの反映を期待するような研究資金の投資でなく、長期的な視点に立った科学技術基盤の育成としての研究資金の充実を強く求めます。このままでは、本当に日本の科学技術力は著しく低下してしまうと感じています。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 23 総長裁量経費などで重点的にプログラムを選択して予算配分しているが、中には成果がお粗末なものがあり、効率的に予算を使えているとは思えない。誰も責任を取らないことは大いに問題があると思う。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 24 研究費の分配のために、書類を書いたり審査したり、というところに優秀な研究者の労力が多く注がれすぎている。(大学,第1G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 25 RAや技術補佐員といった専門分野に特化した方々による設備の保全・管理と研究サポートは大変ありがたい。この仕組みが発展することを望む。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 26 前年度の回答では、若手Sを復活させるべきだと書いた。ところが、今年度の科研費改革で若手Aすら廃止になってしまった。これでは業績で熟年の研究者に見劣る(がPIとしてやっていける十分な素養を持つ)若手研究者が新たな研究を立ち上げる機会が減ってしまう。実際のところ、現在のシステムでは、一部の熟年研究者(業績が華々しいとはいえ)に研究資金が集中してしまう事態になっており、これが限られた研究予算の効率的な使用法だとは思えない。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 27 間接経費の額は十分だが、その使い道の大部分が総長裁量経費や部局長裁量経費などで、当該の研究を間接的にサポートしているとは思えない。〇〇大では間接経費の付いていない研究費を獲得すると、基盤的な経費から間接経費分を差し引かれるので、自由に使える経費は激減する。(大学,第1G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 28 電子ジャーナル、データベースの費用が高騰し、予算を圧迫している。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 29 基礎基盤経費が削減されており、現在使用している装置の維持管理すら滞る状態である。運営費交付金の削減は、削減額以上のマイナス効果を与えたのは間違いの無い事実である。Natureの記事の指摘を政府及び役所は深刻に受け止め、改善を目指すべきであるし、日本学術会議等は、科学者の代表として、本件に関する声明を早々に決議すべきである。リサーチ・アドミニストレーターは必須であるが、運営費交付金での支援が難しく、任期付きとなるため優れた人材を確保するのは困難な状況と想像する。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 30 海外の論文データベースや電気代など不確定要素が大きい。基盤経費が年々削減されている。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 31 先進諸国と比較すればわかることで、われわれ研究者に訊くまでもないでしょう。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 32 「科学技術」とまとめて研究を扱うことに問題がある。科学に必要な環境、資金と、技術開発に必要なそれらを、同等に評価すべき。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 33 運営費交付金の減額は地方大学を中心に致命的な状況を作っています。有能な研究者が育たない状況が深刻化しています。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 34 組織全体で、研究をお互いに協力して、一緒にしよう、という意識が低いように思われる。従って、個人研究レベルに収まってしまっている。また、研究に時間をかけることが難しくなっているため、会議を減らす、など、組織の改革と工夫がさらに必要である。(大学,第1G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 35 研究費の申請が、例えば科研費は年に1回しかチャンスがないなど、機会が少ないのが問題。また、1つの予算では結局少額しか獲得できず、幾つもの外部資金に申請しなければならず、書類作成のための手間などに多くの時間が費やされている。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 36 厳しい財政の中、研究資金は比較的捻出されていると思うが、世界と比べると見劣りする。特に実験系は様々な先端機器を用いて研究するためコストが増大し競争的資金を得ないと研究できない環境にある。かといって多くのラボに充分な機器を配置することは難しく、共同利用をベースに知的基盤・情報基盤のネットワーク増強がより重要に思える。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 37 運営費交付金の削減は目先の政策で将来性がない。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 38 他国と比べて科学技術に関する予算が少ないとは聞いていますが、国の予算だけではなく、企業が大学に投資することを促す制度設計が必要だと思えます。また、修士・博士学生に給与が出せない限り、世界から優秀な学生を集めるのは難しいと思えます。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 39 大型設備で長時間試験等を実施しようとすると、電気料金、スペースの確保が難しい場合がある。電気料金、スペースは受益者負担の観点から、大学に徴収されることは合理的であると納得できる。また、それら費用もプロジェクトから支弁できる場合があるが、プロジェクト終了後に設備を撤去する場合の費用、あるいは引き続き使用したい場合の費用確保が課題と思っている。汎用に近い機器であれば、大学内で貸し出しの制度が整っており、運転費用も一部回収可能であるが、特殊機器の場合は研究者単独で責任を持って運用撤去となっている。(大学,第1G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 40 明らかに大学からの直接的な交付金や継続的に利用できる研究資金の制度が不足している。これでは我が国全体の科学技術の進展は望めない。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 41 私の所属するグループは幸いにして多額の外部資金をいただいておりますが、これらの外部資金を使って研究人材の確保するのに苦労しています。大きな要因はポジションの不安定だと推測します。資金の多寡よりも、資金の時間的安定性が研究成果に結びつくと考えています。材料費等に多額の資金を必要としないという私の分野の特性上、研究成果は、自由に使える研究時間の関数です。優秀な人材を確保できない限り、外部資金は研究時間を奪う(=研究成果が減る)効果を持ちます。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 42 私自身は基礎科学を研究していないが、今後も基礎科学を重視した取り組みを進めて行っていただきたい。研究拠点となる国立研究所や機関は利用しやすく(大型物理装置利用を中心に)、現状で改善希望は特段ないが、各大学研究室、グループと拠点機関との相互的な研究が重要と思われる。(大学,第1G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 43 日本の将来をどうするかについて、指導者は楽観的過ぎるのではないかと、精神論だけでは結局太平洋戦争の敗戦と同じ過ちを繰り返すことは想像できないのだろうか。(大学,第1G,農学,部長・教授等クラス,男性)

- 44 研究費は十分だとおもうし 配分の仕方の工夫もかなりされている。〇〇大学に関しては周囲の研究環境も非常によい。お金は配分の仕方 審査の質を上げることが重要と考える(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 45 研究者の将来に希望が持てない状況にある。就職に不安がある。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 46 科学研究費の総額が少ない云々よりも,配分の偏りに問題があると思われる。重要で成果が期待できる研究を支援するのは当然だが,そこに偏り過ぎると,未来に花咲くかもしれない研究のシードが育たない。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 47 以前にも増して特定の領域のみに研究費が配分されるため,小さな部局では設備の更新などもままならぬ状況である。優秀な研究者がいても,十分に能力を発揮できる施設環境が無い状況が続いている。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 48 運営費交付金の削減は,研究を促進する政策と真逆である。運営費交付金の削減により研究環境はますます悪化しており,国際競争力が落ちて,日本はもう科学立国とは言えない危機的状況になっている。国際化を促進しているものの,すでに国際競争力が低下した日本に質の高い外国人研究者が来てくれるわけではなく,質の低い外国人を受け入れて指導する余裕などはない。日本人自らが,外国で研究をして,自国に新技術を取り入れるという,発展途上国並みの国策が今の日本には必要になっている。運営費交付金の増加,公的資金の注入が,今すぐ必要な状況である。(大学,第1G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 49 AMEDの現在の研究費申請書類など,最初から英語書類を大量に書かせるフォーマットを改善すべき。外国人の審査委員で評価もされておらず,研究者の負担を単純に増やしている。採択された課題について英語版を記載させれば十分。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 50 高額な機器が一部の有名研究室にのみあり,他の研究室がなかなか使用しにくい現状があります。高額機器は施設として購入し,共通機器としてどの研究室でも使用できるような「仕組み」を構築すべきと思います。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 51 個別の研究資金は,競争的環境で獲得することが望ましいとは考えておりますが,科学技術に関する政府予算自体が,全体として諸外国と比較しかなり少ないと思いますので,技術立国を目指すためには,より一層の拡充が必要と考えます。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 52 競争的資金ばかりに依存しており,かつ比較的大型の競争的資金を獲得しうるメンバーは固定されている印象で,閉塞感がある。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 53 海外に比べて科学研究費が潤沢とは言えないので,配分の方法を工夫したり(少数の大型予算と多くの小口の予算の組合せ),機器・データの共有など,効果・効率を考えてオリジナリティのある研究が進むようにしてほしい。(大学,第1G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 54 研究資金が潤沢にあるように見える〇〇〇〇〇〇〇〇【大学等研究拠点・研究所等名】ですら資金が足りないと言っている状況なので,十分な研究環境と資金がある大学はどんどん少なくなっていると思う。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 55 年間1億円を超える大型予算を一人の研究者に与える必要はないと思う。ラボの規模にもよるが二千万程度を広く配った方が,成果が出ると思う。(大学,第1G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 56 ・学問の細分化と,それらに必要とされる実験機器の多様化から,スペースや設備がともに不足している。共通機器管理システムや共同研究スペース(貸貸式のスペース)を作るようにする。・知的基盤や研究情報基盤の状況について,大学が個々に管理するのはなく,国レベルでのデータ管理体制が整うとよいと思う。・大学では間接経費を増やしていかないと将来性のある研究が育たない。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 57 安定的財源として,基盤的経費の確保が必要(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 58 学界ばかりでなく新産業創出など大学の社会貢献への期待が高まる中で,私立大学の設備整備に対する補助金が実質的になくなったことには大変失望した。再度の復活を求める。間接経費の確保は,研究支援体制と研究設備などの環境を維持・拡充し,継続的に研究活動を遂行するための必須条件である。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 59 大学間の競争は必要であると思うが,やり方に問題があるとする。基盤的な教育・研究のための予算をどんどん減らしているやり方には大きな問題であるとする。このままでは,現状の教育や研究が維持できないばかりでなく,将来の画期的な研究力や有能な人材を生み出せなくなるのではないかと危惧する。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 60 基盤的研究費(運営費交付金等)は,事務処理費用,産業廃棄物処理費用,郵便・電話代,共通機器使用料等でゼロとなり,具体的な研究に回せる状況ではない。体力のない国立大学は,私立大学の基盤的研究費以下である。大学は,高等教育と先端研究の両輪で価値を示し得るのに,片方の車輪が機能し得なくなりつつある。つまり,いったん,科研費等が採択されなくなると,試薬購入,論文投稿,学会出席等が不可能となり,研究面で負の連鎖が進む。十分な研究費を確保できたものを除いて,どの研究者にも一律100万円の基礎研究費が配分されることを願う。これは,保険であり,外部資金調達ができない場合があっても,再開,復活できるチャンスを与えることになる。(大学,第2G,社長・学長等クラス,男性)
- 61 競争的外部資金だけではなく,運営費交付金においても,研究費の重点配分が進んできている。長期的な視点に立った大学の基礎研究に影響が出ないか,懸念される。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 62 研究環境については,海外先進国に比肩するレベルとなって来ていると考える。一方,研究資金,とりわけ若手研究者を雇用する人件費は十分ではなく,間接経費と言った年ごとに増減するような財源とは違う枠組みで捻出すべきと考える。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 63 研究資金のパイは増えずに競争が激化しているので,結果として十分な外部資金を獲得できていない。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 64 研究費配分が2極化しており格差が拡大しつつある。地方の大学は益々不利になっている。(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)

- 65 研究環境を整える上で,URA,研究開発マネージャの役割はより重要になってきている.これらの役割は,研究課題や資金等を横断する形で機能することが必要であり,現在の研究資金制度はこのような役割の人材を確保し,最大限機能させるような仕組みにはなっていない.(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 66 運営交付金を減らして,競争的研究資金を増やした政策は誤りである.この誤った政策が,ユニークな研究の減少と日本の基礎研究力の低下をもたらした.自身も参加しているSIPを見ても,管理や評価に時間と予算が使われていて現場の研究者は疲弊している.(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 67 設備を維持管理するための費用が間接費のみでは十分ではなく,また共用できる設備に対する制約などがあり,効率的な運用がなされていないケースがある.大学では,共用できるものでも使用比率で,公的資金の利用などの使用ができる方法を工夫すべきである.(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 68 間接経費10%上乗せができるようになって,研究室の自由度,将来投資,教員の雑用の低減(秘書雇用経費,事務外注経費に余裕ができた)ができるようになった.(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 69 競争的に一部の大学,一部の研究者に資金を集中しても,効果が限定的である(コストパフォーマンスが悪い)ことが統計的に示されていると聞く.ノーベル賞受賞者も,研究費の総額が減少していることや,基礎研究や地味な研究に研究資金が配分されないことを危惧している.大学の研究費は均等に分配して持続的な研究活動を支援し,競争的資金は製品化や実用化の研究などに振り分けるべきと考える.(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 70 日本の,特に国立大学の研究環境および研究資金の状況は壊滅的で,今後30年間はノーベル賞受賞も期待できない.日本は資源もなく,人材,しかも高度人材こそが必要とされているはずなのに,欧米どころか中国に比べても,圧倒的な研究環境および資金の差がでており,即刻の是正が必要とされている.必要なのは,競争的資金では無く(もちろん競争的資金も必要だが),継続的な基盤的経費と,欧米中国に負けない大学の設備である.(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 71 運営費交付金の減少が,国立大学の研究環境の劣化や研究資金の不足に大きな影響を与えている.欧米と違って,いわゆる大学への寄付文化が根付いていない日本では,これだけ定期的に削減されていくと,学術的にも,技術的にも,そして経済的にも,近い将来ツケが回ってくるかと思われる.(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 72 若手育成の意味で効果の少ない豊富な支援策が行われており,本来配分すべき基礎研究に従事する優秀な学生には支援が届いていない.そういう意味で,人材育成は大学に任せるべきで,行政や政治があまりにも口出しをすべきでない.特に,文科省は天下りの組織作りに頑張りが過ぎである.最近では環境省や他省庁が競争的資金配分組織を盛んに作っており(JSPS, JST, NEDO等に相当),予算が効果的に使われていない.(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 73 外部資金が取りやすい研究に流れる傾向が強く感じる.将来の研究の芽を育てるためには,最低限の定常的資金が必要.(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 74 競争資金を取り続けるのはいいが,短期で成果のでる目先の技術開発に陥りがち.(大学,第2G,部長・教授等クラス,男性)
- 75 運営費交付金の削減により,研究者が自由な発想で使える資金がなくなっている.国の研究費総額はほぼ横ばいと聞いているが,競争的資金が増え,運営費交付金が減っているようである.この政策で日本の科学技術力は向上したかという点,論文数等は中国や米国など他国に比べて伸び悩んでおり,むしろ相対的に低下している.科学技術で国際的に優位な位置を保つには,他国に負けない投資が必要である.また,科学は多様な研究がないと将来有望なものも出てこないで,現在の競争と選択の行き過ぎを修正すべきである.(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 76 国立大学運営費交付金の削減が研究力と教育力の低下として顕在化・常態化している.ヒト・モノ・カネ・情報と言われる現在,「貧すれば鈍す」の状態となって,研究と教育を担う人材(次世代の人材)を育成し辛くなっている.ヒトが最も重要である事を認識しなければならぬ.(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 77 ノーベル賞の大隅先生が度々指摘されるように,ある程度の額の基盤研究費は絶対に必要である.重点配分も理解できないではないが,広く薄く配分される研究費が,ノーベル賞に繋がるような多様な研究を育んできたという昭和の歴史を今一度顧みるべきであろう.また研究支援もRAなどより,技官,テクニシャンの充実を図るべきである.専属技官がいなかったために折角高価な共通機器を導入しても,有効に利用されず,放置されている例が沢山ある.(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 78 基盤研究に関する予算が十分確保されていない.JSTなどの戦略的な研究費枠を維持しつつ,科研費の予算を増やすべき.(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 79 国立大学の運営費交付金の減少により人件費が削減され大きな影響を及ぼしている.(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 80 政府は基盤経費を減らして競争的資金を増加してきたが,既に基盤経費は限界を超えて削減された.最低限の人件費や設備(論文雑誌講読を含む)の維持がままならなくなっている.政府の財政状況も厳しいだろうが,基盤経費はもう少し増額して維持して欲しい.(大学,第2G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 81 出張手続きや物品購入手続き等が複雑で時間がとられる.研究者本人の事務手続き量だけでも多いのに,指導している学生の事務手続きも教員が行っている.もっと簡便なシステムが導入されるべき.(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 82 競争的研究資金の獲得は確かに重要で,それを獲得すべき努力を研究者はすべきだとおもう.しかし,それだけに頼るのはやはり心許ない気がします.運営費交付金を減らして行くことは日本全体の科学コミュニティの将来を考える上でやはり中長期的にはマイナスに働くと思います.競争的研究資金が獲得できなくても,最低レベルでも研究ができる程度の交付金は必要だと思います.(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 83 我が国の基礎的な研究に対する経費は,GDP比で見ても,米国などより少ない.また大学への運営交付金が毎年減らされていることなどから,人員削減などから教員一人当たりの負担も重くなっており,実質的な研究資金・研究環境は厳しくなっていると感じられる.(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)



- 84 特定分野等への配慮は行われているが、基本的な支援は年々低下している。有益で価値のある研究を多大に支援することは重要であるが、それを下支えする人材育成費あるいは基本的な経費が年々削減されている。(大学,第2G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 85 科学技術関係経費は十分なのに、すでに業績のある特定の領域にだけ集中して盲目的に配分する仕組みがあるので、論文の数としては伸びないし、今後の目覚ましい発見はある特定の領域に限ることになると懸念している。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 86 有力な大学・研究所において大がかりな研究チームを組み、巨額の予算を投じて成果を得ることがわが国の科学技術の向上に必須であることは認めるが、一方で、地方大学の研究者に年間50～100万円の研究費を確保して将来のシーズを確保する研究を維持することも必要であろう。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 87 競争的研究費はもう十分に配分されており、今後は基盤研究費を充足するために運営費交付金を増やすことを検討してほしい。競争的資金で装置を購入したが、その資金が切れた結果維持費がまかなえずに結局その装置では研究を行えないという話を耳にすることが増えてきている。大学によっては電気代すら競争的研究費から出す必要があり、近年の電気代の高騰により研究どころか部屋の電気もつけられない状況に追い込まれている。基盤研究費が給料のボーナスよりも低い状況は明らかにおかしい。(大学,第2G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 88 研究資金が本当に正しく、公平に配分され、目的にあった使用をされているかわからない。また、公的資金の場合では、監査を厳格にしたほうがいいのではないかと思う。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 89 研究資金は順調に取れるようになってきているが、もっと企業との結びつきをおおきくして、最先端研究に参加していきたい。とはいえ最先端研究を行うためには、設備と人材が必要であり、どうしても学生を派遣するということに終わってしまう。教員のサバティを海外の大学へ出すだけでなく、国内の民間企業へも出せる制度が必要ではないかと思う。それが研究資金獲得へつながると思う。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 90 5年の雇止めが有能な事務担当、秘書を継続雇用不可能としており、全体としての力を甚だしく下げている。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 91 アジアの新興国の科学技術に対する投資の現状を思うと、10年後の日本の科学分野での立ち位置は非常に危うい。ベースとなる研究資金の削減が続くと、世界のトップと戦う科学研究の質と量を維持することは難しくなる。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 92 研究室のスペースチャージ(部屋代徴収)が始まり、研究スペースの縮小を余儀なくされている。上下水道、校舎メンテなどのインフラ整備資金の捻出のためだが、本来の修繕費用を増やさず研究費からサラミスライスするようでは、いずれ研究環境は崩壊しノーベル賞などは望むべくもなからう。なにか本質的に間違った方向に進んでいる気がする。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 93 以前より、特定の限られた研究に大きな資金が集中しています。選択と集中は必須ですが、そのトップ層直下の研究者層(科研費で言うところの基盤Aクラス)への支援を手厚くしていかないと、トップ層を目指した研究やトップレベルのアウトプットは増えていかないと認識しています。(大学,第2G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 94 若手研究者の数年という超短期間の有期雇用は研究推進の効率化や論文生産数の低下を助長し、科学技術の国際競争力の低下にも影響を与えている。一定額以上の研究費の獲得する者の条件に無期雇用の人材受入れを保証させ、能力のある若手研究者の社会的責務に応じた雇用形態が実現されるために、専従率100%という雇用条件は撤廃すべきである。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 95 研究機関による差が大きい項目であるかとは思いますが、実験的研究を展開するには研究スペースが不足している。使用料を徴収する競争的スペースもあるが、潤沢に研究費がある研究室でなければ運営することも困難になることも予想される。若手研究者が新しい研究テーマを見出して研究活動を展開していくには大きな障壁となると思われる。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 96 先に見える研究や産学連携も大切だが、公的研究資金については、もう少し長いスパンで考えられる基礎研究に配慮して欲しい。多様な考え、価値観に基づく研究活動こそが大切であり、きりと輝く研究は、多くの挑戦・失敗の上に成り立っている。少子高齢化社会を迎え、財政が厳しいことは重々承知しているが、資源の無い日本は、教育と研究への投資があって、成り立つ国であるのは疑いようも無い一方、教育現場は、研究資金獲得のための活動に、疲弊しきっている。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 97 事務系職員の不足による事務仕事の増加のため、研究・教育の水準を維持することが不可能になりつつあります。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 98 大学内での校費等(例えば、スペースチャージ)の召し上げなどにより、基盤的経費が急激に検証している。そのため、外部資金獲得状況に応じた研究者間の格差が大きくなっており、それによる研究室間の学生の不平等・不満が大きくなっている。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 99 多くの人(ノーベル賞受賞者も含めて)が指摘しているように、「大学が経済的に自立するために運営費交付金を減らす」というのは間違った方向だと思う。ノーベル賞級の研究は、芽が出ないうちからの自由な発想を育てて生み出されるもので、行き過ぎた米国のような「すぐにもお金が取れる研究、一見派手な研究」に走る必要もなくなる。運営費交付金の削減は、大学の様々なところに歪みを出している。卑近なものでは、トイレの工事費が出ない、エアコンの修理費が出ない、など。それ(運営費交付金を削減すべきでないこと)と、その制度に甘んじている人がいるとは別のことと思う。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 100 研究費不正の報道が多く、研究事務課が萎縮している。そのため、研究費利用のためのルールが日々増加し、研究費の利用が非常に難しくなっている。また、教育大学のため、院生が少なく学部生と主に共同研究をしている。研究者の定義を文科省で「大学(短期大学を除く)の課程を修了した者」とされたことで、共同研究者である学部学生の学会発表費の支給が困難であり(学部学生は研究者ではないため、研究費の支給対象にならない)、むしろ、学部学生との共同研究自体が問題視される場合がある。研究者倫理として、共同で研究した学部生の名前を論文につけることは当たり前であり、学部学生であることは阻害されないはずである。また、従来から特に理系では、学部学生による学会発表は積極的に行われてきている。この問題は、学生の教育と教員の研究が明解には切り離せないものであることを示しており、一部の教員は自費での支援をしている。こうした状況を文科省は理解して、研究費の利用方法についてより明快にし、対策をしてほしい。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 101 公的競争的資金・民間財団問わず、常に何かしらの予算申請に追われ、採択されたなら成果報告書に追われ、確実に研究時間を圧迫されていて本末転倒だと思う。長期計画を立てて研究をスムーズに進めるためには、採択されない場合を見込んで、必要以上に申請の数を打つ必要がある。公的機関・民間財団問わず、設定される研究スパンが短すぎると思う。また、プロジェクト終了後にまったく予算を繰り越せないシステムによって、安定した人員の確保ができず、技術の蓄積ができないことから、研究の進展を遅らせる障害になっているのみならず、結果としてトータルのコストが高んでいる。(大学,第2G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 102 「競争的資金を獲得できないと研究ができない」という状況ができると、その研究者が研究できなかった分だけ日本の研究は遅れることになる。研究者の意欲向上、多額の資金を必要とする研究推進のために競争的資金も必要である。しかし、「資金不足で研究ができない」という状況をなくすために基盤的経費でもある程度の研究ができるようにし、さらに追加の予算獲得のために競争的資金を獲得する、という環境を整備することが重要である。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 103 研究資金については、重点配分等による格差が大きな問題と考える。経費が少ないと頭を使ってよく考えるが、研究費が多すぎて非常に無駄な使い方をしている例が散見される。これは日本の税金の適切な執行の観点から大きな問題と考えており、国力を弱める原因になる。予算を若手研究者も含めて広く配分することで、より大きな活力が生まれると考えられる。一方で、社会実装を目指すような場合には、企業に比べても一桁も二桁も少ない金額で競争することになってしまい大学には競争力がないように思う。企業の方からなぜ大学のような貧弱な機関で社会実装を目指すのかという問いかけを受ける。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 104 競争的資金の最も問題点は、審査に関する業務にあると思う。それは文科省側も、大学・研究施設側の研究者・事務側も含めて、このコストは、金銭的に算出すべきであり、競争的研究費導入が、どれだけそれに関わる人間の経済的な損失になるかを考えるべき(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 105 昨今、外部資金の競争率が非常に高くなっており、外部資金の獲得が難しくなっている。実験装置などを購入するための資金が不足している。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 106 企業の共同研究費や外部プロジェクトは経費の使途が限られるため、関連するプロジェクトや学生の活動はサポートできますが、一方でサポートできない学生を大勢産んでいます。間接経費のバック等、自由に使える経費の拡充が必要だと思います。(大学,第2G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 107 前回と同じ評価であるが、研究資金や間接経費の使い方に関しては改善の余地があると思っている。また、予算も有限では無く、国民が納められる税金は決まっているので、研究資金が減ってしまうことは仕方が無いと感じるが、それによって淘汰されている研究や機関が適当なのか疑問が残ると感じている。予算の使い方が適当なのか疑問がある。予算について広く知ってもらうための告知や議論が十分でなく、国民の研究者の理解が進んでいないように感じてならない。(大学,第2G,工学,その他,女性)
- 108 90年代に大学の研究環境を改善する必要があるというキャンペーンが行われずいぶんと状況が改善された。しかし、その後、大学への予算を段階的に減額される状況が長く続き、その結果、現状は90年代以前に戻った感がある。他の国との相対的な関係から言えば、それよりもっと悪くなっているかもしれない。加えて、人材育成、現有のリソースの非効率な利用が加わり、状況はさらによくない。それは原著論文数に如実に表れている。とても科学技術立国などと標榜できる状況にはない。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 109 基盤的研究を実施する環境、資金の確保が喫緊の課題になっている。(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 110 特別な研究事業費からは斬新なアイデアやイノベーションは生まれてこない。なぜならば、すでにある程度認知されていないと採択されない仕組みとなっている。評価者も冒険はしたくない。本当に素晴らしい研究は、あまり陽の当たらないところから生まれる。このような芽を活かすには、経常経費や人件費を増額すべき(大学,第2G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 111 私立大学などで仕方のないところもあるが、雑務が非常に多く、研究環境としては年々悪化の一途を辿っている気がする。特に、文科省による入学定員に対する入学者数超過規制の厳格化に伴い、私立大学は定員超過を気にするようになり、学納金の減少を通して教員数の減少を招いている。これは、各研究分野の先細りを助長し、研究環境の悪化にもつながっている。その他、政府の公募型研究費(競争的研究資金等)にかかわる間接経費について、すべて受領機関の采配に任されているが、これはいかがかと思う。間接経費の全額を機関に召し上げられていると、研究を行う中で間接経費で支払うべきと思われる項目を支払うことができず、研究者個人にしわ寄せが行っている。このような状況に対応するため、「間接経費として受領した額のうち少なくとも2割程度は研究者が使用できるように配分すること」といったようなルール作りが必要であると思う。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 112 大学から支給される基盤的経費は無いに等しい。研究を続けるためには研究者自身が競争的資金を得る必要があるが、毎年資金獲得は保証されていないので、研究資金調達は毎年不安定であり落ち着いて研究はできない。このような状況が定常化している。法人化後に大学の管理業務が増え、研究費の獲得も研究者個人に委ねられ、このような状況で優れた研究成果を得ることは難しい。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 113 間接経費の使用法について大学に任せすぎでいて本来の目的に使用されていないのではないかと思うことがある(私の理解不足かもしれないが)。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 114 施設の維持管理が困難になっており、基盤的経費の削減はもう限界にきていると思います。(大学,第2G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 115 研究費の間接経費が大学に90%以上回収される状況では、大学からの交付金と合わせても研究室の什器、プリンタ、エアコン等を十分に整備することが出来ない。既存の研究基盤を持たない若手にとっては、研究環境の整備も厳しい状況だと感じている。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)

- 116 特定の少数の研究プロジェクトに多額の資金を配分する傾向が強いが、もう少し幅広い分野に、金額は少なくとも良いので研究費を配分して欲しい。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 117 産学連携は国内の企業が中心だが、研究費を増加するには積極的に国外の企業から研究費を導入する支援が必要と思われる。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 118 科研費の充足率が低いと、採択されたとしても当初予定していた研究をそのまま遂行する事が難しい。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 119 間接経費が何に使われているのか、かなり不透明。競争的資金の多くが、実用的な研究に重点的に配分されていて、将来の科学の基盤になるような基礎研究がおろそかになっている印象がある。(大学,第2G,農学,研究員・助教クラス,女性)
- 120 最近2年間の概算要求や国立大学改革強化促進事業での研究設備整備枠の財務省によるゼロ査定や大幅減額は、国立大学間の大きな格差を生み、深刻な影響を生じている。(大学,第2G,保健,社長・学長等クラス,男性)
- 121 研究資金をとにかく増やすべき。これでは中国に太刀打ちできない。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 122 今年度内にどうしても取り組みたい研究課題が生じた場合に、来年度の予算から借金をして実施できるようになるとよいと思います。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 123 地方国立大学では研究人材の再生産はもはや難しい状況にあり、研究環境の劣化も進行している。全体の予算の制約があるのであれば、研究機関を集約し一定水準を維持しないことには、国立大学としての本来の責務を果たせない状況となっている。科学技術関係経費の数字は国際的な比較が難しく、さらにこれまで研究費に積算していなかったものをまとめることで見かけの研究費を大きくするという欺瞞的な計画もある。小手先の局所最適化で研究環境を改善できる段階ではない。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 124 教育に割く時間が増加し、また臨床系はそのノルマも増加し、研究に割ける時間が減少してきている。科学研究費の審査システムが変更されて、専門外の審査員からの評価となるため、必要な研究が採択されにくくなる恐れがある。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 125 成果を挙げている研究者にとって、必要なだけの研究経費が普通に獲得できる制度が必要。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 126 大型研究費に偏り過ぎている傾向はある。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 127 資金調達には厳しさを感じる。近年論文出版にも大きく費用がかかるようになっており、研究費を圧迫している。ある程度のグレードを持った雑誌に掲載が決まった場合、補助が出るような仕組みができないだろうか。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 128 資金配分の制度自体が、過去に実績のある有力大学、有力研究グループに有利になっている。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 129 研究を行うための主要資金は科研費となってきたが、研究の連続性や拡大性を保つことがなかなか難しい。より高額の科研費にチャレンジし、失敗した時の受け皿が無い。例えば、萌芽と基盤研究の重複受給ができない(両方当たった場合はどちらかを選択する)などとするれば、科研費受給者の枠が少しは広がるかもしれない。チャレンジ失敗した場合の受け皿となりうるのではないかと。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 130 大きな研究機関、大学、研究室に資金が集中している傾向がある。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 131 間接経費の取扱いが機関によって異なる。何とか統一してほしい。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 132 科研費の応募要件が細かくなっており、研究費の獲得が難しくなっていると感じる。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 133 萌芽的研究に対する援助の拡大が必要だと考えます。(大学,第2G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 134 科学技術予算全体としては減っていないかもしれないが、直接経費の割合が減っているため、現場での予算は確実に減っているのが問題である。事実、所属機関では、間接経費の返還が昨年度から2.5%も減少した。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 135 今後、経済成長や世界と渡り合っていくには、特に研究費に資金を多く投入にすべきである。経済は今やりの観光だけでは成長できない、ましてや年寄りへの無駄な医療費への税金の投入は結果、国に何も返ってこない。基盤研究から得られる技術革新、製品開発を行うことが結果、この国の発展につながることをもっと真剣に考えるべき。人材育成、人材投資を軽視しすぎていると言わざるを得ない。国からの研究費削減は結果、大学が企業の下請け、就職斡旋所になってしまう。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 136 若手研究者や優れた実績を持つ研究者であっても、研究組織に属していないがために、研究予算が得られない状況が多くみられる。若手研究者同志が、自ら研究組織を立ち上げ、成果を出すような、大学や研究所の枠を超えた組織を構築できるシステムが必要である。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 137 大型の(1000万円以上の)共通機器を申請するためのシステムがない。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 138 科研費に関して、システムが大きく変わるため、将来的な変革に不安を感じる。全体として研究費が削減されたりしないのか?等(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 139 安定財源が減らされていることによって、悪循環が生じているように思います。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,男性)

- 140 所属施設からの研究資金提供が一切無くスタートアップが厳しかったり、また教員枠が少なすぎ、スタッフになれない、昇進が厳しいことなどは、若手の優秀な人材が研究職に夢を持っていない状況をつくっていると思われます。現実を考えると、研究よりも病院や会社への就職が無難と判断せざるをえないような、研究から離れたくなる様な現在の環境は、改善が必要と考えます。(大学,第2G,保健,研究員・助教クラス,女性)
- 141 間接経費は4割、今後5割とられると説明されています。その割に、大学としての国際活動支援、たとえば、英語の書類を点検できる事務の方などの数は、全く十分ではありません。何に使っているのかの説明も十分ではありません。高額研究費を獲得すればするほど理不尽な気持ちになるのは、現実です。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 142 研究環境も資金も不十分だが、仮に資金を獲得できたとしても、研究に費やす時間を確保できるのかという心配がある。通常業務が多すぎる。いろんなことに取り組むのはよいが(表向きの体裁)、それに費やしている時間とエネルギーに見合う成果があるのかは疑問。誰を満足させるためにやっているのかと思うことも少なくない。(大学,第2G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 143 間接経費については、研究者とファンディング機関が協議して決められるものやすでに決定されているものがある。間接経費の額に対して便宜を供与している大学の関与は形式的である。ファンディングは間接経費を含めた全体額とし、決定したときにこの3者の協議により決定する方法はとれないものか。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 144 わが国の研究力の低下が懸念される。このままでは世界をリードする研究成果は出にくくなる。科研費の増加を期待する。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 145 いずれの状況も悪化している(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 146 基盤的研究費の配分する必要がある。画期的な研究は、予測できないため、底辺を広くする必要がある。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 147 基礎研究に対する支援が少ないため、抜本的な見直しが必要と思われる。また、基礎研究を追求できる研究環境を充実させてほしい。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 148 国立大学のみを念頭に置いた運営費や補助金のシステムになっているため、公立大学における科学技術振興のための視点の強化が必要である。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 149 教育負担や学内運営負担が増加しており、研究時間の確保が難しくなっている。研究環境や研究資金の状況は引き続き悪化している。競争的ではない研究予算の確保をしないう限り、画期的な研究成果は生まれにくい。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 150 大学における企業との共同研究においては、間接経費率は大学あるいは大学内の部局によって10~20%程度に決定されているが、学内設備の利用により研究が実施されることを考えると、その率は十分とは言えず、間接経費を増やすための取組みが必要と感じている。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 151 研究資金の使い勝手にまだまだ不便を感じる。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 152 基礎研究および若手研究者が安定して研究に従事できる環境が極めて劣悪。これが根本的に改善されない限り日本の研究力や研究水準の低下傾向はより加速する。早急に、長期的視点に立ち、将来に向けた思い切った投資(特に基礎研究への投資)に取り組むべきである。また、電子ジャーナルやデータベース等の研究基盤の経費が圧倒的に不足しており、国際的に後れを取る要因の一つとなっている(再掲)。また、特定の主要大学に研究資金が集中しているため、研究層が諸外国に比べて極めて薄い。挑戦的な研究にチャレンジできる若手研究者の多くが所属する第2層,第3層の大学の底上げが不可欠である。(大学,第3G,社長・学長等クラス,男性)
- 153 独法化により雑用が増えている。若手研究者がそれにパワーをさかれて研究に従事する時間が減っているのは問題である。(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 154 基盤研究費が削減される中、本来アカデミアがするべき自由な発想からの研究課題を遂行することが難しくなっている(大学,第3G,部長・教授等クラス,男性)
- 155 我が国の研究論文報告数が低下しており、これは憂慮すべき事象である。今日、実験材料費ばかりでなく論文の投稿料までも一般に高額になり、科学技術費の予算増額が望まれる。研究費の配分方法にも問題がありそうに思われる。ノーベル賞受賞者または受賞候補者への一極集中型の予算配分も理解できるが、次世代の高度な研究の基盤は、広い研究者層の底辺に潜まれている。科研費の挑戦的研究(萌芽)の採択割合を高めることは、底辺の研究者層を支え、高度研究に展開できる1つの解決策になると思われる。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 156 年々公的研究資金が減額され、老朽化した設備の更新すらままならないようになっており、現在の研究レベルの維持だけで精一杯の状況である。少なくとも研究のライフラインといえる設備の更新費用は確保してほしい。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 157 現状では、ごく少数の有力な研究者に何億円もの研究資金が集中し、一般的な研究者は数百万円単位の研究費を複数獲得しなければいけない。このやり方では、ノーベル賞級の独創的な研究成果が生まれる可能性は非常に小さい。また、基礎研究の困難さが目立ち、研究者をめざす若手は減少する一方である。動物を使う生命科学系の研究室には年間2000-3000万円程の研究費が必要である。多くの研究者がそれくらいの研究費を確保できるように国は方策を改めるべきである。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 158 国家予算全体として財政難であることは理解しているが、学術研究費や教育費の占める割合が低すぎると思う。特に基礎研究に対する評価や認識が低い。研究費の配分自体が近視眼的で素人判断になっている。(大学,第3G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 159 研究費の集中を抑えるといっているが全く機能していない。選択と集中の時期は終わってまたばらまきの時期にするべき(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 160 間接経費の機関での使用が適切と感じられない。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 161 研究のための基盤的経費と研究者の研究時間が極めて不十分。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 162 大学院生の学振研究員などは,小さな研究室からはほとんど採用されず,権力のある指導教員や大学名が採用可否の大きなファクターになっている様子.小さな大学でも,良い研究を行っているグループがあるにもかかわらず,研究費配分の選抜が正しく行われていない。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 163 研究人材の項目でも述べたように,若い人たちは頑張って研究費を獲得しているし,URA推進室もよく活動している.しかし授業負担や雑務,問題を抱えた学生への対応といった用務も増える一方であり,研究環境はむしろ悪化しているように思う。(大学,第3G,理学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 164 毎年,運営交付金が減額されており,私が利用できる研究費も毎年減少の一途をたどっている.このままでは研究活動が維持できず,論文などの成果が出なければ,科研費などの競争的研究資金の獲得も難しくなるという負のスパイラルに陥る危機的な状況です。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 165 学内で配分される研究費がほとんど無いに等しい.外部資金をとらないと全く研究できない。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 166 基礎研究を含む多様な研究が,我が国の国力増強に有効であると考えますが,防衛省の競争的資金への応募を認められない大学もあります.研究の多様性,人類の発展,安全保障を含む基礎的な基盤の向上に逆行しているところと考えますので,組織が競争的資金応募を禁止することはなるべく控えるなどの提言が必要かと思えます。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 167 所属大学では間接経費が学内で一旦集約された上で配分されるため,プロジェクトに使用できる金額が目減りが大きい.間接経費の意義を再確認した上で大学間で統一をして欲しい。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 168 大型の観測装置・実験装置を導入することは地方国立大学では不可能に近い.また,年数の経った装置についても,保守点検などが精いっぱいでありアップグレードなどは望めない.きちんと動く装置であれば,データも取得できると考えているが,最新鋭の装置を持った国外の機関に対抗するのは簡単ではない.また,事務員不足からか教員がやるべき仕事のほかに多くの会議・仕事が入ってくる.時間の関係で18時過ぎに会議を始めるなどすでに働き方改革など破綻している状況である。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 169 研究環境は昨年度と変化が見られなかった.設備等は時間の経過とともに劣化・老朽化するので,そういった点からは状況は後退していると言えるのかもしれない.研究資金に関しては,外部から取得するしかないが,若手研究者として取得できる額は限られているので,非常に苦しい状況が続いている。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 170 私の所属機関に限っての意見ですが,若手教員が研究時間を十分に確保することが難しい状況です.まず,着任間もない若手教員が研究室を立ち上げるための整備する期間が十分与えられないまま,講義や学生実験,卒論生の受け入れをしなければならない,また若手ということで用務も多く,若手が業績を上げやすい状況とはほど遠く感じます。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 171 所属機関は運営費の削減の影響を受け,来年度より,大手出版社との論文閲覧契約を取りやめることが決まっており,競争力への影響が懸念される。(大学,第3G,理学,研究員・助教クラス,女性)
- 172 予算配分のメリハリは重要であると考えているが,基礎的な予算は極めて少ないのが現状であり,新たなテーマ立ち上げに困ることが多い。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 173 校費の減少が研究環境を足元から劣化させている現状があるように思われる.何とかこの状況を改善しないと,大学における研究は先細りになると思われる。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 174 予算配分については,金額とか数値だけを追うのではなく,中身を分析し,適材適所に必要額を充当するきめ細やかな対応が必要かと思えます.オールジャパンで人材を活用するためには,研究する意思がある研究者や学生たちを休眠状態にさせないように,全研究者,研究室の活動状況の可視化が必要かと思えます。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 175 教育研究予算の縮減の煽りを受けて,人員を削減するという状況が最悪(人がいなければ事は決して始まらない),研究環境は徐々に劣化,研究資金も縮減(研究予算が劇的に増えることは無いと聞いています)とのこと.公的資金は期待できるものではないと認識し,自助努力で個人的な投資や寄附増を図ることが必須な時代と考えます。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 176 情報系の研究をしていますが,プログラム作成などでは,プログラム情報のサイトを参考にすることが少なくないです.海外に比べて,参考になるサイトが少なく感じます.また,その多くは,個人の努力で提供しているようです.個人の努力で,情報を発信しているサイトへの支援などがほしいと思います。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 177 基本的に単年度予算で,たくさん研究予算をとっても,口座は別々のものになり,それらを別々に管理せざるを得ず,事務作業が膨大になってしまふ.それぞれの予算の出どころにより,全て予定通り使わないといけないのは正論だが,研究室運営という面からも,異なる種類の予算の融通化が大事だと思う。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 178 水光熱費や什器類などの基本的な費用を支出できるだけの基盤的経費は,最低限確保する必要がある。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 179 年間の科研費が約2300億円,年間の湿布代が約1300億円(正確ではない値としても)では,学術研究を最も広く支援する科研費の研究資金が十分であると全く言えない。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 180 研究に関するすべての状況は,加速度的に劣化しています.人を育てるための環境,そのための指導者の数,研究経費,電子ジャーナルの維持経費など,全般です.さらに教員の削減に伴う,研究以外の業務の増加も,研究者に「研究をしない場」を提供しています。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 181 国際会議に参加すると,最近では中国の台頭がめざましく,小職の分野では発表件数は日本をすでに抜いている.中国では,研究者の数も研究費も多く,日本の大学教員は時間的にも予算的にも対抗することが難しくなっている。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)

- 182 大学(国)からの配分がないため外部資金集めに奔走する事態を招いている。悪平等的に配分するのは良くないが、消耗品を購入する程度の研究資金は大学から配分されるべきである。教員(特に地方大学)が外部資金集めに過度に労力を割かれると、教育・研究に支障をきたす事態を招く。実際にその弊害が現れていると思う。(大学,第3G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 183 現在の研究資金は獲得して研究活動を行う際に自分に支払って良いものはほとんどない。おまけに本学のような私立大学は研究を行ってもその他の活動に勘案されることもなく(ここ最近考慮され始めてはいるが)、ただただ忙しさが増し、それを見た学生は研究者を希望しなくなるという悪循環に陥っている。この忙しさとは、土日も出勤し、平日は朝8時半から夜11時まで毎日仕事をしても終わらないような状況を述べている。このような環境を許している大学で研究者並びに学生に研究活動が促進されるわけもなく、ただただ身を削っても研究を行う教員が残っているのが現状である。それでも教員は研究が好きで行っているためよしんば良いとしても、家族はどう思うであろうか。常に新しいことを追い求める研究者を取り巻く環境が決して楽ではないのは当然としても、研究者がワーキングプアとなるような環境は防ぐべきと強く感じる。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 184 基礎研究分野への資金配分,もしくはチャレンジングな課題に対する資金配分等が十分ではない。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 185 間接経費の使途を明確にしてほしい。何割かは研究者自身の環境改善に裁量できるようにすべき。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 186 リサーチ・アドミニストレーターの話など、数年前から聞いていますが周囲は全く配置されていないし、言葉だけが浮いているという印象を受けます。大学全体の意志は不明ですが、研究者個人としては高価な大型測定機器は(国からの補助などを受けて)配備して欲しいですが、実際の配備状況は厳しくなっており、「研究するな」と言われているように感じます。一方で、成果を出せ、ということは大学からも要求され、ストレスになっています。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 187 総じて研究費の使い方について、戦略的計画に基づき行う意識が浸透しているように感じる(汎用的機器を同一組織内でいくつも保有するケースは減っており、共有化する制度が整えられている等)。その一方、これらの機器のランニングコスト・維持保全に関する経費が確保できていない。また、なにより、基本的な役割を担う人件費が継続的に削減されていることが研究設備以上に問題である。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 188 年々、研究環境が悪くなっているように思います。特に、研究資金の工面は死活問題になっています。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 189 教育・研究に使用する測定器や実験装置も年々老朽化しているが、教育研究基盤経費が削減されている昨今では、思うように更新も出来ず、困っている。競争的研究資金で充当しようとしても使途が決まっているため、このような機器の購入には使用出来ない場合が多い。予算的に基盤経費での購入が困難であるため、規模や容量を縮小した機器で代用したり、実験自体を取りやめにしたりして対応している。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 190 デュアルサポートシステムは事実上機能しておらず、積極的な外部資金獲得のみが先進的な研究・開発の経済基盤を整える唯一の手段となっている。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 191 科研費以外の大型予算,その事務処理をペーパーレス化すべき。研究活動を圧迫するほど,処理に手間がかかりすぎている。大胆に改善すべきです。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 192 日々の研究を遂行するための基盤的な研究費がすでに所属機関からの配分額では不足で、恒常的に外部資金を導入しなければ研究ができない状況である。また間接経費も所属機関に上納するため、直接経費で高額な装置を導入することができても、実験台や椅子などを更新することができない。また一過性の外部資金獲得では高額装置を購入して来ても、継続的なメンテナンス費用に対する不安があるため、どうしても思い切った予算使用をためらってしまう。(大学,第3G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 193 設備は古く時代遅れになり、また故障したものもあるが研究資金の不足により大型装置の修理もままならず、更新できる見込みはさらさない。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 194 地方大では運営費が皆無に等しく、外部資金獲得が求められているが、このために基礎研究や挑戦的な研究に取り組みにくい状況になりつつある。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 195 公的研究資金のベースを上げて欲しい。企業や社団法人の研究費獲得のための書類作成に追われており、研究よりも申請書執筆に時間を奪われている。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 196 省庁が良いと判断される予算内で研究に従事すればよく、それ以上の成果を期待しないで頂きたい。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 197 研究資金はもはや期待できないレベルである。共同研究等を通して確保していく他ないと考えている。ただ、その分どうしても目先の結果に走りがちになり、深く探求することは難しくなる。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 198 昨年度,出産に伴い産休を取得した。科研費の応募時期が産休と重なったため,科研費応募ができなかった。また,これに伴って学内の個人研究費の減額があり,産休に対する十分な配慮がされているとは言えない状況であった。(大学,第3G,工学,研究員・助教クラス,女性)
- 199 大型設備更新が定期的にはできない状況にある。(大学,第3G,農学,社長・学長等クラス,男性)
- 200 リサーチ・アドミニストレーターの質が向上していない。リサーチ・アドミニストレーターのポストを作るために研究者の予算やポストが削られたり、研究者の研究時間がリサーチ・アドミニストレーターの実績を作るため、奪われているという本末転倒な事態も散見される。競争的資金の規模は十分であるが、基盤的経費の削減が厳しく、競争的資金では買えないが、研究活動に必要な事務機器、設備の整備に困窮している。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 201 地方の国立大学の校費は危機的状況です。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)

- 202 運営交付金の減少により、継続的な基礎研究の遂行が困難になっており、我が国の教育・研究基盤、特に多様性が脅かされているといえる。(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 203 国立大学の運営交付金は年々削減されている。少子化による学生数の減少等がその理由の1つと思われる。社会人教育、卒業教育、あるいは国際化などで学生数は増加することができる。また、超高齢化社会を迎え、高齢者を国が活用するための再教育なども考えられる。このような大学の役割を再考し、交付金の削減を続けて良いのか、再検討が必要。また、地域貢献型、研究拠点型、最先端型の大学分類も数年ごとに評価し、分類をし直す必要もあるのでは？(大学,第3G,農学,部長・教授等クラス,女性)
- 204 我が国の論文数の低下は危機的な状況にあります。研究費の選択と集中よりも、500万円程度の比較的低額に研究費を広く配分する方が論文数やイノベーションに貢献すると思います。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 205 研究費を獲得した際の間接経費に関して不明な点がある。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 206 研究費の使用と成果に関する説明義務の重要性は否定しないが、報告書が多いように感じる。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 207 自由な発想で利用できる運営交付金が非常に少ない。研究資金の中には出口を求めすぎているあまり、逆に研究の生産性を落としているものもあるように感じる。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 208 大学の予算が削られ続けて、基礎的な予算、人員が必要以下になっている(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 209 研究を行うための環境、機器、設備(物理的な物)は充実しているが、研究のための消耗品費、研究に携わる人についての研究費のサポートが不十分。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 210 研究者によって、研究資金に対する感覚が違い、大型予算ほど無駄使い(年度末の予算消化のために、さして重要度の高くない機器や消耗品を買う、値引きを徹底しない、高額な外注を使うなど)が多くなる傾向にある。100万円をありがたいと思って、一生懸命成果をだそうと努力する研究者を重要視するべきであり、1人に1億円だすより、100万円を100人に分配する方が日本の研究力基盤向上には効果的だと思う。また企業が大型予算をとる場合、自社社員の人件費に回すべきではない。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 211 世相による流行り廃りが大きいと感じられ、研究者個人や研究機関の個性を最低限維持することが困難な状況になりつつあると感じる。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 212 年々研究環境や研究資金の獲得が厳しい状況となっている。研究資金の集中投下は今後新たなイノベーションを生み出す基礎研究を圧迫するだけなので、広く研究資金を配分できる環境に(運営交付金の十分な分配)戻してほしい。(大学,第3G,農学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 213 大学において、研究資金の利用に関して過剰な取り締まりが蔓延しており、教員が本来教育や研究に割くべき時間と労力の大半が事務作業に失われている。過去の不正が引き金となる場合が多いが、まともな教員が泥をかぶる現行のやり方に強い疑問を感じる。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 214 大学の研究環境、特に基礎科学を対象とした研究に対する予算枠が少ないように感じている。予算枠の拡充と合わせて、配当額の配分も十分考慮してほしい。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 215 研究資金については運良く確保出来ているが、その他業務に追われ、研究ができていないのが実情。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 216 個人の発想を基に行う研究に関しては、確実に時間が取れなくなっている。研究資金については、たまたま昨年度から科研費基盤(C)代表、今年度から科研費基盤(B)分担があるため、私個人として今年度は困っていないが、研究に関する予算はほぼ外部競争的資金である為、研究活動ができなくなる事態を常に考えておかねばならない。腰を据えた根本的な研究テーマを実施するには、任期の無いポジションと、少額でもランニングコストは賄えるだけの予算が必要と感じる。(大学,第3G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 217 本学の研究資金活用の制度は全く整っておらず(おそらくそのような地方大学は多いと思いますが)、むしろ競争的研究費を取得した研究者が間接経費を上納する(つまり直接経費が削減される)、しかし必要な組織的支援や人的支援はない、という状況です。つまり、問2-10の質問の意味がよくわかりませんが、本質的な事項は間接経費の活用が最優先だと思います。つまり間接経費を30%大学に上納(多くの競争的研究費は総額が決まっているので、その分の研究者個人の直接経費が減らされる)、しかしそれが大学の自主性ということでその間接経費の使用はブラックボックスになっております。つまり間接経費の問題を変えないと、能力あり頑張った結果を出した研究者の環境がどんどん悪化する(作業は増えるが支援ないため疲弊する、研究費はその分召し上げて他の研究者に配分したり光熱費などに消える、また何らかそれが評価されない)、研究環境の改「悪」の制度となっています。間接経費を活用して、その研究者の支援となる、あるいは優秀な研究者を育成する、など正しく間接経費は使用されるように、国(省庁)で一括した指針を作り、その間接経費の活用を透明化して、各大学に競わせるようにしたら、一気に多くの問題は解決すると思います。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 218 間接経費の使い方は、各機関まちまちである。機関によっては、すべての間接経費を機関が使ってしまうと研究者側が全く使えない場合もあるので、間接経費を配る際に「最低でも何パーセントは研究者に配ること」というルールを作れないものでしょうか？(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 219 大学等の事務作業が増加の一途であり、研究に割ける時間も減りつつあります。その劣悪な環境で、研究を続ける希望者も減っています。科学論文数も、諸外国に差をつけられ、10年後の我が国の研究を強く憂います。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 220 問題の多い防衛省の研究費予算を増額するのではなく、文科省科研費を確保していただきたい(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 221 研究環境、研究資金の状況は年々悪化していると思います。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)

- 1222 生命科学について言えば、基盤研究費(年間1000~2000万円)を充実させることが必要と考える。1億円以上を得ている研究室は、人件費と大型機器にその大半を費やしており、創造的な研究を展開しているかは疑問。総額というより分配を意識すべきだと考える。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 1223 間接経費の使途が不明であり、基盤的経費がますます困窮している状況である。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 1224 アメリカや中国を基準に再考が必要。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 1225 人件費の不足が問題。若手のための常勤ポストの減少が問題(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 1226 当大学では運営費削減分を各講座研究費の削減で穴埋めしている。その結果、各講座で教育費もままならない状況に陥っている。研究費は外部資金でまかなうのが大学の基本方針となり、外部資金がなくなったり、少ない講座ではそれなりの研究ができなくなっている。このような状況が継続されるならば、将来的に大学での基礎研究が危ぶまれる。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 1227 一部の研究組織を除くと資金の減少傾向と環境の劣化は止まることなく、将来が見通せない状況だと感じる(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 1228 米国のNIHグラントのように、1回目の審査で駄目でも審査員の意見に沿って予備的研究を行えば、数ヶ月後に採択されるような、再チャレンジの機会をつくるのはどうでしょうか？また、NIHグラントだと直接経費とは別に間接経費が上乗せして大学へ支給されるので、研究者も大学もwin winの関係になります。直接経費をもっと上げる必要があると考えます。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 1229 オープンアクセスの論文が増えた分、論文査読者のレベル低下による論文レベルの低下、研究室における印刷料等の負担増などが生じており、研究費にしわ寄せがきている。(大学,第3G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 1230 現状では、より強いグループや既に成果があるグループにお金が集中する仕組みになっています。5年スパンで考えると、すでにある成果に投資するため、確実に小さな成果は出ると思います。しかし、現状の投資(研究費の配分)方法では、次世代に向けた新しいシーズが生まれにくくなっており、10-20年スパンで考えると、研究環境が先細りしていくと思います。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 1231 各国別の論文数にも表れているように、日本の研究環境のみ資金面・環境面で他国に比較して悪化している。このままではアジアの他国への研究者の流出も加速すると思われる。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 1232 研究資金の配分が応用的なゴールがはっきりしている研究に偏りすぎているように感じます。小額でもいいので、どうなるかわからないような基礎研究への投資を増やして欲しい。応用的なゴールのはっきりしている研究は企業が強いです。大学の資金面でも世の中の風潮でも応用的なゴールの魅力ばかり宣伝されると、卒業生はやはり企業就職が多くなり基礎研究の道に踏み切れる学生が少なくなるのが現状だと思います。また基礎研究の魅力も語りにくくなります。現状では、キャリアパスも厳しいので基礎研究を目指したいという学生にその魅力を伝えることを躊躇することさえあります。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 1233 山中先生ですらお金が足りないと言っており、どこに配分されているのか不明。重点配分されただけの成果を出しているのか、検証が必要だと思います(しているのかもしれないが明らかではない)。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 1234 大学の共用機器の維持管理、修理費用がかさみ、一方でそちらへ回せる運営費も減らされているため、故障した共用機器が修理できない、利用料が値上げして研究を圧迫する、などの状況となっています。新しい機器を購入する研究費が当たって機器が導入されても、その後の維持管理について手当てがないため必要な費用が増え、研究に支障が出ます。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 1235 理想的には、該当する項目について研究者よりも詳しいプロフェッショナル人材を配置した部署(URAなど)で、優秀な研究者をサポートし、適切な業務の分担によって、研究者の研究時間を確保することが望ましいと思います。とくに、優秀な研究者を研究に集中させる仕組み作りが、財政の潤沢ではない我が国がとれる打開策だと考えますので、まずは優秀な研究者のサポートと業務効率化が急務だと感じています。ただ、実際には、広報などの場合、研究者をサポートするために広報する研究を理解する必要がありますが、多岐にわたる各研究を理解できる人材を確保することは困難です。例えば、プレスリリースする文面作成などを研究者が行うことになります。できれば、専門性の異なる、博士号を有して広報に長けた人材が、複数名、サイエンスライターとして配置されれば、サポートできるとは思いますが、果たしてそれは可能なのか…と打開策は思い当たりません。研究費獲得等についても、それに詳しい人材を配置できないため、書類チェックでも、その項目を重視する審査員はいないだろうな、という指摘ばかりとなり、日々死活問題として経験し、成功してきた研究者の方が研究費獲得の方法論(書類づくり)について詳しい場合が多いと感じています。創造性には欠けるが、能力の高い人材が、サポート役として厚遇されるポジションを各大学で提示できればちょうど良さそうに思えるのですが、優秀な研究者から見て、サポート役が十分に能力が高くなければ単に足手まといになるばかりですので、そのための仕組み作りも簡単ではないように感じます。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 1236 基盤・基礎研究に対する応募項目が著しく減少しているのを最近、特に実感しています。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 1237 医学部では募集定員は増加しているにも関わらず職員の数は増加していない、むしろ減少している分野もある。基礎医学など明らかに人員不足である。教員枠の増加が望まれる。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 1238 運営交付金が競争的資金に変わることにより、総額は同じでも申請書、報告書の手間が増え、長期安定雇用が出来なくなり、研究者を疲弊させるだけ。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 1239 科研の基盤B以上が当たらないと研究を継続することが難しい分野が多く、そのため業績が低迷するためさらに科研が当たらないという負のスパイラルに入っている分野が以前に比較して多くなっているようだ。(大学,第3G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 1240 一極集中ではなく、多くの研究者に研究費が配分されるようにした方が良い。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)



- 241 GDPに占める全研究費は少ないとは思わない。しかし、一部の出口の見えた研究やトップダウン型研究に多額の研究費が投入され、基礎研究がしろにされていることを痛感している。これは大学や研究所の組織編成や人事にも大きく影響している。もちろん、出口の見えた研究に重きを置くことは否定しないが、昨今あまりにバランスが悪すぎる。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 242 論文等の研究情報へのアクセスは、大学間の不公平を無くし、国の大学・研究機関全体で共有出来るようにして欲しい。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 243 研究成果が出なければ研究資金も研究を目指す若い人材も確保できず、ますます研究成果がでなくなるという負のループから脱することは容易ではない様に思います。地方の国立大学ではそういった状況が色々な面で続いていく様に感じています。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 244 科研費の書類、細目の改革があったが、効果は薄いと考えられる。特別推進研究における採択回数制限は非常に評価できる取り組みである。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 245 大学予算の減少で、取得できる論文が限定されつつある。国の研究費を用いた研究にはオープンアクセスを世界的に広めてほしい。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 246 自分が所属する分野においては研究と教育とのバランスを保ちながら行うにはとてもカリキュラムの問題や人材の問題、学内の対応の問題、インフラの問題あり、課題が多いと考えている。(大学,第3G,保健,研究員・助教クラス,女性)
- 247 予算の関係により、研究設備・研究機器のリニューアルができない状況であるため研究資金獲得も徐々に進めている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 248 競争的資金拡充の方向性に異論はないが、短期間に成果創出される研究重視に偏れば、基礎研究育成の基盤が失われる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 249 研究(特に自然科学)はゆとりと広い視野、ある場合は遊び心が必要である。もっと自由にボトムアップができるような基盤的資金の充実を望んでいる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 250 誰もが言うことであるが、研究環境も競争原理が働くことは決して悪いことではなく、むしろ望ましいことである。しかし、それは、基盤研究費が確保されているという条件下でのみ通用する話である。大学独自の研究機器更新が困難な状況で、他学とコンソーシアムを組むことは容易であるが、移動に2~3時間以上を要する場合には通常業務に支障を来すことが多いこと、時間と旅費等の負担が大きくなることなど研究推進に支障を来すことが危惧される。極めて高額な機器は別として、大学で日常的な教育研究に使用する機器については、国の支援で適宜更新出来る環境がない限り、我が国の研究力は低下の一途を辿り、科学立国は夢のまた夢に終わるであろう。指定国立大学などの世界トップ100を目指す研究施設にのみ研究費を集中投資することでは、日本の科学研究力は回復しようがない。広く分厚い裾野があってこそ、高い霊峰成り立つことを忘れてはならない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 251 基盤的経費の減少が続く限り、研究環境は悪化の一途をたどるように思えてならない。また、競争的研究経費でカバーできない研究資金は大学の基盤的経費に大きく依存する。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 252 研究大学強化促進事業により、研究環境整備や資金獲得への支援策が成果を上げつつある。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 253 大学の収入構造を変革することが重要であると考えている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 254 研究環境は与えられるものではなく、自分で作っていくものだと思います。そのために研究テーマ設定が大変重要です。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 255 国の科学技術に関する予算の適切な配分の選択と過度にならない集中がより必要になると思われる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 256 研究資金は、額ではなく、できるだけ多くの研究者を支援できるような仕組みが必要。研究論文を発表している研究者には、ある程度の研究費が支給される仕組みも必要。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 257 一部の助成資金では、間接経費が零となっているので一定基準の枠組みが必要であると感じている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 258 設備、機器の整備をしても、運転資金が付随していない研究資金が多く設備を補助金で整備しても活用がうまくいっていない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 259 個人的には軍事的安全保障研究の予算規模を増大させることは反対である。それであれば科研費その他の平和利用・民生利用を目的とした研究費の予算を増やしていただきたい。過剰に数値目標を追求し、経済効果、製品化、イノベーションを研究成果に求める事についても真に自由な発想に基づいた研究の芽をつぶしてしまうように思われる。基盤研究費や科研費のような予算こそが長期的視野で我が国の科学技術力や学問レベルを高くする原動力である。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 260 諸外国の大学に比べて、日本の大学の研究環境の悪化は著しいと認識しなければならない。国立大学は予算を減らしても死にはしないがボディーブローのように悪影響が出ている。諸外国より予算を伸ばさないでにおいて研究成果で勝るといふマジックはあり得ない。特に、運営費交付金のような広く配分される研究費の重要性を再認識すべきであり、このままでは、いずれノーベル賞をとるような独創的で多様な研究成果はでなくなることが懸念される。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 261 間接経費は直接経費の30%と定められているが、間接経費を50%あるいは60%に上げて欲しい。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)

- 262 大学の基本となる運営費交付金が減額され続けているので、そのしわ寄せが研究資金や人件費に及んでいる。日本の研究力の低下は法人化以降顕著に現れている。小手先の改善ではなく大きな改革の手を今打たないと、すぐには研究力は上昇しないと思われる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 263 いずれの機関でも積極的に外部資金の獲得に取り組んでいるものの、研究の基盤的な設備や施設にはそうした資金を投入しづらいところがある。この点で、必ずしも研究環境、時に図書館機能など基底的、基盤的なところへの研究資金の投入ができなく、世界的な研究競争において優位に立てる点がない。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 264 昨年度に比べてH29年度の基盤研究費は、半額になった。研究者のモチベーションが下がっており将来の日本の研究レベル確保は困難となっている。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 265 国立大学では、運営費交付金の機械的な削減により、研究者をサポートする事務員の人数が激減している。また、同じ理由で、図書費や光熱水費も厳しく削減されており、精密機器を用いた測定を行う環境の保持にも苦勞する有様である。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 266 公表されているデータや、有識者の見解から判断すると、基礎研究に対する支援にもっと配慮が必要であると考ええる。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 267 若手研究者のスタートアップに手厚いサポートが必要と考えている。また、業績も必要であるが、若手には研究する時間の確保が不可欠であると考えている。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 268 研究資金の基金化、研究経費間の流用をさらに進めてほしい。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 269 若手研究者のスタートアップに手厚いサポートが必要と考えている。また、業績も必要ではあるが、若手にはもう少しこの部分には時間の猶予を与えてあげること考えてみてはどうか。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 270 防衛にかかわる予算が増額されており、学術の自立主体性が失われつつある。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 271 大学の予算不足は深刻な状況にある。研究に必要な施設は老朽化が進み、研究のサポートに必要な人的サポートも量・質ともに不足しており、教員への負荷が増えてきている。また、特に地方大学では、学会活動等の社会活動にも支障をきたし始めている。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 272 独自の設備等に対する研究資金は潤沢にし、重複設備購入は制限するなど、メリハリをつけるべき。国研、大きな大学は、似たような設備を多数抱えて、無駄が多いが、私学や地方大などは全くない、などの状況にある。設備の共用などを高く評価すべき。(大学,第4G,部長・教授等クラス,男性)
- 273 特定の研究室に研究資金が集中する傾向にあり、研究を開始し始めた若手研究者への支援が十分ではない。(大学,第4G,部長・教授等クラス,女性)
- 274 本学の場合は、基盤的経費が比較的多い。そのため、努力をしなくてもある程度の活動ができてしまい、結果として、危機感のない安易な研究に走ったり、遊びと変わらない研究をやっている研究者が多いと感じている。多様性は重要だと思うが、もっと業績連動の研究資金の仕組みをいれないと、全体としてアクティベートされないと思う(大学,第4G,部長・教授等クラス,女性)
- 275 短期的実利追及の研究は民間に任せて、国は数十年先の将来像を見越した研究を重視すべき。(大学,第4G,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 276 特に運営費交付金の削減による大学の財政状況の悪化により、研究環境・研究資金は大きく圧迫されている。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 277 基盤的研究経費が削減され、パソコンの更新すらできない(113千円しか配分されない)。科研費に採択されなければ研究ができない状況になり、困っている。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 278 お寒い限りです。(大学,第4G,理学,部長・教授等クラス,男性)
- 279 研究補助者(生物実験・PC関連)がこの9月に退職することとなったが、その後任の採用が大学上層部により当面凍結するとの宣告を受けた。これは専攻内の助教の後任人事の凍結と同様に、教育研究環境にとってプラスになるとは思えず、少ない専攻内スタッフの負担が増えてしまっている。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 280 多くの研究機関で同様のことが言えると思うが、基本的に間接経費は研究費を獲得した研究者に使用する権利はほとんど与えられない。前任の大学では25%(ただしこれが10万円以下の場合は無効)、現所属先では使用を許可されない状況である。間接経費は「競争的資金を獲得した研究機関又は研究者の所属する研究機関に対し、研究実施に伴う研究機関の管理等に必要な経費として、研究に直接的に必要な経費(直接経費)の一定比率で配分される経費」と文部科学省のHPには記載されているが、これに沿った使用が実施されているとは到底思えない。大学や研究科からは間接経費が何に使われているかさえ報告されない。間接経費の使用には最低でも「大学と研究者の合意」が必要ではなからうか。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 281 すべての研究者が資金的にある程度余裕をもって、企業やトピックスの束縛を受けることなく、自由闊達に研究を各自の興味と信念の下に進めることができるような予算措置が重要である。科研費等を申請しないような不屈な研究者も一部散見されるが、多くの研究者が真摯に研究を進めている現状を把握し、それにこたえてほしい。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 282 圧倒的にお金が足りない。1研究室への資金は国立大学なら、最低数百万円は確保すべきである。理系で100万以下の研究費の研究室も多いときいた。実際にはなにもできない、やらせてもらえない状況である。そのため、競争的資金への申請に多くの時間を費やすことにもなる。基盤的研究費を十分確保すべく、運営交付金をもとにもどしてほしい。学校の組織の一番末端である研究室への研究費の減額は、容易く施行され、それが戻ることはない。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 283 科学技術予算の配布先にかたよりが生じているのが現状だと思われる。特に学術的興味を優先した基礎研究に対しての理解が非常に低い傾向にあるように思われる。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,男性)

- 284 旧帝国大学から地方大学までバランスのとれた研究環境・設備の設置を切望します。国公立大学の学生はほぼ同額の授業料を大学に収めているので、全国どこの大学でも平等な教育を受ける権利があるのではないのでしょうか。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 285 研究経費が不足しており,学会出席等も行くのが難しい状態が続いている。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,男性)
- 286 研究環境および研究資金の獲得とは別に,事務職を含む支援員を増やしてもよいのではないかと。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,女性)
- 287 科研費の区分が変更になり,状況の変化が分かりませんが,若手研究者としては予算額が多少少量でも採択件数が上がる方が望ましいのではないかと思います。(大学,第4G,理学,研究員・助教クラス,女性)
- 288 研究環境は年々劣化しているが,大きな改修は見込めない状況にある。研究資金については金額面よりも執行の規制が強く,使いづらいつらと感じる。年度をまたげないという制約や,配分の時期が遅すぎるなど,すぐにも改善できるのではないだろうか。(大学,第4G,工学,社長・学長等クラス,女性)
- 289 研究資金の総額は,ある程度確保されていると感じるが,配分先が民間企業に偏りすぎている。大学への配分比率が低すぎると思う。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 290 直接の研究資金よりも,雑誌購読費用や大学内共用施設など間接的基盤経費の実質的目減りが痛い。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 291 私学の場合,研究するスペースが極めて小さい。そのため,十分な機材を購入することができない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 292 自由な発想を重視するなら(毎年主張していることではあるが),各研究者に対して裁量経費を渡して「何に使ってもよい」「成果を求めない」とすることが肝要である。不正を排除するために,どう使ったのかの報告とその意義について報告させることは構わないが,短期成果のみに注力することは不適切である(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 293 教員になることを若手に勧められない。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 294 今の政府は芽が出てある程度育った研究に肥料と栄養を与えて成長を促進することには興味があるが,種まきから初めて苗を育てることには見向きもしない印象を強く持つ。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 295 研究資金の重点配分は理解できるが,個性的な研究にも基盤的経費が配分される仕組みが必要。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 296 多くの地方大学の研究者にとっては,大規模な予算を獲得することも,また仮に獲得したとしてもそれを適切にマネージすることも,ともにかなり困難なことのように思う。私は一般的な校費と科研費の基盤研究A~Cをきちんと獲得し,それに基づいて自由な発想で研究することが,大学研究者の基本のように考えている。いま日本では一部の著名な研究者が大規模な公的研究費を獲得して華々しく研究を行っているが,どれほどの価値ある成果が上がっているのか疑問に思う。基盤的な研究費をもっと手厚くして,色々な研究を自由に進められる環境を整備すること,言い方を換えれば様々な研究のタネを蒔く環境を整えることこそが,明日の日本を支える研究成果創出につながると考えている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 297 法人化以降,国立大学法人は個々の教員がマネジメントに巻き込まれて研究時間が大幅に削減している危機的な状況である。各大学に向けた文科省の競争的資金の取り組みは一部を除いて廃止すべきである。大学間を競争させることで大学自体が疲弊してしまっている。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 298 政府の公募型研究費(競争的研究資金等)にかかわる間接経費は,そのほとんどは研究者には回ってこず,本来は間接経費で購入すべき物品を直接経費で購入することがどうしても起こる。NEDOの予算の中には,間接経費25%のうち10%は研究者が使うことという指定があるものもあり,それについては研究者が間接的な経費として使うことができる。そのようなしくみをJSTや科研などの他の間接経費にも導入すべきである。(筆者の所属する学部では,今年度から,209万円以下の間接経費はすべて管理部門が使うということになった。例外的にプロジェクトの報告会などの旅費は申請すれば間接経費で支出できる。間接経費30%の科研でいうと,直接経費が700万円以上ないと間接経費はまったく使えないという計算になる。ほとんどの研究者はそれほど多くの研究費は持っていないので,困る状況になる。)(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 299 前述したように,研究環境はますます悪化し,危機的な状況にある。教員数が削減される一方で,運営業務,教育負担が激増し,研究教育のための時間が大幅に減少している。共通経費の削減のため,従来は共通経費で支払われていた費用も,各教員の負担となり,支出が増大している。所属部局におけるもう一つの大きな問題は大講座制である。助教も含めて,各教員が独立して研究室を運営する仕組みになっている。これは,有能な研究者からなる組織においてはうまく機能するかもしれない。しかし,現実には機能不全に陥っている。教授クラスは運営業務に忙殺され,研究室での学生指導のための時間を確保できなくなっている。その一方で若手教員は資金獲得ができず,学生のトラブル(登校拒否,精神障害など)に適切に対応できず,研究成果を上げられずおり,結果として外部資金を確保できていない。地方国立大学のように,人的・物的資源に制限がある組織こそ,古典的な小講座制の方が適切ではないかと考える。大講座制で各教員が独立して研究室を運営する場合においても,現場で直接学生に対応する研究教育スタッフは不可欠である。本来は学長裁量経費等を利用して,顕著な研究成果を上げている研究室にスタッフを配分するのが適切な運営であり,いくつかの大学ではそのような対応がなされている。しかし,所属大学においては,学長裁量経費が,地域で開催される観光行事に消費されたり,学内政治によって不適切な配分がなされたりしており,研究環境の改善にはほとんど有効利用されていない。大学の自治は放棄し,文科省から直接学長を送りこむことはできないものか。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,男性)
- 300 ひとつの研究機関に予算が集中しない工夫をしていると言われているが,結局旧帝大系の大学に予算が集中していることには変わりがなく,そこに所属する研究者から,「予算をどう使って良いか分からないくらい潤沢な予算があるので,必要ないものを買った」というようなことが平気で語られる状況は問題だと考えます。(大学,第4G,工学,部長・教授等クラス,女性)
- 301 学内で配分される校費が昨年度より大幅に削減されたため,長期的な基礎研究に取り組みにくくなった。学科の教員数が十分とは言えず,研究時間の確保も年々難しくなりつつある。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 302 大学・研究機関は国家国民より研究活動の責務を与えられているにもかかわらず、その資金のほとんどが研究環境の整備および研究資金に回っていない。特に、少子化による残り競争の激しい大学においては、広報戦の様相で、広報コストが極めて不自然に伸びている。この20年で、大学・研究機関における広報費・管理ポストや研究支援部門の人員費の割合がどれだけ伸びているかデータで出すべきである。国家は血税を大学・研究機関に配分している訳であるから、大学・研究機関が研究開発費に投じている正しい額の公開を義務づけ、その割合を管理すべきである。技術開発を継続して成功する民間企業などは、売り上げの10%程度を無条件に研究開発費に投じている。国家もこのような取り組みを見習い、血税を使う以上、義務化すべきである。大学法人や研究開発法人を名乗る団体への認可基準の中に、研究環境の整備と研究資金配分の割合を入れるべきではないだろうか？また、2017年度の科学技術関係経費(当初)約3.5兆円という総額ではなく、使われ方を制御する時代ではないのか？3.5兆円のうちの何パーセントが研究者の手に渡り、研究費として使われているか明らかにすべきである。国家の研究費のほとんどは研究者の手に渡ることなく、建物の建設費、研究機関の道路の補修費、耐震工事費用、管理ポストの人員費、調査費、秘書、広報費、飲食代、パーティー代などに使われているように思う。直接科学技術開発に寄与していない。例えば、このNISTEPのロゴを作るのにいくらを投じたのか？その投じたロゴデザイン代金は研究者が使うべき資金ではなかったのか？(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 303 科研費に関しては、浅く広くという形式に変わってきているように感じます。資金を多くの研究者に少額でもよいのもっと充当していただきたい。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 304 比べるとキリが無い。ある環境および資金で実現可能な研究課題に取り組むだけだと思われる。どうしても満足できないのであれば、他の研究教育機関に移動すれば良いと思われる。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 305 理学分野などは状況はよくなっているようであるが、成果が目に見えにくい工学分野などは冷遇されていると言ってよいような状況ではないかと思われる。予算削減や締め付けは研究機関の体力や研究の質を低下させても他研究機関との競争を煽ることに繋がない。結果として、工学分野においては総合的な研究レベルを落とすような方向に進んでしまっている。現実的な視点で日本の教育研究レベルが底上げされるような取り組みに期待する。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 306 web上に公開されている研究代表になっている予算のランキングを見ると、数百億円が個人に与えられているが、実際にそれがインパクトのある研究になっているのか、いささか疑問にもなっている。例えば、そういった研究者の中には企業の研究者もおり、国費を本当に投資すべきなのか、それは企業の技術開発であるため、必要ないのでは？という疑問もある。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 307 競争資金も必要ですが、基盤的な研究資金をもう少し充実してほしいと思います。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 308 近年の競争的資金は、巨額化して、かつマッチングファンド化してきているように思う。実験設備や大企業が少ない地方大学では、競争的資金を獲得しにくい。せっかく良いアイデアが有っても、大学から一律配分される運営費は足りないし、競争的資金の確保も難しいし、結局何もできず、無かったことと同じになってしまう。このようなシーズ的研究をうまく拾う資金の整備も必要と思う。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 309 教員の補充が不十分であることが、研究時間の圧迫を招いている要因の一つと考えられます。学部生の卒業研究のための研究環境の構築にも競争的資金を充てざるをえない状況で、研究室の運営のための交付金が不足していると感じます。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 310 校務・雑務が多すぎて、研究活動に割ける時間が年々少なくなっている。それに伴い、新規性の高い研究を発案することが難しくなり、既存研究の延長のような無難な研究テーマにしか取り組めなくなっている。また、常に研究費獲得を考えなくてはならないので、それに伴う、申請、報告、アウトリーチ活動にも多くの時間が取られてしまう。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 311 まだ勤務1年目のため、詳しいことが理解していないが、外部資金獲得のための、事務局などの体制は協力的であると感じている。(大学,第4G,工学,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 312 物品購入、出張手続きなどの事務業務、基礎学力、教養を身に付けることが不可欠な学生への個別的な配慮、対応を含めた教育などの追加の業務があり、研究に専念できる環境とは言いにくい現状がある。また、学生の学会発表に対する出張旅費との支援を行うと、研究者個人が自由な発想に基づき執行できる研究資金が非常に少なく、アイデアを具体化できないのが現状と認識している。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 313 研究のためのデータベースの拡充は進んでいる。しかし、ビッグデータは、それを扱うための計算機や技術者の確保が難しい。環境を整備できる大学と、できない大学の格差は広がっているように感じる。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 314 実用化研究に関わっているのでURAの先生方との関わりが多いです。しかし、本学ではライフサイエンスに対する認識が不足しているようで、自分は有機合成化学が専門なので、合成した化合物を動物実験などライフサイエンス系の先生へ提供しています。しかしそれは材料提供なので、発明者たり得ないとして発明者に加えてもらえません。連携先の〇〇【公的研究機関名】の知財担当者が説得してくれましたが、結局発明者になれないまま出願することになりました。研究費も時間もすべて業績にはなりません。国立大学のスタンス(考え方)なので、私学出身者には理解できないことがあります。しかし、この考え方であれば、前職の〇〇大学薬学部ではほぼ、出願ができないことになっていると思います。この違いはどこで生じるのでしょうか？国立大学では実用化研究は奨励されないのでしょうか？これが政府の意向なのでしょうか？(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 315 すぐ実用できる研究に対して予算が投入されていることが多い気がする。そのためか、偏った選択と集中が起こってしまっていることを危惧する。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 316 論文をオープンアクセスで投稿するときにかかる費用はほとんどの場合で十万円では足りず、高いときには数十万円にもなる。払ってしまうと残りの研究活動に使う費用が不足するためオープンアクセスの雑誌への投稿には躊躇してしまう。そもそも科研費等の申請書に論文投稿代として数十万円と書けるのは、ごく一部の高額予算獲得者だけだと思う。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)
- 317 科学技術予算の全体額のうち、ボトムアップ型の個人型研究費(科研費)や大学を通じて配分する基盤研究費が占める割合をもっと増やした方が国のためになるのでは。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,男性)

- 外部競争的研究資金は十分に用意されていると感じるが、若手研究者の獲得資金の年齢制限によって応募が制限される場合があるように感じる。例えば35歳以上から若手研究者向けの研究資金は下降傾向となる。しかしながら35歳以上40歳未満は若手以外の大型競争的資金の獲得は難しくなるため、ある一定の期間は競争的資金の獲得が困難になると感じる。(大学,第4G,工学,研究員・助教クラス,女性)
- 機能強化等に伴う新たな業務量増大に対して、そもそも人材数が減少し、個人の努力では限界にきている。新たな取り組みを増やすなら、人的資源に応じて従前の業務を見直し一部スクラップすることを考えない限り、研究環境は改善しないと思う。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 大学では運営費交付金が減っているため、大学より支給される公費は年年減っている。この公費は学生の講義、実習にかかる消耗品などでほとんどなくなるため、研究を実施するには外部資金を調達する必要がある。研究を遂行するには科研費に採択されることが重要であるが、採択されなかった場合を想像するとかなりのストレスを感じる。科研費が採択されにくいとは思わないが、プレッシャーは感じてしまう。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 定年延長により、若手、中間層の研究費獲得が低下し、いつまでも君臨する一部の著名な教授が独占的に研究費を得ているため、国内の研究はじり貧である。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 研究者自身の発案による競争的研究資金(現状重複申請制限の強化等で実質減じられている科研費の基盤研究のような)を格段に拡充するのが先進国としての日本がとるべき道と考える。どんな基礎研究でも将来の応用的価値(その間の人材育成の過程も含め)が生じる可能性がある。人材育成や設備を含め基礎研究への投資が、安全保障なども含め日本の繁栄への鍵であると考え。(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 評価が応用研究に偏りがち(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- 軍事研究への予算配置は増大しているが、一般的な科研費などについて特定分野に片寄る傾向がある。全般的な底上げができないで、知の継続が期待できない(大学,第4G,農学,部長・教授等クラス,男性)
- とにかく基盤経費の削減が厳しい。研究室運営にそのほとんどが費やされ、基盤経費で行うことができる研究はほとんど無いのではないかと思います。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 理系研究者は、ポストドク経験を経てからテニュアになることが一般的になっている。こうした状況で、ポストドクを雇用できる規模の研究費が特定の分野に集中していると、それ以外の学術分野が衰退することにつながる恐れがある。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 内外の雑務が多すぎて、研究環境としては最悪。研究資金の獲得には当然業績が必要だが、そこまで手が回りにくく、悪循環が顕在化。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- ハード面、資金的には十分な状況にある。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 外部資金獲得に関しては研究者は積極的であるべきだが、大学などのテニュアポジションの教員は学生教育の観点からも長期間にわたって安定的な研究をするための充実した基盤研究費が与えられるべきだ。(大学,第4G,農学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 今年度応募分の科研費について、前年度応募の対象が緩和されたのは非常に良い変更だと思います。(大学,第4G,農学,研究員・助教クラス,男性)
- 応用性の高い大きな研究に研究費を投じるのは国際競争の点から重要であるが、すぐに応用とは結びつかない基盤をなしている研究の維持のための研究費を確保することを考えることが必要である。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 間接経費は施設においては望ましいが、研究実施を圧迫している様な場合もあると思われる(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 問2-09について;評価基準は、予算総額の問題では無いと感じている。問2-10について;間接経費はほぼ大学に吸収されるため、意図する本来の研究に使用できないのが現状である。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 科研費に代表される公的研究資金は微増であるが、応募者数は増加しており、採択率は低下傾向である。他国と比べても、日本の科学技術予算は極端に少ないのが現状である。また、AMEDに代表されるように、研究費の配分に偏りがあるといわれること自体問題である。近年の日本の論文数は低下しており、技術立国としての日本も先細りが懸念される。科学技術予算の増額と若手研究者の養成が必要だと思います。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 地方大学でも医学部はまだ研究環境としては恵まれている方だと思う。そのため、忙しくて研究ができない(あるいはやらない)→研究業績が出せない→研究費が取れないという負のサイクルからどうにか脱出させてあげたい。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 今年は、自分が科研費の最終年度で申請の年などで特に気になるところであるが、情報はあまり、伝わってこない。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 研究資金は、競争的研究資金を獲得することで得られるが、研究するための時間が全く確保できない。私立大では、個々の教員に課せられる教育業務やマネージメント業務が非常に多く、休日・祝日を使ってもそれら業務をこなすことで精一杯で、自ら研究を行う時間は確保できない。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 製薬企業からの奨学寄付が一気に減った。一方で、少額をもらい、たくさんの報告書を書かせられる。仕方がないので、書いているが、科研費での萌芽研究の採択率が非常に低い。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 科学技術に関する政府予算は十分とはいえないまでも、かなりの額が使用されていると思う。近年は「選択と集中」の考え方で、大型プロジェクトへの予算配分が大きくなっているが、国内全体の研究環境を活性化するためには、基盤的資金を増やして、これから頑張る研究者に資金が行き渡るようにする必要がある。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)

- 医療系大学教員は、教育・研究・臨床の3つを同時に行うという言い方になっているが、実際には医療活動を多くしないといけないし、教育もよりよいと思われることが積み上げられてスクラップアンドビルドが十分でない。結果として労働時間不足に陥り、一日単位での到達目標が明確になりにくい研究活動が実質的に低下している。一度下がってしまった活動や、それを支える知識レベルは、復活させることは至難の業で、結果として10年単位での部局の能力低下に結びつく。どのような立場、職位の間もこのことを総論として認識しているが、直接的に自身に責任がないために、研究環境の維持や発展という大きなテーマに対して有効な解決策を見いだせなくなってきているのではないかと、資金の問題よりも、研究を行う時間的制約＝時間に関わる研究環境が悪化しているといえる。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,男性)
- 340
- 341 日本全体における予算の配分についてだが、これまでの成果を考えると、一極集中型の配分はあまり効果はない。全体に広く薄くの方が、独創的な研究が進むと思う。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 342 大学からの研究資金は年々低下の一途をたどり、外部資金を得るための申請作業に多くの時間を割かなければなりません。また、倫理に関する手続きが非常に厳しくなり、臨床研究ばかりでなく、動物実験や遺伝子組み換え実験などを行うのにも非常に手間暇がかかります。大学においては懇切丁寧極まりない学生教育を要求され、教育にも多くの時間と手間をかけなければならない状況です。何かの不祥事が報道されるたびに防止策として、手間暇のかかる作業を要求され、このような状況では、日本からの論文数が低下するのも当然だと思います。(大学,第4G,保健,部長・教授等クラス,女性)
- 343 科研費の切れ目があると研究の遂行に支障をきたす場合があります。小さな額でもいいので、科研費とは別のスケジュールで審査、配分して頂けるような仕組みがあると良いのではないのでしょうか。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 344 多数の公募型研究が併存すると、審査が独立に行われるため、結果的に少数の研究室・研究機関に資金が集中することになる。トップダウン式の研究費を減らすとともに、一つの研究グループが受領できる公的研究資金の総額に何らかの制約を設け、研究費がもうすこし広く行き渡るような仕組みが必要。多額の研究費を集める研究室では、必ず無駄が生じている。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 345 国立大学が独立法人化され、獲得した研究資金についても大学の権限により研究室に入る金額を減額する、という状況になりました。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 346 国立大学を自身で運営させるような方針は、研究の概念とはまったくもって正反対だと思います。研究は役に立たないことも役に立つこともすべてにおいてされるべきであって、効率や経営理念などとは無縁なものではないのでしょうか。もっと世の中の役に立たない基礎研究に所属機関からの研究費を充足させるべきだと思う。世の中の役に立つ研究(ips細胞やES細胞など)にお金が行き過ぎる感じがします。また、宇宙開発事業も失敗したら何千億円がパーになるなど推進する意味があるのでしょうか。あの予算があったらどれだけの基礎研究が救われるのか、といった気がします。基礎研究におけるノーベル賞受賞者の声を、もっと迅速に真剣に受け入れて聞かないと、日本の研究の未来はないのではないのでしょうか。日本人ノーベル賞受賞者は今後ますます減ると思います。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 347 国立大学では、最新の機器の購入が困難な状況にある。特に地方大学ではその傾向が強いと思われる。地方大学からも世界に通用する技術や施設の基盤を構築できるようになればと願う。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 348 大型予算を一部の研究機関や研究グループに配分する形態を改め、広く予算配分を行っていかない限り、日本の研究は先細りしていくと思う。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 349 助教や講師の立場にある若手研究者が教育や学内運営等を行わなければならない環境となっており、相対的に研究時間が奪われている。30代後半(せめて前半)までは、研究に没頭できる環境を整備して欲しい。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 350 ばらまけば良いというものではないと思いますが、研究者の裾野を広げる施策を講じないと、一部の勝ち組しか残らなくなると思います。科研費の最低ラインでも、テクニシャンを通年雇用できる金額にしてもらいたいと思います。頑張って科研費に採択されても、実際に実験するヒトがいなければ、税金の無駄遣いです。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 351 研究のことについてじっくり考えることのできる時間を確保したい。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 352 間接経費については色々疑問。施設によって大分違うと聞いており、ちょっと不公平感がある。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 353 教育業務とその他の業務の割合が大きく、研究業務の時間が不足しがちである。私立大学で、国家試験のある学部であるため、国試の合格率低下は、学生の定員割れや、学力の低い入学希望者しか集まらなくなり、さらに合格率低下を招くといった、悪いスパイラルに入ってしまう。また近年学力の足りない学生が多いこともあり、国家試験の合格率を上げるために、手とり足とりの教育を行う必要がある。この他、教授が各種学会等で重要なポストに就かれているため、学術大会の主催や、学術雑誌の編集作業などなど、大学以外の業務も増える一方である。共同研究は有難いが、大変な労力をかけても、論文では筆頭著者でない限り評価されない。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 354 基礎研究に対する研究資金の増加率を欧米中並みにすべきと感じます。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 355 臨床研究などの予算は増えつつある(AMEDなど)が、基礎研究に対する予算(科研費の基盤研究など)の増加が必要であると思う。不本意ながらも大学運営などに貢献する教員(主に教授など)は多く、そういう教員ほど、年齢的な面からも研究費の獲得が難しい現状であるので、基盤研究費の拡充などで対処してほしいと思う。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 356 科研費をはじめとした、研究者の裁量で比較的自由に使うことができる資金がさらに使いやすくなってきていることは感じるが、人的資源に余裕がなさすぎる。研究補助員、秘書などの絶対数(予算)が不足している。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)
- 357 国の予算も含め、トータルの資金額はこれ以上期待しないが、使い道の指定等、あり方には改善を希望する。スタッフの人件費に特化したものや、必要大型機器の提供、国際学会参加援助などの特化型がもっと増えてもよいと思う。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,男性)

- 358 研究費はもう少し、全体配分金額を増やし、現状の申請者の3割に提供する仕組みから増量できることが望ましい。一カ所の組織や人に重点して高額を提供することには賛同しない。高額予算を獲得している研究組織では、収支に雑さがみえる。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 359 研究をしてもよいという環境は整えられている。研究資金は、公的研究資金を確保しないと学内で支給される研究費は少ない。また学内は、調査旅費・交通費や成果発表のための学会参加や旅費が全く出ないので、研究を遂行するための交通費はすべて自費であり、負担が大きい。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 360 不十分であると感じる。(大学,第4G,保健,研究員・助教クラス,女性)
- 361 研究に携わる人員の減少が研究力の低下をもたらしているのは明白である。将来に対する投資は研究と教育に対して行われるべきである。(大学,第4G,社長・学長等クラス,男性)
- 362 単発の大型研究費を乱立させて税金を無駄使いするよりも、研究者個人に分野ごとに最低限必要な研究資金を提供する仕組みを作って真に独創的な研究が芽生える土壌を作り、その上で今後の発展性が見込まれ追加の補助が必要なプロジェクトに対して競争的に研究資金を配分するようにすべきと考える。(大学,第4G,理学,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 363 狭い範囲しか見ていないだけかもしれませんが、これまで働かせていただいた4年制の大学では、学部生の研究室配属に伴い、その研究室専有の学生部屋が確保されていました。現在所属する大学にはそれがありません。学生部屋は、学生が時間を気にせず深く長く集中したり、考えたり、遊んだりできる環境を提供するものだと思いますので、これがあれば研究環境がより良くなると思っています。(大学,第4G,保健,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 364 国立大学等への研究費が抑制される中、主要な研究機器の老朽化が進み、それに対する維持費が研究費を圧迫するという悪循環に陥っている。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
- 365 配分先が偏在しているのも問題。基盤的経費はあらゆる分野で必要。まずはそこを手当しないと、重要であっても絶滅危惧となりそうな分野がある。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
- 366 国立大学法人化以来の運営費交付金の削減が少しずつ大きな悪影響を及ぼして来ている。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
- 367 研究資金の減少が、研究の活性化を大きくそいでいる。適切な配分、効率的な使用をすることは当然であるが、そのレベルでは対応できないうらいの減少に見舞われている。現在は、ノーベル賞などの成果が上向いているが、20年後にこのレベルを維持できるのかは、大きな疑問。日本は、欧米、中国などの成長に追いついていない。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,男性)
- 368 運営費交付金が定率で減額されている中、実力で取得する外部資金全てに対して、間接経費を付与すべきである。機関経費の土台を、運営費補助金と間接経費を加えた金額で支えることで、自らの手で未来への投資を少しでも進められるようにすべき。研究所を運営する経費のうち、人件費及び建物などの基礎経費は50%程度なので、運営費交付金と間接経費を足した金額で、基礎経費を持つことが求められている。運営費交付金が減額されるに従い、間接経費の比率は、上げるべきである。(大学,大学共同利用機関,社長・学長等クラス,女性)
- 369 基礎科学に関する研究環境および研究資金の状況は、同程度の先進国に比しても海外に比して、低いままでは無いかなと思う。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 370 研究環境を整え、研究成果を挙げるために資金を投じることは平和的な国力を挙げるのに重要である。また、科学技術の取組み、研究環境は欧米と大きく異なるが、必ずしも欧米のシステムがすべての面において優れているわけではない。日本は特に米国に比べて流動性の低い社会なので、それを認識した上での科学研究政策が必要。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 371 基盤的経費の不足が致命的である。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 372 競争的資金が増えているのは確かだが、そうしたお金は自由に使いづらい。倫理講習では、科研費で購入したパソコンでは経理の作業や別の予算の申請書の作成、別の予算の研究の論文を執筆してはならないと指導された。それを徹底するならば、予算毎にパソコンを購入する必要があり、日々の研究に支障がでるし、いくら予算があっても非効率的である。資金の額が問題なのではなく、使いやすい枠組みが必要である。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 373 革新的な研究は基礎研究の上に生まれてきたことはこれまでの科学技術史をみればあきらかである。額は低くとも幅広い基礎研究への継続的な支援が必要である。(大学,大学共同利用機関,部長・教授等クラス,男性)
- 374 老朽化しているものをだままだまし使っているような状況がある。維持、更新、高度化していかないと、早晚世界のレベルから取り残されると感じる。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 375 予算が多いのは好ましいが、今後研究者人口が減少して行く過程では、適正な予算規模を再考する必要がある。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 376 科研費など競争的資金の採択率が低く、大学の配分予算は減少している。トップダウンの課題に大型予算が割り振られる傾向は昨今の情勢から止むを得ないが、自由な発想によるシーズ的研究への予算配分は依然として不足していると感じる。少子化などによる学生の減少や技術職員など機関による人的サポートの減少などが進む一方、アウトリーチ活動など社会貢献や大学教育の多様化などによる研究外活動の要請は増大する一方である。これらの状況から多くの大学・研究機関で、中長期的視点に立った研究の立案が困難な状況は深刻なレベルに達していると感じている。(大学,大学共同利用機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 377 旅費の工面に苦勞することが多く、国内、国際学会に各年1回行く程度の旅費(50万円程度)を使える枠をもっと増やしてほしいと感じる(それよりも高額の研究費を取得できても、旅費に使用できない場合が多い)。(大学,大学共同利用機関,研究員・助教クラス,男性)

- 378 研究資金は不足している。そのため、本来の研究以外の業務が増えて研究時間を圧迫している。大型機器を購入できても、メンテナンスなど含め使える状態に整備することができないなど、資金不足ゆえに研究資金を有効活用できない事例を多く目にする。サポート人材を雇うことのできる研究資金、サポート人材の豊富な研究環境が望まれる。(大学, 大学共同利用機関, 研究員・助教クラス, 男性)
- 379 運営費交付金の繰越制度を柔軟なものに変える必要がある。補助金についても繰越制度を整える必要がある。(大学, 大学共同利用機関, その他, 男性)
- 380 研究費削減により実験装置の更新に支障をきたしている。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 381 研究環境については、多くの施設が老朽化している。競争も必要だが安定した研究環境の提供も必要ではないか。研究資金等については、文部科学省科学研究費補助金が経費執行の観点からも改革が進んでいる。ぜひ、他の補助金も同様の改革を実施いただきたい。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 382 安全保障研究申請が大きな課題となっている。必要な研究であるのなら、大学等の科学研究経費の増額または科研費による推進によって成し遂げられるべきである。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 383 日本では、一部の大学(例えば旧帝大)、国立研究所へ研究資金が集まりすぎる傾向が強い。ある意味、中堅となる大学等への投資が足りない。また、国立大学への交付金の減額、ひいては個々人の基盤研究費の削減は、教員(研究者)の上手な活用とは言い難い。要は、好きなことを自由に研究してもらう教員を減らす結果となり、まさに下策である。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 384 基礎研究に対する支援が少ないため、抜本的な見直しが必要と思われる。また、基礎研究を追及できる研究環境を充実させてほしい。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 385 海外の大学に比較して、不十分であり、研究分析機器の更新が滞っており、老朽化しており、苦勞している。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 386 研究環境、研究資金の両面において、大学間および、大学内においては研究領域間の差がより広がっていると思う。回答者の所属する地方大学においても、環境や資金の面で、十分、世界で戦っていける水準にある領域がある。どこを伸ばしていくか、あるいは、どのようにフィードバックをかけるかといったことを、より戦略的に進めていくべき段階にきていると思う。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 387 数多くの大学等の研究者が利用している、大学共同利用機関や大学内の大型研究施設・設備の陳腐化、老朽化が著しい。また、これらに従事する人材の不足、運転・維持経費の不足が顕著になってきている。優れた成果を上げるためには、長期的に安定した基盤経費の確保が不可欠である。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 388 運営交付金等の基礎的な資金の減少を競争的研究資金の間接経費の獲得増で補う面がこの数年間強く、間接経費の戦略的な使用が行いにくい。Web of Science・InCiteのような研究IR支援システムを完全に外国企業に握られており、毎年巨額の使用料を公費で支払い続ける点は残念である。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 389 直接費など：ブームの分野・課題には資金がつくと認識で、人が群がりがち。実はブームになっているときには、すでに先行して取り組んだ国・企業(アメリカが多い)とは勝負はついているので、その先の展開や、別の展開を図る分野に、基礎的な研究費を手当てすべきではないか？重点領域の設定、プログラムコーディネータの選定、研究審査にかかわる人々に、広い視野・ロングレンジでの見識を期待したい。間接費など：大学の裁量で(全学的な観点から)活用できるようにするためには、現在の間接費比率は、まだ少ない。現場の当事者としては、大学への吸い上げ・召し上げには不満もあるが、欧米の間接費比率(≒ピンハネ率)とくらべると文句は言えない。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 390 弱小の私学では競争的資金を十分に確保することが難しく、間接経費もこれに応じて潤沢ではなく、戦略的な運営ができない。学校法人の理解が得られればよいが、教育に必要となる経費に対して研究への投資は躊躇されることが多く、ネガティブスパイラルとならざるを得ない状況ではないかと感じる。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 391 先進国に劣らない研究環境および研究資金の拡充をしてほしい。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 392 科学研究費がどのようであるべきかは難しい。意欲ある大学教員はそこそこの研究費を取れているようである。しかし、研究は人間性の部分が大きく、これをシステム化することは難しいと考えるべきである。大学は教育機関であり、社会的規範と教育が優先される。しかし、優れた先端的研究はそのようなこととは関わりがない。国が先端的分野で優れた研究を望むのであれば、大学にそれを望むべきではない。(大学, 社長・学長等クラス, 男性)
- 393 諸外国と対比しても研究資金は十分でなく、規制の多さなども含め、我が国が取り残されるのではないかと不安がある。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 394 基礎研究への研究費の投資額が少ない。GDP比率1%以下とは情けない限りである。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 395 最近の政府機関が募集する競争的外部資金は、あらかじめ企業を見つけた上で事業化という出口が明確なテーマでない採択にならないものが多く、基礎研究の研究資金は科研費のみの状態であり、この点が日本の論文数減少の一因となっていると考えます。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 396 世界における先進国において、日本の現状を比べていただきたい。お金がなければ頭を使えばいいが、限界があることも考慮いただきたい。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)
- 397 政府予算の厳しさを考えれば、現状はある程度止むを得ないのかもしれない。(大学, 部長・教授等クラス, 男性)



- 研究装置の共有化等による研究環境の整備並びに多様な研究資金の可能性が出てきたので改善の傾向は見えるが、それ以上に研究資金の使い道、特に間接経費等の明細を明らかにして行くことが必要だと感じている。産学連携の共同研究費での事務作業に、1件50万円程度の費用がかかるのと試算があるが、企業の立場からみると、そのような高コストに甘んじている事務体制の刷新が必要というのを大学がわからない方が問題であるように感じる。地道ではあるが、事務作業の効率化と費用削減とは、研究資金の状況と合わせて考えるものであると提言したい。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 398 不足している。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 400 大学における研究資金に関しては、研究者の応募書類作成疲れが見える。現予算のなにかしかを非競争的資金に戻すべきである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 401 公的資金のほかに民間からの研究資金、寄付などをもっと増やせる仕組みを作ることが必要。しかし民間企業も余裕はないので、URAの活用などにより双方の理解を深める努力も重要。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 402 所属する大学の研究環境はほとんど整備されていないのが現状である。多くの試験は依頼で外部に御願ひするしかない。共同研究の際は、教官の知的活動と学生の労働力だけとなり、深く掘り下げた技術開発などはできない。大学から支給される研究資金は微々たるものであり、外部との共同研究なくして、研究を行うことは不可能となっており、オリジナルな独自研究は二の次であるという感じだ。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 403 競争的資金獲得も大事ですが、それ以前の基礎研究費の額を少し上げる必要がある。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 404 研究費が年々削減されており、研究環境的には良いとは言えない。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 405 科研費のみの研究費では限界があるため、産学連携や寄付講座などにより研究費を獲得している。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 406 AMEDの組織運営あり方や成果に対する評価を行ってほしい。AMEDになってから研究がやりにくくなったという不満は多い。AMED職員の姿勢に起因する問題も多いようである。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 407 学会ばかりでなく新産業創出など大学の社会貢献への期待が高まる中で、私立大学の設備整備に対する補助金が実質的になくなったことには大変失望した。再度の復活を求める。間接経費の確保は、研究支援体制と研究設備などの環境を維持・拡充し、継続的に研究活動を遂行するための必須条件である。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 408 研究環境は、悪化していると感じる。(研究スペース,研究時間の確保など)研究資金のさらなる国策的重点研究への配分(バラマキの研究資金配分がなされていないか。)(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 409 短期的な成果を求める風潮が強い(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 410 私学助成のマッチングファンドが廃止され、ブランディング事業のような「選択と集中」の権化のような仕組みに統一され、私立単科大学の研究資金は厳しくなっている。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 411 間接経費の措置が不十分で、事務体制整備などがどうしてもプロジェクト運営上、脆弱となる。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 412 大型の資金が大きくなり、資金が集中しすぎていると思われる(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 413 近年、日本のエレクトロニクス産業、特に半導体関連産業が衰退して、これらの企業の研究活動が低下しているように感じます。一方、今後の社会を考えると、情報産業とそれを支えるエレクトロニクス産業の重要性は増しているように思います。今、起こりつつある情報産業におけるイノベーションに対応するためにも、将来、日本から重要な情報分野のイノベーションを発信するためにも、企業の研究活動が低下している現在、すべての大学の教員(一部ではない)の研究資金と時間を増やすことは、極めて重要だと思います。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 414 特に地方の大学での研究費不足について、よく聞く。大型研究費が多くなっているが(例えばAMED関係)、評価体制が十分になされていないので、本当に必要なか?その予算を科研費の充実に充てる方がいいのでは?(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 415 基盤的研究と実用化を目指した研究をバランスをとって支援することが望まれる(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 416 研究をサポートする環境、例えば他組織、他研究室の大型機器を(規則に従って)有効に利用できる組織、支持人材、があると好ましい。大学の研究室の研究環境が悪化している。庶務的な仕事が増えて、教員の研究時間が少なくなっている。また、自由な討論時間が少なくなっている。(この原因は多々あろう)(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 417 科研費の間接経費は、応募時に直接経費の他に制度的に担保されているが、受託研究費では、公募時の予算の内数として管理費が含まれている。表示の問題ではあるが、工夫が必要です。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 418 文科省は国立大学法人の再編を本気で考えているのだろうか。いわゆる旧帝大とそれ以外の地方大学間の研究予算の格差(交付金あるいは旧経常研究費)は絶望的なほどの差である。今後の少子化傾向は確実なので研究と教育の効率化をはかることは研究資金の効率的使用にとって欠かせない。地方大学の管理運営者はどう考え、旧帝大の管理運営者はどう考えているのか、研究資金の不足は喧伝されているが将来のビジョンは聞こえてこない。研究環境は多くの大学間の連携ネットワーク形成も含めて将来の日本を背負う人材育成に重要である。(大学,部長・教授等クラス,男性)
- 419 上述したように、研究予算は予算額だけの問題ではなく、日本には予算の自由度と学際性の問題が顕著に存在する。日本の予算は役人が管理しやすいたこつぽ型になっている。米国も同様だが、政府系予算が管理しにくい境界領域や学際的研究をHHMI,Zuckerburg Foundation,Gates Foundation,Sloan Foundationなどの巨大財団が支援しているため、0から1になるような画期的なノーベル賞級の発見が多く生まれる。日本にはそれができないため、大型予算はすべて政府系のたこつぽ型(1から10は可能だが、0から1は不可能)になるため、画期的な成果や新規の分野は生まれにくい。(大学,部長・教授等クラス,男性)

420 長期助成をより充実していただきたい。(大学,部長・教授等クラス,男性)

運営費交付金の削減により,自由な発想で萌芽的な研究を行うことが困難になりつつある。また競争的資金を得た場合でもその研究内容の中での研究を実行することになるので,新たな発想を迅速に検討することが難しくなりつつある。また競争的資金の増加により申請書作成・中間報告・終了報告などの多くの事務作業が論文発表以外に発生し,研究時間の減少につながっている。研究者が自らが専門とする他の研究者の研究成果の評価のために,多大な時間を割くこととなり,研究時間の削減につながっている。一定の競争環境は必要ではあるが,バランスのとれた運営費交付金のような研究者の自由な発想に基づいて柔軟に使用できる資金と,競争的資金のバランスをとった運用が必要である。諸外国に比べて,GDPあたりの科学技術予算は少なく,このままでは我が国の科学技術の優位性が損なわれる危惧を感じる。(大学,部長・教授等クラス,男性)

422 基礎研究にばらまき型の予算も必要だと考えます。(大学,部長・教授等クラス,男性)

423 研究費の経費処理や物品購入などの雑務が,研究者本人が行う部分が多く,研究遂行に支障を来している。こうした業務は間接費でまかなうべきかもしれないが,大学自体も経常予算が年々削減をされており,間接費を大学の一般業務に充当せざるを得ない状況である。(大学,部長・教授等クラス,男性)

424 企業との共同研究や,明らかな成果を求めるプロジェクト型研究は増えていますが,結果だけを追い求める研究を続けてきた結果,見かけの成果は増えても明らかな質の低下を感じています。(大学,部長・教授等クラス,男性)

425 研究に必要な資金は確保しやすいが,研究資金の使用に関して学内に様々な制限があり,研究遂行に対して効果的かつ効率的に使用できなくなっている。研究資金を獲得しても,思うように研究をできないのが残念である。また,間接費がどのように利用されているのかが不明である。(大学,部長・教授等クラス,男性)

426 競争的資金の割合が多すぎる(大学,部長・教授等クラス,男性)

427 間接経費は大学が殆どもっているので研究者への直接の恩恵は少ない。(大学,部長・教授等クラス,男性)

428 研究資金は,必死で取っているが,機器などが老朽化していき,修理費が馬鹿にならない。(大学,部長・教授等クラス,男性)

429 国の制度として,科学技術予算が十分に確保されているが,予算使用に対するチェック&評価制度が不十分だと思う。(大学,部長・教授等クラス,男性)

430 研究資金が,選択と集中の美名のもとに,ある研究者や研究グループに過剰に集中していることに,危機感を感じている。(使い切れないという話も良く聞きます。)研究者の裾野を広げる形での,研究資金の配分が必要と思う。裾野を育てないと,新しい研究は生まれてこないと思います。(大学,部長・教授等クラス,男性)

431 基盤的基礎的な研究を推進するためには,大型研究費の獲得が困難な領域,研究室においても若手人材の雇用,育成が容易となるような予算,制度などの面からの施策が望まれる。(大学,部長・教授等クラス,男性)

432 研究環境及び研究資金等の量的・質的低下が日本の研究開発の国際競争力の低下に繋がっているのは明らかであろう。自由な研究開発を可能とする基盤的経費を(競争的資金に振り替えるのではなく)一定程度確保した上で,民間資金等の導入も含め研究環境及び研究資金の状況を改善しないことには現在の日本の地盤沈下の状況が今後も続くと思われる。(大学,部長・教授等クラス,男性)

433 交付金を減額して競争的資金に回すとしている。確かにこれは増えているようであるが,期間がせいぜい5年程度なので,ここにかかわる人材を長期に雇用することができない。正規に雇用された若い人材が競争できるようにするべきである。(大学,部長・教授等クラス,男性)

434 科学技術予算は総額のみでなく,どのように分配するかが重要である。大型予算を集中的に投入し進める必要のある研究も確かにあるが,さほどの目覚ましい進展が無くそこそこでも大型の予算を獲得している研究もある。著名な研究者の翼下にある研究者に見られる。若い時代に潤沢過ぎる研究費の元に居ることが研究の画期的進展に繋がるかどうかは大いに疑問である。それよりも,一極集中で予算が大幅に削られた地方大学の研究者(教育に携われば良いとも言われるが,理系において深い研究の魅力なしには学生を育てられない)に回すことの方が将来の日本の技術者のレベルを上げることには有益なのではないか。応募書類を十分練る時間の取れない研究者の数のほうが多く,予算獲得を諦めてしまう場合もあると聞く。ある程度のレベルの研究費はすべての研究者に保障することが重要ではないか。(大学,部長・教授等クラス,女性)

435 科学技術予算の総額は,国の財政事情を考えると,それなりに配慮されていると思う。しかし問題は,その配分の仕方にある。現在の行き過ぎた選択と集中は,将来の研究の芽を摘んでいるのではないか。何が成果を生むかは,結局のところ予測できないのだから,広く薄い投資の意義をもっと理解してもらいたいと思う。(大学,部長・教授等クラス,女性)

436 科学技術の社会実装に関わる,社会科学への重点化に力を入れるべきだと思います。イノベーション主導型経済において,国の盛衰の要です。(大学,主任研究員・准教授クラス,男性)

437 外部資金の獲得とその執行あるいは審査のために多大な時間と労力が割かれ,落ち着いて研究に取り組む環境が損なわれているという悪循環に陥っている。国としてトータルの科学技術の向上やイノベーションの推進を希求するという,本来の目標に合致した政策へと転換するべき時期に来ている。(大学,主任研究員・准教授クラス,男性)

438 政府の予算額は問題ないと思うが,配分方法の再検討が必要と考える。(大学,その他,男性)

439 大学における研究者の研究環境は,以前に比べてかなり厳しい状況になってきていると思われる。その理由として,1) 上述したように研究者数(定員数)の減少,2) 学部学生への教育にかける時間数の増加,3) 教育及び研究以外に費やさなければならない時間数(例,倫理講習等)の増加等により,研究にかける実質的な時間数が減少し足りない状況となっている。さらに,大学から支給される研究費が半減し,外部からの研究費を獲得しなければ研究継続ができない状況である。(大学,その他,男性)

440 企業は目先の見える研究には自分のお金を出し大学を当てにしません。大学を当てにしようにも企業の実情を理解しない窓口が多いように感じます。企業には見えない非競争領域での基盤技術の確立が出来る建付けを考える必要があります。(大学,その他,男性)

- 441 研究資金はまだ不十分。(大学,その他,女性)
- 442 グローバル化が叫ばれているので,グローバルで比較すると先進国の中で十分な研究経費がかけられているとは感じられない.研究経費を含め,大学運営経費の削減とそれを補うための研究費獲得活動に疲弊し,本来の目的である教育・研究の機能が低下していることは,論文数の減少を一つの例にとっても明らかと思われる。(大学,その他,女性)
- 443 老朽化対策や大型機器の更新にかかる費用が大きくなっている。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 444 まず,公的機関では,中期計画で,一定の交付金にすべき.多い,少ない,より一定であることが重要。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 445 研究資金の配分には偏りがある。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 446 国の研究資金配分に大きな偏りがある.分野における既得権的偏りが大きい(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 447 研究施設・設備の老朽化が進んでおり,これらの更新が必要な時期になっている研究所が多い.しかし,施設整備のための予算が限られているために研究施設・設備の更新は遅々として進まない状況にある。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 448 ナショナルセンターであっても,運営交付金の減少や財政難により,研究所の予算にしわ寄せが来ており,内部研究費が大幅に削減され部室長の補充も制限されている。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 449 評価委員会の専門家は必ずしも適切でない場合が間々あると聞く.中間審査も丁寧にやり研究停止などの件数ももっと増やすことが必要.審査期間が性急すぎると思う。(公的研究機関,社長・学長等クラス,男性)
- 450 特に基礎研究への配分が不十分.実用化研究は本来,企業がするべきであるにも関わらず,実用化研究(儲かるテーマ)にしか予算が配分されていない.土台(基礎研究)がない実用化などあり得ない.基礎研究に十分予算を配分しないと中国に抜かれる(既に抜かれている分野が多い).役人が最も内向きで日本の位置づけを理解していない。(公的研究機関,社長・学長等クラス,女性)
- 451 iPSなどpragmaticな研究のみに,研究費が配分され,真理を探究する自由な発想の研究が不可能になっている.iPSは,企業に研究していただければよいのではないか?次のノーベル賞につながる発展はこの研究費では生み出せない.つまり,ノーベル賞につながる新たな発見を目指す研究者を夢見る子供がいなくなる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 452 大規模データベースを構築するためのデータシェアリングの必要性に関する意識を醸成する必要がある.また,研究基盤を支えるための基盤研究費の増額が必要(運営費交付金).(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 453 外部資金ではコンピューター等の汎用品は購入できず,交付金では賄いきれない.競争的資金以外の政府事業費等についても,間接経費を認めていただきたい。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 454 安全保障技術研究を推進することは必要であるが,競争的資金の性格は必要ではないと考える(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 455 科学技術に対する政府予算は少なすぎる.このままでは,数年先に,中国やインドなどの新興国に業績面で先を越されるだろう.軍事研究の予算を科学技術研究に回すべき。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 456 外国との競争力を維持するには,政府予算における研究費をさらに増額する必要があると認識している.査読付き論文数や国際会議における発表論文数においては,日本のプレゼンスが急激に下がってきている分野が多くなってきた.一方で中国の台頭は注目すべき勢いがあり,対策を打たなければ,今後数年の内にアジアにおける科学技術研究の日本の存在は,中国に取って代わられることになるだろうことを,現場においては切実に感じる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 457 競争的資金を増やすのは悪くないが,審査や評価にばかり時間がとられる状況になっていないだろうか。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 458 研究環境や研究資金は,ビクネームに局在しすぎる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 459 経常研究費を削り,競争的資金で研究を行うスタイルの弊害(短期的成果しか狙わない)はこれまでも指摘されているところであるが,そのことが改善されているとは思えない。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 460 競争的資金を充実する一方で,施設の維持が非常に厳しくなっている.産業応用や社会貢献だけに絞ればその方向性も分かるが,国としてはもう少し広い視野も必要なのでは?(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 461 短期的に成果が上がる研究ばかりに予算がついている.基礎研究の軽視がますます進んでいる.研究費全体の拡充と基礎研究への割り当てを増やすべきだと思う。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 462 予算的な制約から電子ジャーナルの購読数が減ってきているなど,研究環境が悪くなってきている.費用対効果を強く求めすぎると,研究開発力の低下を招く恐れがある。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 463 若手研究者は研究環境及び研究資金に恵まれているが,40代のミドルリーダーは管理職としての仕事も抱え,且つ競争的資金はシニア層との争いとなるため,研究サポートを行う事務職員の育成や,新たな競争的資金制度を望みます。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 464 事務支援者を含む研究支援者確保に必要な措置や基盤的な研究費が十分に確保できない状況が続いている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)

- 465 研究成果の社会,特に経済的な意義,価値が一層強く求められるようになってきた.そのような環境の中でも,研究の物理,化学上の対象に対する厳密な分析,把握に対する姿勢が弱められたり,更には,経済的なニーズがある「こと」が錦の御旗とし,その「こと」が長期的な便益について深く考えることがなくなったりしない様,心を強く保つことが必要と感じている.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 466 運営費交付金はインフラの高経年化,安全対策等に多くが割かれ,純粋な研究費として研究者の手元へ届く資金は極めて不十分な状況.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 467 若手研究者が研究を続けるためのトラックが相対的に少ない.研究費による雇用ではなく,研究機関が人件費として使用できる運営費交付金の枠が増えることを期待したい.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 468 研究資金は,どこのラボも慢性的に不足しているように思われる.逆に中国から来ている留学生が中国に帰国すると,研究資金が潤沢である旨の報告を受ける(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 469 間接経費の使用報告は義務化したほうが良い.何に使っているのか見当がつかない.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 470 AMEDに研究費が移管され,非常に使用しにくい研究費になったように思える.また,AMEDの方向性あまりに製品化に向かいすぎており,基礎的研究がおろそかになっているように思う.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 471 ノーベル賞は毎年受賞者が出ているが足下の政府予算は不十分な状態(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 472 政府方針に即した技術開発に大型予算が配分される傾向が強くなり出ている.将来を見越した基礎研究を展開するための寛容な予算も一定程度確保しておくべきと考える.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 473 基盤的な研究資金の充足が望ましいと考えます.基盤的な研究資金は自由な発想の研究を行うための研究費として極めて重要です.競争的資金を減らしてでも基盤的な研究費にあてた方が良い結果を生むと考えています.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 474 国際水準に照らして,比較優位が失われつつある.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 475 運営交付金が一律削減されていく状況を変えない限り,資金不足はますます深刻になっていく.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 476 基礎研究を中長期に渡り時間をかけて取り組むことが非常に難しくなっている.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 477 予算の規模は多い方が良いが,それ以上に設備の購買手続きの煩雑さを緩和して欲しい.税金の使い方の公平性と効率とのバランスをもっとうまく調整できるのではないのでしょうか.特に,大学では無く,公的機関における公平性確保のための手続きの煩雑さは異常とも思われる.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 478 場所としての定義づけを行うべき,実験施設の更新ができていない状況で,小粒の資金が増え,審査の手間が増え,報告書の手間が増え,仕事として研究をする人が増え,という状況.組織に十分な予算配分をして,組織としての運営をきちんと評価する方が合理的.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 479 コンプライアンス重視から,多くの案件が,組織のトップ判断になり,研究資金の分配やエフォートの分配などの判断の遅れと事務作業が多くなっている.実質的に判断,マネジメントできる適切な規模での実質的マネジメント体制の構築が重要であると思う.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 480 個別論になるが,数値目標に捕らわれたようなアドバイザーがいると国プロはうまくいかないのでは.民間の人材もいろいろいるのでキャンペーンは終わり,精査する段階になったのでは?(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 481 研究で購入した装置の維持,整備が不足しているように感じる.技官などの技術員の確保,継続的な維持費の手当が必要ではないか.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 482 国からの研究費でしか研究できない研究者が多すぎる.採択されるまでが必死で,その後は,次の採択までの準備研究になっている.さらに,国からの研究資金は制限や規則がどんどん厳しくなっているため,違反のないように研究費を使うことばかりに気が取られ,肝心の思い切った研究に使いきにくい.なんとかして欲しい.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 483 競争的資金の制度は,成果の向上のための切磋琢磨を誘引するため効果的な制度と感じる.一方で,その成果が社会にどのように貢献,影響をあたえるかの観点も税金等を利用していううでは重要であり,評価の大きな視点にすべきと思う.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 484 科学技術予算がまだまだ小さすぎる.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 485 研究環境は,十分である.研究資金は,外部資金を取らないと回らない状況にある.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 486 性急に成果・出口を問われることが増え,スケールの小さい研究が増えたのではないか.基礎研究に注力する研究者が損をしていると感じていないか.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 487 (意見ではないが,)地方国立大学の教員から,小口でも良いから競争的資金の数を増やして欲しいとの要望を良く聞く.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 488 大学の予算減を止めるべき.そうでないと,日本の科学技術の足腰が弱くなるいっぽうである.(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 489 アメリカのDARPAみたいに,ベンチャー企業に補助金を出したら,実用的で面白い研究も出てくるのではないのでしょうか?(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)

- 490 研究環境・資金に関しては研究成果というより実施していることに重きを置いているように感じる。各省庁縦割りの壁があり、情報の活用・共用の妨げになっている。例えば、似たような研究に関する調査が複数省庁からあり重複する回答をすることとなる。(公的研究機関,部長・教授等クラス,男性)
- 491 この数年間,〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇【公的研究機関名】の運営交付金の大部分が病院のために使われていると推測され,研究所の活動に大きな支障が出ています。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
- 492 研究環境,研究資金ともに十分とはいえない。間接経費についても,各機関ごとに解釈や用途についての考え方に乖離があり,十分とも不十分ともいいがたい。根本に,研究者を支えるための資源(交付金,必要な人材・有能な人材など)が不足している事があげられるが,そこに大きく切り込んで経営や運営をしている組織は多くない。一方でそのあたりの支援をするようなファンディングなどがあるとそこに必死に乗っかり改善を図ろうとする組織もあるが,そのファンディングが切れてもそれらを維持するような組織は少なく,根本的改善が必要と感じている。(公的研究機関,部長・教授等クラス,女性)
- 493 国の補助金事業の実施にあたっては,間接経費や一般管理費が支弁されないことから当該事務の実施にあたり人材を雇用することができず,事務負担が非常に大きい。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 494 交付金が毎年削減され,職員人件費も嵩む中で真水の研究費配分は全体の交付金削減率より更に大幅な減少傾向にある。施設整備補助金も削減されており,施設・設備の老朽化対策に十分手当てできていない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 495 基盤的な研究資金として,最低限の研究資金は,確保すべき。科研費などの外部資金がないと何もできないという状況は,日本の国益を損なう。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 496 研究をしたければ競争的資金を取りにいけ,というトレンドそのものを否定するつもりはないが,度が過ぎると研究に直結しないマネジメント作業が増える,長期的視点からの課題が実施しづらくなるなどの弊害も生まれる。バランスが大事であり,定期的な調査による現状の把握が重要と考える。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 497 研究部品を一つ買うにしても間接経費が掛かりすぎている。10円のネジを買うために3万円くらいの事務経費(事務系職員の人件費等)が掛かっている。コンプライアンスが・・・,会計検査が・・・と,過剰な対応を行って,結果,研究が進まない,研究に予算が回らないという事態に陥っている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 498 課題解決型の研究に重点が置かれ,環境及び資金面で基礎研究が衰退しているところに非常に不安を感じる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 499 基盤的経費の削減が続いており,競争的資金の獲得なくては既存の研究資源の運用すら難しくなっている。研究環境は悪化の一途をたどっている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 500 研究施設の老朽化が著しい。研究資金の効率的な使用のためにも装置機器類の共用化を意識した研究施設へのリプレースが必要(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 501 研究以外の業務の割合が急激に増えており,予算もさることながら,研究時間の確保もおぼつかない研究者が増えているように思う。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 502 研究者自身が事務作業を行わなければならないため,研究に充てる時間が少ない。事務作業項目も,年々増えることはあっても,減ることはない。研究者の事務作業の負担が軽減されるよう,組織として対応して欲しい。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 503 研究に関する資金が乏しいことから,募集に対して採択される数は,全体的に少ないことから,国際協力においても不利な状況である。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 504 実用化に近い研究課題に研究資金が集中しているように感じる。次世代以降に花開く可能性のある研究に対する研究資金が配分されている様には思えない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 505 研究資金は各分野に分けて配分されることが多く,境界領域や業種の近い産業界を統合するような研究へのより積極的な配分が必要と感じます。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 506 組織運営のための作業が多い。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 507 芽が出た,あるいは,芽が出そうな少数のテーマに多額の予算が集中するようになってきているように感じられる。日本の研究開発に多様性がなくなり,新たな芽が生まれにくい状況になっていくように感じられる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 508 研究者の研究時間を確保するための取組が最優先であるように思う。研究資金はこれを最大限に効率化するために配分されるべき。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 509 所属先は,公的研究機関であり国公立大学と比較すると恵まれている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 510 科研費を充足しなければ,日本の科学技術はますます衰える。ポストクを雇うための予算を作らなければ,若い研究者の卵が落ち着いて研究に専念できない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 511 研究活動を円滑に実施するための業務に従事する専門人材(リサーチ・アドミニストレーター等)の育成・確保は非常に重要であると思うが,研究職が様々な専門人材を務めるとしても,それが業務の評価につながらない。よってなり手がいない。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 512 研究遂行に伴う事務作業が増えており,事務手続きや書類作成に多くの時間がとられている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)

- 513 競争的資金を取れなければ事実上研究は出来ない、そのための申請に時間を取られる。審査に時間を取られる人もいる。さらに競争的資金を取れても、ものによっては細かい時間間隔で評価を受けなければならないし、申請計画に合わせた研究をしなければならないので、研究ではなくて”報告書を書くための作業”しかできなくなる。競争的資金システムではなくて、自由に使える研究費を薄く広く配分した方が良いと思う。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 514 競争的資金ばかり増えており、しかもその進行について官僚の関わりが非常に強くなっているせいで事務的な作業が膨大となり、研究活動が阻害されている。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 515 大学の教員に聞くと研究と教育以外の大学運営等にとられる時間が増加しているようである。このことは研究環境を悪化させていると思う。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 516 大型プログラムが多く、研究費が有力研究者に集中し、無駄が多く研究費が有効に使われていない。もっと研究費を広く配るべきである。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,男性)
- 517 基礎研究のための研究資金の維持が必要に感じる。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 518 各種省庁の公募型研究費は実質上出来レースとなっている場合も多く、新規の参入が難しい(テーマ開示から応募〆切までの準備時間が、関係者外にとっては短すぎる、公募テーマ自体が関係者向けに作られていて参入しにくい)(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 519 研究室に配分される運営費が不十分であるため、特に若手教員は秘書の雇用が難しく、若手教員が伝票処理などに忙殺される例が多い。(公的研究機関,主任研究員・准教授クラス,女性)
- 520 大学や研究機関の交付金を少なくとも以前のレベルまで戻すべきです。また、競争的資金の極度な配分をやめて、幅広く配する形式に戻すべき。大学が自由な発想で時間をかけて研究できなくなれば、将来ノーベル賞に繋がるような基礎的な発見や、真のイノベーションにつながる技術の大元は生まれません。この点においても、日本の未来は非常に暗いと考え、科学技術立国からは程遠い現状、そして未来です。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 521 研究人材の研究時間を確保するために、マネジメント業務と研究業務の厳密なエフォート管理や、研究人材のマネジメント業務軽減のためのサポート体制が必要。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 522 研究資金については、単年度会計ではなく複数年度会計で行うほうが研究開発が促進される。研究資金を各年度で分配することで、一括して試験装置をくみ上げることができないことがある。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 523 社内の研究資金については、減少の一途をたどっている。研究施設・設備については、更新するための予算申請を毎年提出しているものの、社全体の予算状況が厳しいこともあり、ほぼ期待できない状況である。近い将来、机上検討による研究しかできなくなり、研究の範囲が狭まることを危惧している。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 524 研究環境(ハード)や研究資金より、人的資源が非常に貧弱と言わざるを得ない。技術補佐員・コアラボのオペレーターなどの雇用枠・教育制度の充実は、ますます先端的になりつつある研究環境において競争力を維持するために非常に重要な課題である。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 525 潤沢な天然資源を持たない我が国では世界の先端を開発し続ける研究開発は全ての分野において必須であるため、今後も研究資金等の確保をお願いしたい。また民間企業からも研究開発にかかる資金援助等のさらなる支援をお願いしたい。これからはオールジャパン態勢で研究開発に取り組まなければ変化の激しい昨今の世界情勢の中で世界をリードできる研究開発ぞ持続することは困難であると考え。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 526 運営費交付金のように、思い付きを簡単に試せる資金の充実が必要。目的の限られた資金が多いとその管理に忙殺される。事務処理を思い切って減らす決断が必要。(公的研究機関,研究員・助教クラス,男性)
- 527 長年、基盤整備を怠ってきたため、施設が老朽化し、経費がかさむ現状にある。(公的研究機関,その他,男性)
- 528 少額でも採用数の多い方が効果的と考えられるが、大型資金化する傾向があり、一部の研究者に偏在、若手研究者が一部研究者の下で独創的でない仕事に従事等の弊害が顕著(公的研究機関,その他,男性)
- 529 研究資金は不十分であると思う。素晴らしい素質を持つ研究者の課題が埋もれてしまう。(公的研究機関,その他,男性)
- 530 あるべき姿の実現のために、環境整備や研究費措置がされているととても思えない。(公的研究機関,その他,男性)
- 531 大型の研究費事業が増えたが、一部の研究者や機関に集中しすぎている。継続案件がほとんどで、一度大型のプロジェクトに採択されると、そのまま継続していくケースが多すぎて、若手の斬新な研究テーマであっても、派閥なのか大御所の目に留まらなると新参者の道を閉ざしていることがたびたび散見される。(公的研究機関,その他,男性)
- 532 国際競争を考えると、研究費は不十分だと思います。間接経費はもっと研究に有用な使い方ができる方が良いかと思えます(公的研究機関,その他,女性)
- 533 成果に応じた資金の提供ができていないのではないかと？パラマキになっていないか、よくチェックすることを期待。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 534 公募型研究費の比率を下げるべきである。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)
- 535 研究資金は国益に繋がる未来への投資として、政府として十分な予算の手立てを考慮する必要があると思う。金融緩和により市場金利が下がっている昨今においては、財政出動の一環として、国債を発行し、その資金を教育資金同様に研究資金に充てても良いと思う。(民間企業等,社長・学長等クラス,男性)

- 536 何かしら新しい名前の寄せ集め領域を作り予算を出しているが、これでは教官の拘束時間を増やすのみで何も出てくるとは思えない。また経常設備の運転費用や技術員の配置がなく、折角作った設備が運転資金の不足で動いていない。私の専門に近い農業科学の分野についていえば実際の農業者との交流もない。これでは、実額から離れることになる。また実学に役に立つアイデアも出てくるとは思えない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 537 研究能力があり、研究課題が適切であれば、産業界は資金的にも応援する筈である。しかし、現在のように規模が小さく、研究環境の悪い大学研究者に資金援助をしても成果は生まれない。社会は大学を研究成果の供給源ではなく、単なる人材の供給源としか見ていないような気がする。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 538 自然災害・災害医療研究環境を整備しないととんでもないことになる。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 539 子育て世代への予算(税金)の振り分けが必要なことは論を待たないが、高等教育機関やそれを支える周辺組織・環境への予算の増大(最低限でも現状維持)を決断しないと数十年後には“スカスカ”の日本しか存在しないのではないかと危惧する。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 540 世界的大学ランキングで日本の地位が低下しているように、大学研究者と研究資金の減少が続いている。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 541 分配の透明性と公平性の担保(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 542 研究開発とマネジメント研究(経営学)などとの連携などがあると、技術研究開発とマネジメントを融合させておこなう。これは、お互いのチェック機能にもなるはず。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 543 個々人の研究よりも教室でのテーマが優先され、個人的な研究を目的とした研究費が申請できにくい環境にある。企業から申請できる研究費がない。分野・テーマの細分化により規模が小さくなる割に、高額な費用のかかる精度の高い、またはビックデータを扱わなければならない、効率よく研究が実施できない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 544 ピアレビューが実施されることを期待する。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 545 開発のステージが量産に近づくにつれて補助率が下がる現状は中小企業にとってはきわめて厳しい。資金力のある大企業なら見通しがついたら資金を投入するのは当然であるが資金力のない中小企業の場合現在のシステムでは開発した技術の商品化に対して大きな障害になっている(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 546 様々な助成金の仕組みがあり活用できる。しかし応用研究、実用研究に比重が偏っているように思える。大学の研究者が利用できる基礎的な研究費が拡充される必要があると思う。これに取り組むことができる学生が、基礎から考える能力を身に付けてほしい。いずれ国際的な競争力が失われる恐れを持つ。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 547 先端技術開発大手からの先端実装技術開発と試作・工業化のための幅広い技術開発に総じて 力が入っていない。この分野は、回路だけでなく、材料・機構設計など基礎技術の部分があるが そこが放り出された状態になっている。研究開発のための人材も資金も足りないで、海外から差がつけられる状況が続いている。ここにも光を当てて資金的にも充実させる必要がある。次世代AIデバイス・システムの根幹にかかわるところの一つ。抜けがあっては、学術・産業化の発展も遅れてしまう。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 548 現在、医療系で応募できる公的資金は、AMEDに集約されているが、AMEDでの公募はアカデミアに重心がおかれており、同様に資金が必要な民間ベンチャーへの対応が十分ではないのではないかと。厚労省が本年度から医療系ベンチャーへの支援に乗り出してはいるが、肝心の資金配分先のAMEDには反映されていない。長い習慣から、「出来レース」が多いのではないかと。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 549 研究費の総額は大きい方がよいと思う。しかし、現在の使い方は全く効率が悪い。即ち、有効な分配などをすれば飛躍的に成果は上がると思う。特に特定の大学が支配する配分方法、研究分野内のボス支配、など、前近代的な体制が未だに大手を振って通用するのはいかがなものか。資金配分の審査員の抜本的な入れ替えが必要と思う。また、研究者には重荷の手続きの問題がある。労力を無駄に使っている。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 550 中途半端な感じがしてならない。不平がでないようにある程度均一にバラまいているのは分かるが、そのせいで芽がでても事業まで育たない。国際的な競争力を持たせるには、1,2つでも少数精鋭でしっかり育てる必要があるように思われる。例えば、昨今の半導体業界や家電で国内で生産しているものがどれだけあるのか? 具体的には、太陽電池は斜陽、有機ELはダメだし、フレキシブル太陽電池もダメになりそう…(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 551 実用化に向けた研究開発資金が十二分とは言えないと思います。世界の優良企業はこれぞと判断できる実用化案件には、100億円単位で開発費を付け、3年程度の早期解決・達成を目指す場合が多い。技術(特許)保有者が実用化を最優先とするならば、その世界企業と組み、実用化を達成することができることになる。技術に国境がなくなっている昨今の状況を鑑みて、研究資金の使途に一考が必要だと思います。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 552 地方の中小企業等は政府の公募型研究費の採択方法がよくわからないように思われる。大学や大手企業に偏っているように思われる。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 553 アカデミアに対する研究資金の投入にともないアウトブット創出までの猶予期間が短くなっており、本質的な研究を行う基盤が脆弱になりつつある。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 554 研究資金は色々のプログラムで提供されているが、インパクトのあるアイデア、技術シーズが提案されてこないのが一番の問題である。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 555 研究資金を得るためのペーパーワークが多く、学者や学生が研究に集中できる体制になっていない。研究に集中できるようなサポート体制をしっかり構築する必要がある。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 556 資金そのものよりも、成果に対しての評価がはつきりしない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)

- 557 人口が減少し、資源もない日本において、今後世界と対抗していくために必要な最重要項目は知的財産(基礎研究から応用まで)だと思うが、予算は頭打ち、留学生も減り、論文数も減っている現状を危機的に感じる。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 558 実証化研究への配分が多くなっており、制約条件が厳しい予算が多い。もう少し制約の少ない実証化前のステージの研究課題への資金配分を増やしてほしい(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 559 不正支出の事例があるので、支出のあり方を形式的に厳しくすることは不可避な側面があるが、それにしても必要な時に必要なことになかなか使えないような感じが残る。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 560 我が国の…という思想は現世には合っていないのではないかと? グローバルの中の日本…我が国は、の発想に頂きたい。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 561 大学等においては間接経費が多すぎる。もっと研究者に資金が回るようにしてもらいたい。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 562 財源の問題ではなく、受け皿数(大学の数, 研究所の数)の問題だと思う。受け皿を減らさないと全体の価値が低下する。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 563 大学, 研究室の偏りが見受けられる(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 564 どこで国力を上げるかという観点での長期的な取り組みがないので単発的な取り組みとしか思えず、資金等も一過性のものを感じる。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 565 産業から見ると研究の枠が、大企業よりになっていないか? 内閣府や経産省での取り組みでは、十分なケアはできない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 566 企業の研究開発を支える大学, 研究機関での研究と人材育成や交流, 研究開発環境整備への資金をもっと増やすべき。北米や欧州(ドイツ等)に比べ劣っているように感じる。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 567 国の科学技術関係の予算は、非常に不足していると感じます。特に基礎研究分野に対する予算をもっと多くしないと、技術立国の将来はないと思えます。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 568 研究者の給与や間接費を充実し、研究の場を他の大学に移っても持参できるように。現在の仕組みは、トップ大学重視, 有名教授の権力を強める方向で、望ましくない。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 569 競争的資金の獲得に研究者が奔走するようになり、研究を進める時間を削られるという本末転倒の状況が発生している。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 570 資金不足という意味で環境は良いとは言えない。人, もの, 金でインフラ環境が決まりますから。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 571 特に研究資金の支出条件に於いて「出口(企業)」の設定を義務付ける場合が多いが、それ自身が研究環境を歪めている感がある。それが為に本来研究資金を必要としている「要素技術研究分野」の発展を妨げている。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 572 研究資金については、やはり少ないと思う。成果を性急に求めるあまり、表面的な研究になってはいないか?(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 573 研究そのものではないが、それを支えている事務方の充実や待遇向上が必須と思う。先生方のいわゆる雑用が多く、研究そのものや教育への専念が十分できない状態と感じる。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 574 公募型研究制度が多種多様化が進みすぎて、小粒になっている。分かりにくい。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 575 1. 公募型研究費はかなり確保されてきたが、科学技術に関する政府予算全体が不十分。そのため多くの研究者がスポイルされ、長期的なテーマを含め全体の研究環境は劣化している。競争的研究資金はどうしても短期志向になりがち。独創性のある研究者の芽を摘んでいないか。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 男性)
- 576 科学技術における日本のポテンシャルはとても高いと思います。この高度な技術を世界で活用させていくためには、プロダクトイノベーションに対する研究資金を産業界でも、もっと活用させて頂き、世界に戦える企業を増やさなければならないと思います。また、私達産業界も国の取組に対してもっと積極的に挑戦する姿勢が必要と思っています。(民間企業等, 社長・学長等クラス, 女性)
- 577 研究をもっと広く国民に知ってもらうためにも、「ふるさと納税」的に寄付をしてもらうことをもっと積極的に検討して良いのではないかと。そうすることで、研究者も「わかりやすく」研究を伝える必要性を認識するのではないかと思料します。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 578 日本が、科学技術立国と考えており、今後も、継続的な成長をしていくのだとすれば、少ないように思います。(単純ですが、防衛費よりも多くいいように思います。)別の視点として、米国には日本にはない軍事産業が大きな比率を占めています。この軍事研究が、研究開発を推し進めていることも否めなく、公的機関だけでなく企業にも軍事研究の研究費が出ていることを認識しておく必要があります。)また、単なる金額だけではなく、研究者に加わる研究以外の事務や管理にかかる負担を軽減するというのも大事です。よく現場を知ること、研究効率を上げられれば、研究予算を増額したと同じことになります。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 579 ハイリスク, 長期的研究テーマでの研究資金・環境に懸念がある。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)
- 580 社会情勢やグローバルニーズはすぐ変わる。いかにタイムリーに限られた資金を必要なテーマに投下できるか。素早い行動と見極め。(民間企業等, 部長・教授等クラス, 男性)



- 581 研究費の管理が厳しすぎる。途中で変更できないなどのケースがある。研究は計画通り進まないケースもあり科目等変更しやすいような運営を期待します(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 582 エネルギー・インフラ分野のような長期的に取り組むべき研究は政策の展望が見えづらいこともあり予算も安定していないと感じます。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 583 海外はもっと投資をしているように感じます。中国や韓国はアメリカでの学会でも多くの発表をしています。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 584 研究開発のための資金は良いが,その後の実用化のために必要な費用(企業としては投資リスクの大きい治験に係る費用など)が乏しいので,実用化まで到達できない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 585 課題解決型の大型研究資金への傾斜が極端。安全保障技術推進制度が端的な例だが,目的を絞りすぎた研究資金への集中が行きすぎている。長期,総合的な視点からは,多様性こそが革新的な研究を育てるはず。政策目的にかなう研究だけを過度に奨励する政策は,研究環境から多様性を奪い,かえって真のイノベーションを遅らせかねない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 586 ・厚生労働科研費の決定や評価の仕組みが不透明である。成果の公表も文科省に比べ不十分である。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 587 研究資金は,実用化の確度に重きを置いたモノが多く,そのため,本来は企業が担い手となるべき課題を大学など研究機関が実施している奇妙なねじれが起こっている。企業はそれにあぐらをかいて,自社の開発(に割く予算)を如何に軽くするかに注力し,一方で,大学等に所属している研究者が実用化研究に躍起になっているため,近年のノーベル賞受賞が続いている状況が,先細りしていく状況しか想像出来ない。政府こそ企業ではリスクの大きな研究や開発を支援すべきであり,大学等研究機関も同様に実用化はまだ先の先,ぐらいのテーマに取り組むことが出来る状況が望ましいと思う。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 588 世間ではやりの技術テーマに対して予算配当されているように見える。大学での研究テーマが目先の応用研究に偏ってきており,大学の基礎研究能力が低下している原因になっていると思われる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 589 流行の研究,世間でもはやされている研究に対して,資金が流れがち。より基礎的な研究に対する資金補助をもっと行うべき。また,大学の先生が資金獲得に血道を上げているように感じられ,もっとも重要な研究業務に割られるべき時間を浪費しているのではないか。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 590 科学技術の政府予算が,全て「結果」や「アウトプット」を重要視しすぎるくらいがあるため,基礎研究として行うべきテーマが,成果重視の無理な研究計画にゆがめられてしまっている場合があるように感じます。特に,科研費やCREST,さきがけ,などの基礎研究を自由に行えることが,日本の科学技術を支えるために重要だと感じます。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 591 公募型研究費は期限が定められています。一方で,継続的に開発が必要な大型研究がいろいろ存在します。公募型研究の選定にあたって,継続性という観点についても重きを置いていただけると幸いです。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 592 日本の研究資金については,民間企業の割合が高いこと,防衛費がほぼないこと等,独自性を慎重に検討する必要があります。ただ純粋な政府支出のみを諸外国と比べても,全体額で見劣りする水準であることは明確なため,政府にはより一層の科学技術への重点投資をお願いしたい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 593 企業ができない基礎的研究にも多くの国の予算を費やすことを望む。競争的資金はやや課題解決型,応用研究型の比重が高すぎるように思う。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 594 研究資金は米国に及ばないものの十分である。しかし,その活用を促す資金は十分でなく民間資金に依存している。全体最適化を求めるならば,研究資金を減らしてでもその社会還元のための資金を確保すべきだと考える。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 595 公募型研究費の経理における手続き・手間が多く,これらに関わる時間・経費が多く掛かっているように感じる。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 596 電機メーカー等,民間の競争力が落ちていると認識しています。基礎研究は勿論,商品開発レベルで大きな遅れがあると思います。基礎研究では国の支援をより拡大していくべきだと思います。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 597 出口のある開発も必要だが,一見不必要な研究への支援も多様性のためには必要。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 598 組織体組織の本格的な産学連携として,企業から資金を提供しても,さまざまな規制で使い切れず(調達が遅く手続きが複雑かつ時間がかかる),現在の研究環境としては国際競争力で劣る。海外大学と同資金でやるならば,海外大学の方が短期的には優れているように思わざるを得ない場合が多い。一方で,信頼性や透明性は高く,少ない資金で工面して研究を行う姿勢はすばらしい。変化や進展の激しいなかで,イノベーションを創出する研究環境にあるかといえば疑問符がつかざるを得ない。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 599 資金の割り当てに関する問題も多々あると思われるが,研究活動の継続性への支援やその研究内容の評価の方法論や結果について問題があるのではないか。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 600 競争的研究資金は十分にも思われるが内容が社会ニーズとマッチしているかは疑問。まずは競争的資金よりも気軽に研究に取り組めるための通常の経費を増やすべき。地方大学の現状は深刻と認識している。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)
- 601 ・大学TLOなどは共同研究の成果に対しても権利を大きく主張し,一方で事業化のコストやリスクは企業側にのみ負担を強いようとする体質がある。・大学助成金や科研費など日本の公的研究費を受けた研究成果を発表した際には,日本で税金を納めている企業にも公開論文や学会発表の情報を無償で提供してほしい。海外の出版社に多額の費用を払わないと,日本の税金を使った研究成果が閲覧できない状況はおかしい。文科省・厚生省なども,研究成果の無償公開の仕組みを整えたり,研究成果発表のオープンソース化を公的研究機関に義務付けるなどの政策を実施してほしい。(民間企業等,部長・教授等クラス,男性)

- 公的研究機関が保有する最先端の大型共用研究施設・設備は、民間企業(産業界)が活用する必要性があまり感じられないものもありますが、学術研究には必須であり、そこで生まれた知見が後に民生利用されることになるため、学術研究に有用なものを積極的に投資していただきたいです。科学技術に関する政府予算は少なすぎるため、精力的に予算化して研究している中国等との競争に負ける日も近いと危惧されます。学生数の減少を理由に大学等の研究資金が減少していますが、日本の産業競争力維持のためには研究資金の大幅アップが必須です。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 602
- 603 大学の先生が好きなことをするために予算を使うのではなく、日本の向かう方向性を決めて、そこに予算を集中すべき。産業や国防の方針を決めて、大学の講座を作り、教授を育てて、研究を集中させる。国がやるべきことだと思う。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 604 大学の学術研究においては、ハーバード大学のイノベーションセンターのようにわずか6年弱で4300件のベンチャーイベントを開き、そのうち75社が金融市場から330億の資金を調達するに比べ(10%/年利益の黒字運営)、日本の大学には資産運用のプロがいない。政府のみの資金(税金)構造では、本当の競争力があるベンチャー企業は生まれ難い。そもそも卒業生が母校に誇りを持てるような教育と、資金運用による研究成果やプロセスの見える化があれば、寄付金もより積極的になるのではと思われる。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 605 基礎的な研究、応用研究 ともに、新たな研究が進められる研究者とすでに実績があり、広がり期待する資金援助は、別に考えられるとよい。前者は、期待度で見極めることが難しいが、この成否が、最も効率的な資金運用になる。後者は、ほぼ資金の垂れ流しになる可能性を含む。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 606 研究の目的や面白さを十分に理解できるような環境作りをしてほしい。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 607 研究者へのインセンティブが十分ではないように思える。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 608 成功確率の少ない最新・最先端技術ばかりを対象にするのではなく、既存技術を大きく効率化したり、劇的に改良・改善するような技術も対象とするような制度があればいいと思います。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 609 研究費の配分を行う責任部門自身が何らかのレビューを受けることが必要。研究費を配分した結果の経済効果もしくはインパクトファクターなどで、その部門が年々日本の研究レベルの向上に効果を上げている姿が描けないのか？効果を上げられない、もしくは年次の改善がみられないようであれば、人員もしくは配分の選定基準を変えるべきである。(民間企業等、部長・教授等クラス、男性)
- 610 今、政府の公募型研究費の助成率は公的な機関に100%ですが、民間企業に2/3です。民間企業は政府の研究費を利用するのは開発できたものを早めに製品化するとしての目的が多いです。一般の中小企業にて新製品開発段階で多く資金も使用したので、製品化段階で資金不足は事実です。もし政府の研究費を100%で支援すれば、製品化の進捗は加速になると間違いなく思う。(民間企業等、部長・教授等クラス、女性)
- 611 研究資金の使途をより明確化し、透明性を向上することが必要。また、公募型の場合は、交付金が有効に使用されているかどうか、申告された成果の判定基準を明確化する必要がある。(民間企業等、部長・教授等クラス、女性)
- 612 公募型研究費の使用費目の変更や繰越が更に容易になると良い。研究目的で使用していることには違いないのに、適正な用途への振り替えが不正と見做される恐れがあるようでは利用しにくい。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 613 開発的、見えている研究テーマに対して資金配分は、事業活動を行う企業にとっては当然であるが、公的研究機関においてその比重が高まるのは考えなければならないのでは？企業においても目先の成果にとらわれた研究資金の使用傾向が強まってきていると感じる。日本全体の将来科学技術発展の障害となるのではと危惧される。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 614 政府の公募型研究費やそれによる施設・設備の使途について、当該研究での使用に限定されるものであるが、関連性を有する企業の独自研究開発への共用が一定程度は認められると全体のレベルアップに有効である。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、女性)
- 615 配分が理学系に厚く、工学系に薄いと思います。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、男性)
- 616 理系と文系との格差がある。文系に対して薄い。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、女性)
- 617 日本のデータベースが不十分と思われる。特に、分野が異なると(例えば生物から工学)wordが異なるため、色々な情報を集めることができない。バイオミメティクスのための情報を集める際にいきずまってしまった。(民間企業等、主任研究員・准教授クラス、女性)
- 618 例えば遺伝子関連/IoT関連といった一部テーマにのみ研究資金投入がされており、飛躍的に成果を出すには最良策とは思いますが、それ以外の分野は先進的、進歩的であっても予算が取りにくいといった印象がある。(民間企業等、研究員・助教クラス、男性)
- 619 産業に結びつく研究など、その時の流行に流されて研究資金の割り振りが決められているように感じる。日本としての重要分野を継続的に進める上でも、ポリシーを持ち、状況に流されない環境づくりが重要と考えます(民間企業等、研究員・助教クラス、女性)
- 620 各国と比較しても、現状でそれほど悪いとは言えない。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 621 研究資金の総額については、日本の置かれている状況、すなわち少子高齢化に伴う社会保障費の増大、また財政や経済状況等を考えれば、現状ではやむを得ないのではないかと、少ないと嘆くのも理解はするが、むしろ集め方、使い方に創意工夫を凝らすべき時なのではないか。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 622 大学運営費を下げていくのであれば、厳正な審査の基、研究費は差があっても良いと思われる。ただ、首都圏中心の審査委員の配置では、地方は救われない。地方優先の少額研究費の政策もあって良いのでは。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)
- 623 我が国は基礎・応用研究比率が米国並みであり、欧州に遠く及びません。開発研究から基礎への回帰を考えてもよいかもしれませんが、一方、バイオテクノロジーに焦点を当てているところは独自性があり、評価できます。(民間企業等、社長・学長等クラス、男性)